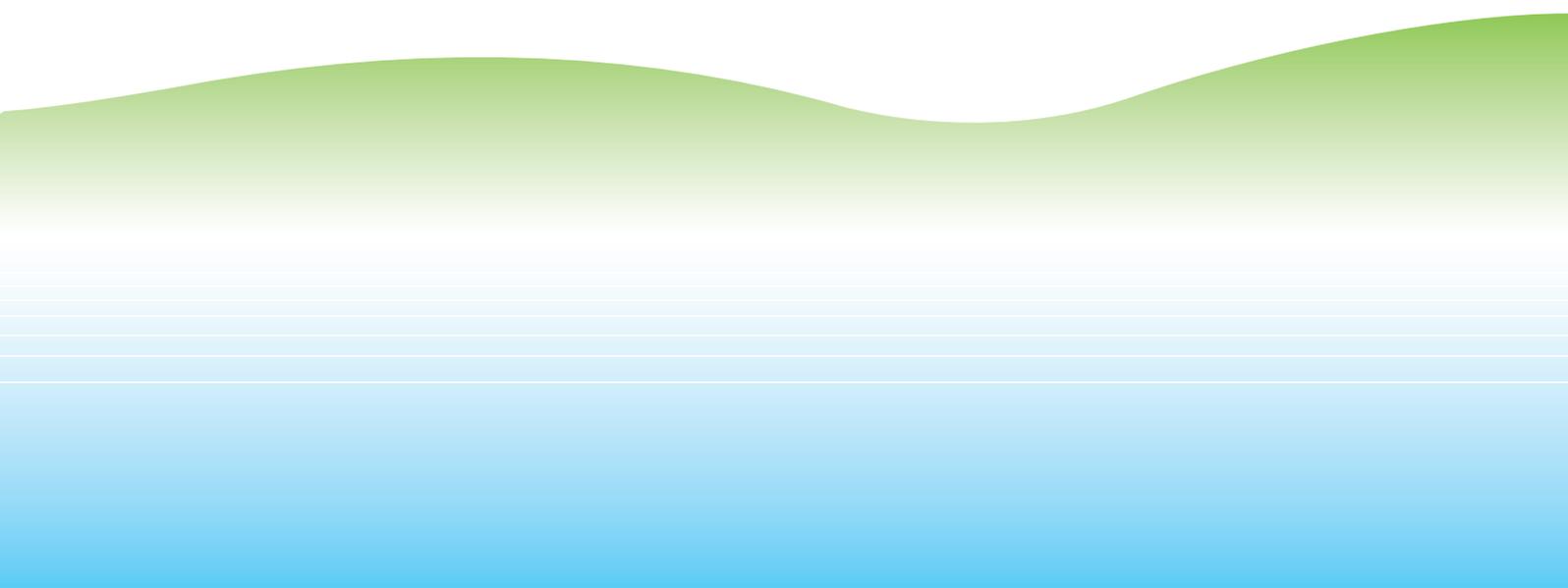


年報 京都大学フィールド 科学教育研究センター

Annual Report

Field Science Education and Research Center,
Kyoto University

No.22 2024



年 報

京都大学フィールド科学教育研究センター

第22号

2024

目次

1. フィールド研の概要

(1) 組織.....	1
(2) 施設等.....	2
(3) 教育研究部.....	3
(4) 技術室.....	5
(5) 事務部.....	5
(6) 2024年度の活動（総括）.....	6
(7) 2024年度の主な取り組み（日記）.....	7

2. フィールド研の活動

(1) フィールド研2024年度の主な取り組み	
1) 第9回森里海シンポジウム「里山里海の今を知る」.....	14
2) 京大フィールド研×パナソニック「研究交流会」.....	15
3) 芦生研究林斧蛇館リニューアル.....	16
4) 和歌山研究林「100年目からの新たな歩み～99年を振り返る～」.....	17
5) 伊佐津川水域での環境DNA調査.....	18
6) 白浜水族館の広報集客活動とグッズ作成.....	19
7) 里山の土壌を知るプロジェクト 第1回 中間報告会&交流会.....	20
(2) 実習報告	
1) 少人数教育科目群 ILASセミナー 「木文化再生－森林から都市へ」.....	21
(3) 全学共通科目.....	22
(4) 大学院教育・学部教育.....	23
(5) 教育関係共同利用拠点事業	
1) 公開実習科目一覧.....	27
2) 舞鶴水産実験所における教育関係共同利用拠点事業（舞鶴）.....	28
3) 黒潮海域における海洋生物の自然史科学に関するフィールド教育共同利用拠点（瀬戸）.....	29
4) 人と自然のつながりを学ぶ森林フィールド教育共同利用拠点（芦生・北海道・上賀茂）.....	30
(6) 研究活動・外部資金の獲得状況.....	31
(7) 社会連携活動	
1) フィールド研主催事業.....	37
2) フィールド研共催・後援事業.....	37
3) 各施設等主催共催事業.....	37
(8) 広報活動	
1) フィールド研の刊行物.....	38
2) 施設等の刊行物.....	39

3. 各施設等の活動

(1) 各施設等の活動概要	
1) 芦生研究林.....	41
2) 北海道研究林.....	42
3) 和歌山研究林.....	43
4) 上賀茂試験地.....	44
5) 徳山試験地.....	45

6) 北白川試験地.....	46
7) 紀伊大島実験所.....	47
8) 舞鶴水産実験所.....	48
9) 瀬戸臨海実験所.....	49
10) 森里海連環学プロジェクト支援室.....	49
11) 企画情報室.....	50
(2) 各施設を利用した学生実習等.....	51
(3) 各施設を利用した社会連携教育および野外学習等.....	55
4. 教職員の活動	
(1) 研究成果.....	57
(2) 他大学・各種学校の講義・実習.....	57
(3) 学会等における活動.....	58
(4) 社会貢献活動.....	60
(5) 国際活動.....	66
(6) 研修参加・資格取得等.....	67
5. 資料	
(1) 職員配置表.....	69
(2) 常設委員会名称および委員一覧.....	70
(3) 全学委員会等.....	71
(4) 運営委員会.....	72
(5) 協議委員会.....	72
(6) 教育関係共同利用拠点運営委員会.....	73
(7) 新聞・雑誌等に掲載された記事.....	74
(8) テレビ・ラジオ等で放送された番組.....	76
(9) 各施設利用者数.....	77
(10) 瀬戸臨海実験所附属水族館月別入館者数.....	77
(11) 人事異動.....	78
(12) 規程の改正等.....	80

1. 概要

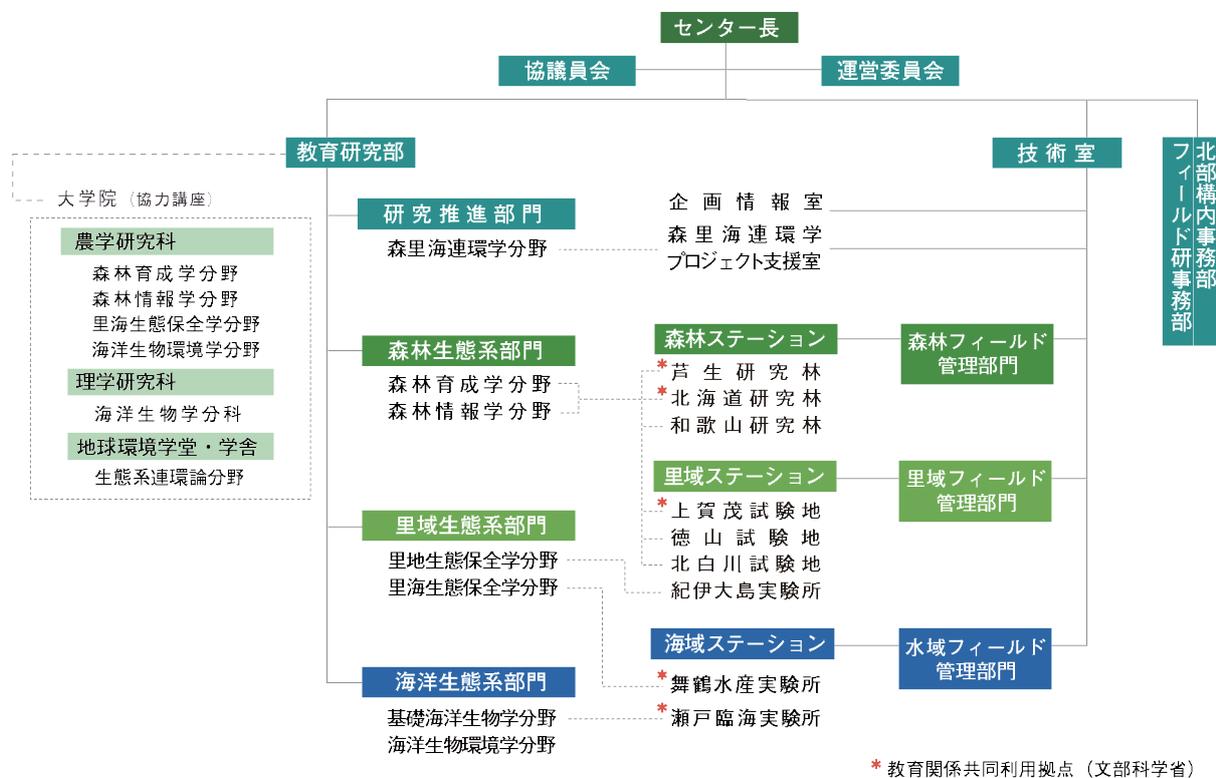
(1) 組織

フィールド科学教育研究センター（以下、フィールド研）は、京都大学が長年に亘って森林域、里域、海域の研究現場としてきた9の施設によって構成される。各施設は、太平洋側から日本海側に至る近畿圏を中心に、北海道から山口県までの広域に位置する。「森里海連環学」を教育研究の中心においている。

フィールド研は、学内共同教育研究施設として各研究科の学生の教育、教員による研究の支援を行うとともに、全学共通教育への科目提供、農学研究科、理学研究科へ協力講座として参画して大学院教育および学部教育を行い、大学院地球環境学舎へ協力分野として参画している。また、学内外の学生や研究者の教育研究を支援しており、5施設（3拠点）が文部科学省から教育関係共同利用拠点に認定されている。吉田キャンパス北部構内に森林系図書室、瀬戸臨海実験所に瀬戸臨海実験所図書室を有する。

教員は教育研究部に属し、森—里—海の連環を軸とした教育・研究を進めている。技術職員は技術室に属し、フィールドの管理・運営および基礎情報の収集、情報管理、技術開発、教育研究支援を行っている。事務職員は、フィールド研事務部および共通事務部である北部構内事務部に属している。フィールド研本部は本学吉田キャンパス北部構内に置かれている。

センター長 館野 隆之輔 (2024. 4. -)
副センター長 益田 玲爾 (2024. 4. -)



(2) 施設等

森林ステーション

- 芦生研究林 京都府南丹市美山町芦生 林長 石原 正恵
1921年設置（農学部附属芦生演習林）／面積4,185.6ha／ 常駐教職員11人
- 北海道研究林 林長 小林 和也
標茶区 北海道川上郡標茶町多和553
1949年設置（農学部附属北海道演習林標茶区）／面積1,446.8ha／ 常駐教職員11人
白糠区 北海道白糠郡白糠町西二条北8-1-10
1950年設置（農学部附属北海道演習林白糠区）／面積880.4ha
- 和歌山研究林 和歌山県有田郡有田川町上湯川76 林長 徳地 直子
1926年設置（農学部附属和歌山演習林）／面積842.0ha / 常駐教職員3人
(2025年1月18日契約期間満了によってこのうち地上権部分を返還)

里域ステーション

- 上賀茂試験地 京都市北区上賀茂本山2 試験地長 坂野上 なお(2024.4.-)
1926年設置（農学部附属演習林上賀茂試験地）、1949年移転／面積 46.8ha／ 常駐教職員7人
- 徳山試験地 山口県周南市徳山鉢窪10769 試験地長 徳地 直子
1931年設置（農学部附属徳山砂防演習地）、1942年移転（農学部附属演習林徳山試験地）、1966年再移転
／面積 41.9ha／常駐教職員0人
- 北白川試験地 京都市左京区北白川追分町 試験地長 舘野 隆之輔(2024.4.-)
1924年設置（農学部林学科苗畑）1925年所管替（農学部附属演習林本部試験地）／面積1.3ha／常駐教職員2人
- 紀伊大島実験所 和歌山県東牟婁郡串本町須江 所長 伊勢 武史(2024.4.-)
1940年設置（農学部附属大島暖帯植物試験地）、1967年改称（亜熱帯植物実験所）／面積11.8ha／常駐教職員0人

海域ステーション

- 舞鶴水産実験所 京都府舞鶴市長浜 所長 益田 玲爾
1947年設置（農学部水産学科）1972年設置（農学部附属水産実験所）／面積2.0ha／ 常駐教職員8人
- 瀬戸臨海実験所 和歌山県西牟婁郡白浜町459 所長 下村 通誉
1922年設置（理学部附属臨海研究所）、1930年水族館一般公開開始、1938年改称（瀬戸臨海実験所）、
1968年島島実験地を取得／面積6.8ha（島島実験地2.7haを含む）／常駐教職員14人

(京都本部地区（吉田キャンパス北部構内） / 常勤教職員 18人)

会議室・センター長室・森林系図書室・研究室・実験室・事務室など : 農学部総合館
j.Pod（京大フレーム工法）実証実験棟 *
連携研究推進棟 *・北部総合教育研究棟
隔地教員研究室 : 旧演習林事務室棟 *
森林/里域フィールド管理部門・森里海連環学プロジェクト支援室 : 北白川試験地事務室棟 *
* 北白川試験地内

(3) 教育研究部

教育研究部は、研究推進部門、森林生態系部門、里域生態系部門、海洋生態系部門の4部門、7分野から構成される。

研究推進部門

本部門では、森里海連環学に関わる研究プロジェクトや教育活動を実施している。この部門には、森里海連環学プロジェクト支援室が設置されており、フィールド調査や化学分析を支援している。

森里海連環学分野

日本の沿岸域生態系は、多様な海洋生物を育んできたが、近年は深刻な問題を抱えるようになった。人間の過剰な経済活動が、水質汚染や藻場・干潟の消失を引き起こし、ダム建設、埋立や河川横断構造物建設といった経済開発による水・砂の流系の分断が生態系間のつながりを破壊している。当分野では、森里海連環学を通して、森から海までのつながりと人間の関わり方を統合的に管理していくことによって、問題の解決を図ろうとしている。

[教員] 赤石 大輔 (連携准教授)

森林生態系部門

本部門は、3ヶ所の研究林と3ヶ所の試験地の管理と運営を担当し、森林生態系に関するフィールド教育・研究活動を展開している。生態系サービスや多面的機能の定量的評価や社会的評価を目標として、森林生態学、森林育成学、森林管理学、生物地球化学などさまざまな分野にわたる手法と概念を用いて総合的に解析している。森里海連環学への取り組みとして、森林生態系と水域生態系間の生物と物質のつながりも研究している。

森林育成学分野

森林育成学分野では、森林生態系サービスをバランス良く享受できる森林資源の育成と管理、利用方法の構築を目的とし、窒素等の物質循環を通じた森林生態系機能と更新機構を中心とした森林動態の解明に関する研究を行っている。さらに、シカによる植生被害の影響および対策や、生態系情報に基づく持続可能な森林資源の育成・利用方法に関する技術的研究にも取り組んでいる。当分野は、協力講座として農学研究科に森林育成学分野を提供している。

[教員] 徳地 直子 (教授) ・長谷川 尚史 (准教授) ・伊勢 武史 (准教授) ・石原 正恵 (准教授) ・
佐藤 弥 (連携准教授) ・田中 拓弥 (特任講師) (2024. 4. -) ・鈴木 華実 (助教) (2024. 10. -) ・
張 曼青 (特定助教)

森林情報学分野

森林情報学分野では、森林から流域に流出する物質と森林環境の関係や、伐採等の人間活動が植生・土壌・流域の物質循環系におよぼす影響など、森と流域の連環について研究している。さらに、国産材の流通・消費の変化を解析することで、適切な森林資源の管理手法を検討している。これらの研究をもとに、地球環境変化や社会環境の変化もとの森林流域生態系の変化を把握するとともに、適切な森林利用と管理をするために人びとの森林環境に対する意識調査に取り組んでいる。当分野は、協力講座として農学研究科に森林情報学分野を提供している。

[教員] 館野 隆之輔 (教授) ・吉岡 崇仁 (特任教授) ・小林 和也 (准教授) ・坂野上 なお (講師) ・
松岡 俊将 (講師) ・中西 麻美 (助教) ・杉山 賢子 (助教) ・横部 智浩 (特任助教)

里域生態系部門

山間部から沿岸部に至る広く、変化に富む地域は、人間の関与が様々な強度で継続しており、自然と人間の相互作用、もしくは人間と自然との共生によって生み出される特有の生態系を形成する。この生態系には、農業、林業、水産業という人間の生活を維持するために必要な基本的な生業による二次的自然が含まれるほか、居住域としての農山漁村や都市も含まれる。これらの人間が与えるインパクトを把握することは、現在の地球環境問題の本質の把握にも通じるものであり、本部門ではそのために不可欠な人間-自然相互作用環の解明を多くの視点から実践し、その共生システム構築のための教育研究を行う。

里地生態保全学分野

里地生態保全学分野では、人里と一部に里山や里海、里空を含む、いわゆる里地に分布するかく乱依存性植生ならびにかく乱依存性植物の起源、伝播、歴史および生態的特性を、文明や地域文化的多様性とその変容と関連付けながら明らかにし、それらの管理保全体系ならびに持続的共存に関して考察をしている。

[教員]

里海生態保全学分野

里海生態保全学分野では、魚介類の生態、行動、系統分類などについて、多様な視点から研究を進めている。また、陸域の環境と人間活動が沿岸域の生物生産機構に与える影響を調べている。森から海までの生態系のつながりの分断によって、海の生態系が劣化しているという仮説を検証し、そのメカニズムの解明をめざす。当分野は舞鶴水産実験所および教育研究ユニット生物多様性・生態学的メカニズムグループ（吉田キャンパス）を教育研究の拠点とし、協力講座として農学研究科に里海生態保全学分野、地球環境学舎に水域生物環境論分野を提供している。

[教員] 益田 玲爾（教授）・甲斐 嘉晃（准教授）・鈴木 啓太（助教）・邊見 由美（助教）・
八柳 哲（特任助教）（2024. 4. -）

海洋生態系部門

本部門では、海洋生物を研究材料として用い、分類学、進化生物学、発生生物学、生理生態学、生物地理学といった様々な基礎生物学的な研究教育活動を、分子レベルから生態系レベルにわたって広範囲に展開している。更にその研究フィールドを熱帯域・北方域へと地球規模に広げながら、環境生物学や保全生物学といった応用的な領域へと、その教育研究活動の内容を拡大している。

基礎海洋生物学分野

基礎海洋生物学分野では、海洋生物の多様性と進化プロセスを解明するための自然史研究を行っている。系統分類学は、形態および分子レベルにおける系統と分類学の研究、および、生物地理、地史をも含め、系統地理学、進化的研究を進めている。機能形態学では、比較形態学的研究や、発生学、分子生物学的手法による形態形成のメカニズムを解明する研究を行うとともに、海洋生物の多様性を保全するために、多様な生物が環境の変動に対してどのように反応するのかを明らかにするべく、研究を行っている。当分野は瀬戸臨海実験所を教育研究の拠点とし、協力講座として理学研究科に海洋生物学分科を提供している。

[教員] 下村 通誉（教授）・朝倉 彰（特任教授）・中野 智之（准教授）・河村 真理子（特定講師）・
後藤 龍太郎（助教）・山守 瑠奈（助教）

海洋生物環境学分野

海洋生物環境学分野では、海洋をはじめ、湖沼や河川を含む水圏における、持続的な生物生産をもたらす水圏生態系の仕組みや、その変動機構ならびに水圏生態系に生息する魚類や海産ほ乳動物などの行動生態を研究している。そのための手法として、安定同位体分析、生態系モデルによるシミュレーションならびにバイオテレメトリーやマイクロデータロガーによるバイオリギングを用いた研究を行っている。当分野は、時限的にフィールド研にも所属する農学研究科からの流動分野である。

[教員] 三田村 啓理（教授）・山下 洋（特任教授）・荒井 修亮（特任教授）（2024. 4. -）・
市川 光太郎（准教授）・小林 志保（助教）・高木 淳一（特任助教）（2024. 4. -）

(4) 技術室

技術室は、京都大学事務組織規程の2024年10月改正によって設置された。企画情報室、森里海連環学プロジェクト支援室と、森林、里域、水域の3フィールド管理部門からなる。フィールドの管理・運営および基礎情報の収集、情報管理、技術開発、教育研究支援を行う。

技術室長 境 慎二郎 (2024.10.-)
技術室長補佐 藤井 弘明 (2024.10.-)
技術室長補佐 加藤 哲哉 (2024.10.-)

企画情報室 室長 三田村 啓理
森里海連環学プロジェクト支援室 室長 徳地 直子

森林フィールド管理部門 部門長 境 慎二郎
○芦生研究林管理技術班
○北海道研究林管理技術班
○和歌山研究林管理技術班

里域フィールド管理部門 部門長 藤井 弘明
○上賀茂試験地管理技術班
○徳山試験地管理技術班
○北白川試験地管理技術班
○紀伊大島実験所管理技術班

水域フィールド管理部門 部門長 加藤 哲哉
○舞鶴水産実験所管理技術班
○瀬戸臨海実験所管理技術班

(5) 事務部

フィールド研の事務は、フィールド科学教育研究センター事務部が担っている。また、共同事務部である北部構内事務部の各担当部署がフィールド研の業務を所掌している。

フィールド科学教育研究センター事務部	事務長	尾田 直之
	課長補佐	松原 努 (2024.04-)
北部構内事務部 (フィールド研担当部署のみ表示)	事務部長	小川 交洋 (2024.04-)
総務課	人事掛、給与掛	総務課長 野田 航多
	農学研究科等総務掛	
管理課	管理掛、財務掛、研究推進掛	管理課長 谷内 秀樹
経理課	フィールド研経理総括掛	経理課長 奥山 諭
	芦生研究林事務掛	
	北海道研究林事務掛	
	瀬戸臨海実験所事務掛	
	運営費・寄附金掛、旅費等経理事務センター事務掛、 産官学連携掛、科学研究費等補助金掛	
施設安全課	施設掛、設備掛、安全管理掛	施設安全課長 菊本 恵二 (2024.04-)
教務・図書課	農学研究科等学術情報掛*、共通図書掛 (* 森林系図書室を所掌)	教務・図書課長 尾田 直之
国際室	国際企画支援掛	国際室長 江田 修身
学術研究支援室	北部地区担当チーム	

(6) 2024年度の活動（総括）

センター長／森林情報学分野 教授 館野 隆之輔

フィールド研は、教育面では、農学研究科、理学研究科および地球環境学舎の協力講座、協力分野として、研究科の教育ならびに学部教育に貢献している。さらに全学教育に関しては、統合科学科目群「森里海連環学分野」の講義科目、実習科目を提供するとともに、ILASセミナーを多数提供している。他大学の教育に関して、舞鶴水産実験所、瀬戸臨海実験所、芦生研究林・北海道研究林・上賀茂試験地の3拠点が文部科学省の教育関係共同利用拠点に認定され、他大学の实習科目や他大学学生・院生による論文作成のための利用を多数受け入れている。これらの拠点がそれぞれの専門分野における全国の大学が活用するハブ機能を有する場として活用されているのは誠に喜ばしく、ますますの発展を期待したい。

2024年度は、1926（大正15）年1月に99年間の地上権が設定されたことに始まる和歌山研究林が、2025（令和7）年1月に地上権設定の期限を迎えることになり、所有者に返還することとなった。11月28日に有田川町清水文化センターにおいて、和歌山研究林 地上権返還記念イベント「100年目からの新たな歩み～99年を振り返る～」を開催し、有田川町の林業や教育に関わる地域の皆様や、かつて和歌山研究林で研究を行った卒業生、研究林に勤務した職員OBなどが参加し、これまでの地域の皆様の協力に感謝を示すとともに、今後も地域との連携を絶やさず、大学の窓として活動していく決意を示した。

また、フィールド研はこの数年間に定年退職を迎えた教員が多く、それに伴い組織が大きく若返った。新しい体制を築いていく上で、構成員同士の交流が欠かせないため、2024年12月19日に、百周年時計台記念館国際交流ホールにて長らく実施していなかった教員集会を開催した。さらに教員集会と合わせて、京大フィールド研×パナソニック「研究交流会」を開催し、フィールド研構成員の研究紹介や施設・プロジェクトの紹介、パナソニックの研究紹介などを含むポスターポスターセッションを行い、お互いの研究を知るとともに、新たな研究テーマの発掘につながる流れが生まれた。

また本年はフィールド研と公益財団法人イオン環境財団による「新しい里山・里海 共創プロジェクト」の3年目にあたる。今年度は、従来のイオンモールを使った「里山里海つながるフェス」、オンライン勉強会、隔地施設によるイベントなどに加えて、「里山の土壌を知るプロジェクト～市民参加型の全国里山土壌調査～」を実施し、山の健康診断に続くシチズンサイエンスの第2弾を実施した。

その他、隔地施設では、それぞれ京大ウィークスなどの社会連携イベントを実施するとともに、芦生研究林では、斧蛇館リニューアルを行い関係者を招いて式典を行った。

(7) 2024年度の主な取り組み（日記）

(1) 2024年4月1日

館野 隆之輔が、センター長に就任。副センター長に益田玲爾教授が就任。

海洋生態系部門の下村通誉准教授が教授へ昇任。

上賀茂試験地長に坂野上なお講師、北白川試験地長に館野隆之輔教授、紀伊大島実験所長に伊勢武史准教授がそれぞれ就任。

海洋生態系部門に朝倉彰特任教授(名誉教授)、荒井修亮特任教授(名誉教授)、高木淳一特任助教(大学院教育支援機構プラットフォーム学卓越大学院プログラム 特定助教)、森林生態系部門に田中拓弥特任講師(特定研究員)、里域生態系部門に八柳哲特任助教(特定研究員)がそれぞれ着任。

(2) 2024年4月～

2024年度新入生向けILASセミナーを開講

- ・「フィールド実習 “森は海の恋人”」 (舞根森里海研究所)
下村 通誉、中野 智之、後藤 龍太郎、山守 瑠奈
- ・「森での感動を科学する」 (芦生研究林) 伊勢 武史
- ・「京都の文化を支える森林—地域の智恵と生態学的知見」 (芦生研究林、上賀茂試験地ほか)
徳地 直子、石原 正恵、坂野上 なお
- ・「貝類の不思議」 (瀬戸臨海実験所) 中野 智之
- ・「森を育て活かす—林業体験をとおして考える」 (和歌山研究林) 長谷川 尚史
- ・「甲殻類学入門」 (瀬戸臨海実験所) 下村 通誉
- ・「森と暮らしを繋ぐ持続可能なデザイン」 徳地 直子、張 曼青
- ・「里山の物質循環—燃料・肥料・食料から考える—」 (上賀茂試験地) 館野 隆之輔
- ・「京都の海の沿岸動物学入門」 (舞鶴水産実験所) 鈴木 啓太、甲斐 嘉晃、邊見 由美
- ・「海洋共生生態学入門」 (瀬戸臨海実験所) 後藤 龍太郎、邊見 由美
- ・「北海道の昆虫相」 (北海道研究林) 小林 和也、杉山 賢子
- ・「黒潮流域の海洋生物自然史」 (瀬戸臨海実験所) 山守 瑠奈
- ・「北海道のきのこの多様性と生き方」 (北海道研究林) 杉山 賢子、小林 和也
- ・「芦生研究林の菌類多様性に触れよう」 (芦生研究林) 松岡 俊将
- ・「木文化再生—森林から都市へ」 (上賀茂試験地) 坂野上なお ほか

(3) 2024年4月～7月

全学共通科目「森里海連環学I：森・里・海と人のつながり」「森里海連環学II：森林学」開講

(4) 2023年12月23日～2024年4月7日

瀬戸臨海実験所附属白浜水族館において、企画展「絶滅のおそれのある海の生き物展～和歌山県レッドデータブックでひもとく」を開催

(5) 2024年4月1日～9月29日

和歌山研究林において、有害鳥獣捕獲のための入林制限を実施(捕獲実施日数は計9日)

(6) 2024年4月12日

舞鶴水産実験所共同利用運営委員会を開催

(7) 2024年4月12日

瀬戸臨海実験所共同利用運営委員会を開催

(8) 2024年4月12日

水産・臨海・臨湖実験所フィールド実習ワークショップ「実習生—拠点ポスドク—教員の立場からみる実習」をオンラインで開催(参加者22人)

- (9) 2024年4月13日、5月11日、6月8日
瀬戸臨海実験所附属白浜水族館において、きのくに県民カレッジ連携講座「水族館の磯採集体験」を開催(4月16人・5月22人・6月21人)
- (10) 2024年4月13日～2025年3月9日
上賀茂試験地において、イオン環境財団とともに「里山おーぷんらぼ@上賀茂」を実施(第12～22回、夏休み特別編、竹からつくるイーゼル特別編)
- (11) 2024年4月17日
京都大学監事が、瀬戸臨海実験所を視察
- (12) 2024年4月23日～2025年2月20日
瀬戸臨海実験所において、瀬戸海洋生物学セミナーをオンラインで開催(第87～92回)
- (13) 2024年5月22日
和歌山研究林において、有田川町立八幡小学校との共催で、森林体験学習を実施(5年生13人、教諭2人)
- (14) 2024年6月4～8日
瀬戸臨海実験所において、公開実習「博物館実習(館園実務)」を実施(教育関係共同利用拠点事業、他大学3人)
- (15) 2024年6月7日
京都大学東京オフィスとオンラインのハイブリッドで、第140回京都大学丸の内セミナー(市川光太郎准教授講演)を開催
- (16) 2024年6月7日
和歌山研究林において、有田川町立石垣小学校との共催で、森林体験学習を実施(5、6年生12人、教諭2人)
- (17) 2024年6月11日
芦生研究林・北海道研究林・上賀茂試験地共同利用運営委員会を開催
- (18) 2024年6月12日
フィールド科学教育研究センターFD/SD研修会を、フィールド研会議室およびオンラインで開催(参加者70人)
- (19) 2024年6月14日
徳山試験地において、周南市連携事業「鼓南中学校環境学習」を開催(中学生9人、引率7人)
- (20) 2024年6月15日
徳山試験地が、周南市役所 多目的室と徳山試験地において、京都大学・周南市連携講座を開催(24人)
- (21) 2024年6月16日
北海道研究林標茶区において、初夏の花観察会プチフラワーソン2024を開催(参加者13人)
- (22) 2024年6月18～23日
瀬戸臨海実験所附属白浜水族館にて、京都大学127周年記念 缶バッジ(全5種類)を配布
- (23) 2024年6月22日
瀬戸臨海実験所において、イオン環境財団とともに「島島ビーチクリーン活動」を実施(22人)
- (24) 2024年6月25日
芦生研究林において、資料館「斧蛇館」リニューアルオープン記念式典を開催(参加者67人)
- (25) 2024年6月28日
「里山の土壌を知るプロジェクト～市民参加型の全国里山土壌調査～」の参加者募集を開始
- (26) 2024年7月3日
「新しい里山里海の勉強会」第7回をオンラインで開催(参加者107人)
- (27) 2024年7月20日～9月1日
瀬戸臨海実験所附属白浜水族館において、「研究者と飼育係のこだわり解説ツアー」「バックヤードツアー」を毎日開催(解説ツアー(一般261人)・バックヤードツアー(小学生以上413人))
- (28) 2024年7月22日～8月28日
瀬戸臨海実験所附属白浜水族館において、夏休み特別イベント「大水槽のエサやり体験」を開催(小学生以上168人)

- (29) 2024年7月24日
舞鶴水産実験所が、舞鶴市大浦会館、イオン環境財団と共催で、舞鶴市小橋海岸において、「舞鶴市大浦の魚付き林と海辺の生き物観察会」を開催(30人)
- (30) 2024年8月3日
北白川試験地において、夏の自然観察会「大学キャンパスで虫みつけ」を開催(京大ウィークス参加イベント、18人)
- (31) 2024年8月6～12日
瀬戸臨海実験所において、公開臨海実習「Functional Morphology and Evolutionary Biology of Marine Invertebrates」を実施(教育関係共同利用拠点事業、他大学10人、理学部「臨海実習第2部」併催)
- (32) 2024年8月6～10日
北海道研究林標茶区において、「公開森林実習II：夏の北海道東部の人と自然の関わり」を実施(教育関係共同利用拠点事業、他大学9人、全学共通科目ILASセミナー「北海道の昆虫相」併催)
- (33) 2024年8月6～10日
芦生研究林および舞鶴水産実験所において、全学共通科目「森里海連環学実習I：芦生研究林ー由良川ー丹後海のつながりを探る」を実施(6人)
- (34) 2024年8月6～10日
芦生研究林および舞鶴水産実験所において、公開実習「森里海連環学実習I：芦生研究林ー由良川ー丹後海のつながりを探る」を実施(教育関係共同利用拠点事業、他大学4人)
- (35) 2024年8月23～28日
舞鶴水産実験所において、公開実習「魚類学実習」を実施(教育関係共同利用拠点事業、他大学4人、農学部科目「海洋生物科学技術論と実習I」併催)
- (36) 2024年8月24日
京都府立京都学・歴史館において、京都府自然環境保全課、京都府立植物園、芦生生物相保全プロジェクト、芦生研究林が主催して、公開講演会「芦生の森の昆虫たち 今昔物語」を開催(参加者128人)
- (37) 2024年8月28日～9月2日
舞鶴水産実験所において、公開実習「無脊椎動物学実習」を実施(教育関係共同利用拠点事業、他大学1人、農学部科目「海洋生物科学技術論と実習II」併催)
- (38) 2024年9月2～6日
瀬戸臨海実験所において、公開臨海実習「自由課題研究」を実施(教育関係共同利用拠点事業、他大学1人、理学部「臨海実習第1部」併催)
- (39) 2024年9月4～6日
芦生研究林、上賀茂試験地、北白川試験地において、公開森林実習Iを実施(教育関係共同利用拠点事業、他大学10人)
- (40) 2024年9月15～21日
北海道研究林標茶区および北海道大学厚岸臨海実験所において、全学共通科目「森里海連環学実習II京大・北大合同実習(夏の北海道実習)：北海道東部の森と里と海のつながり」を実施(教育関係共同利用拠点事業、京大9人・北大10人)
- (41) 2024年9月16～20日
舞鶴水産実験所において、公開実習「沿岸生態学実習」を実施(教育関係共同利用拠点事業、他大学4人)
- (42) 2024年9月28～29日
京都府立植物園において開催された「きょうと☆いきものフェス!2024」にブースを出展
- (43) 2024年10月1日
森林生態系部門に鈴木華実助教が着任
- (44) 2024年10月1日
技術室が設置され、技術職員は全員専門職(技術)に移行し技術室所属となる

- (45) 2024年10月5日
北海道研究林白糠区において、自然観察会「秋の森の生態系」を開催(京大ウィークス参加イベント、13人)
- (46) 2024年10月5日～12月14日
上賀茂試験地において、公開森林実習III「森林・里山の生態系サービスを学ぶ」を実施(教育関係共同利用拠点事業、他大学5人)
- (47) 2024年10月5日、11月30日、2025年3月1日
瀬戸臨海実験所附属白浜水族館において、きのくに県民カレッジ連携講座「水族館の飼育体験」を開催(10月19人・11月14人・3月16人)
- (48) 2024年10月6日
上賀茂試験地において、イオン環境財団とともに「里山フェスin上賀茂試験地：洛再Linksのみんなと里山で遊ぼう!!」を実施(46人)
- (49) 2024年10月8日
京都大学旧演習林事務室において、日台里山交流会議と共催し、日台共同国際シンポジウム「森里海～連環する社会的共通資本」を開催
- (50) 2024年10月8～10日
北海道研究林標茶区他において、北海道東北地区大学演習林等技術職員研修を実施(参加者11人、教員1人)
- (51) 2024年10月9～11日
瀬戸臨海実験所附属白浜水族館において、職場体験を実施(田辺市中学生2人)
- (52) 2024年10月10日
京都大学副理事が、芦生研究林を視察
- (53) 2024年10月10～11日
和歌山研究林が、マルカ林業株式会社社有林において、和歌山県紀の国森づくり基金活用事業(緑育推進事業)を実施(新南小学校5年生50人、教諭2人)
- (54) 2024年10月12～14日
芦生研究林において、芦生菌類ワークショップを開催(7人)
- (55) 2024年10月12日～2025年3月16日
北海道研究林白糠区において、北海道のエゾシカ被害防止緊急捕獲事業の一環で銃器を用いた捕獲駆除のための入林制限を実施
- (56) 2024年10月15～16日
京都大学副理事が、北海道研究林標茶区を視察
- (57) 2024年10月19日
徳山試験地および周南市徳山保健センターにおいて、周南市と共催で、周南市・京都大学フィールド科学教育研究センター連携公開講座を開催(京大ウィークス参加イベント、26人)
- (58) 2024年10月19日
瀬戸臨海実験所において、公開ラボ・施設見学「白浜の海の自然と発見」を実施(京大ウィークス参加イベント、18人)
- (59) 2024年10月20日
芦生研究林において、一般公開を開催(京大ウィークス参加イベント、34人)
- (60) 2024年10月26日
和歌山研究林において、ミニ公開講座を開催(京大ウィークス参加イベント、9人)
- (61) 2024年10月26日
上賀茂試験地において、秋の自然観察会を実施(京大ウィークス参加イベント、18人)
- (62) 2024年10月26～27日
北海道研究林が、釧路市観光国際交流センターにおいて開催された「くしろ木づなフェスティバル2024」に「森の研究室inくしろ」として出展

- (63) 2024年10月26日
舞鶴水産実験所において、一般公開「教育研究船「緑洋丸」による舞鶴湾の生物採集およびスライドショー上映」を開催(京大ウィークス参加イベント、33人)
- (64) 2024年10月28日
和歌山研究林において、有田川町立八幡小学校との共催で、森林体験学習を実施(5年生13人、教諭2人)
- (65) 2024年11月1～5日
舞鶴水産実験所において、全学共通科目「博物館実習(館園実務)」を実施(5人)
- (66) 2024年11月9日
瀬戸臨海実験所附属白浜水族館において、イオン環境財団と共催で、新しい里山・里海 共創プロジェクト「白浜の豊かな海と生き物について学ぼう！」を実施(参加者4人)
- (67) 2024年11月14日
和歌山研究林が、マルカ林業株式会社社有林において、和歌山県紀の国森づくり基金活用事業(緑育推進事業)を実施(和歌山市立宮北小学校37人、教諭3人)
- (68) 2024年11月28日
有田川町清水文化センターにおいて、和歌山研究林 地上権返還記念イベント「100年目からの新たな歩み～99年を振り返る～」を開催(参加者100人)
- (69) 2024年12月5日
舞鶴水産実験所において、理学研究科研究室(瀬戸臨海実験所)、京都地区研究室とともに、海洋合同セミナーを対面、オンラインのハイブリッド形式で実施
- (70) 2024年12月8日
イオンモール高の原において、「里山里海つながるフェス@イオンモール高の原」を開催(第8回新しい里山里海の勉強会併催、講演会参加者85人)
- (71) 2024年12月11日
生態学研究センターにおいて、生態・フィールド学系「第1回フィールドサイエンス・リトリート」を開催
- (72) 2024年12月9～13日
瀬戸臨海実験所において、全学共通科目「博物館実習(館園実務)」を実施(4人)
- (73) 2024年12月19日
京都大学百周年時計台記念館において教員集会を開催
- (74) 2024年12月19日
パナソニック ホールディングス株式会社と共催で、京都大学百周年時計台記念館において「研究交流会」を開催(参加者 約90人)
- (75) 2024年12月25日～2025年1月7日
瀬戸臨海実験所附属白浜水族館において、冬休みイベント「研究者と飼育係のこだわり解説ツアー」「バックヤードツアー」を毎日開催(解説ツアー(一般118人)、バックヤードツアー(小学生以上105人))
- (76) 2024年12月31日～2025年1月3日
瀬戸臨海実験所附属白浜水族館にて、「白浜水族館からのお年玉」オリジナルカレンダーを配布
- (77) 2025年1月9日
フィリピン バタンガス州立大学と部局間学術交流協定を締結
- (78) 2025年1月14日
「新しい里山里海の勉強会(第9回)」をオンラインで開催(参加者96人)
- (79) 2025年1月29日
協議員会を開催
- (80) 2025年2月4日
瀬戸臨海実験所において、防災防火訓練を実施(24人)

- (81) 2025年2月7日
里山の土壌を知るプロジェクト 第1回 中間報告会&交流会をオンラインで開催 (参加者82人)
- (82) 2025年2月7日
北海道研究林標茶区において、防災訓練を実施 (11人)
- (83) 2025年2月15日
瀬戸臨海実験所附属白浜水族館において、イオン環境財団と共催で、新しい里山・里海 共創プロジェクト「白浜の豊かな海と生き物について学ぼう！」を実施(参加者15人)
- (84) 2025年2月18日
国連大学 ウ・タント国際会議場とオンラインで開催されたイオン環境財団主催 第2回SATOYAMAフォーラム「みんなで考えつくるー新しいSATOYAMA (里山)」において、舘野 隆之輔教授と横部 智浩特任助教、八柳 哲特任助教、包薩日娜特任助教が登壇
- (85) 2025年2月18～20日
芦生研究林において、全学共通科目「森里海連環学実習III：暖地性積雪地域における冬の自然環境」を実施 (9人)
- (86) 2025年2月25日～3月4日
瀬戸臨海実験所において、公開臨海実習「海産無脊椎動物分子系統学実習」を実施(教育関係共同利用拠点事業、他大学12人)
- (87) 2025年3月1日
カクイクス交流センター (かごしま県民交流センター) 県民ホールにて、第20回京都大学附置研究所・センターシンポジウム 京都大学鹿児島講演会 京都からの挑戦ー地球社会の調和ある共存に向けてー「京都大学が提案する未来」を開催。徳地直子教授が講演
- (88) 2025年3月3日～7日
舞鶴水産実験所他において、公開実習「仔稚魚学実習」を実施(教育関係共同利用拠点事業、他大学5人、農学部科目「海洋生物科学技術論と実習IV」併催)
- (89) 2025年3月6～7日
芦生研究林、北海道研究林、上賀茂試験地が、森林系教育拠点フォローアップ検討会と現地見学会を開催
- (90) 2025年3月10日
上賀茂試験地において、避難訓練を実施(8人)
- (91) 2025年3月15～19日
瀬戸臨海実験所において、公開臨海実習「藻類と海浜植物の系統と進化」を実施(教育関係共同利用拠点事業、他大学4人・京大1人、理学部「臨海実習第3部」併催)
- (92) 2025年3月25日
京都大学北部総合教育研究棟益川ホールにおいて、高校生森里海研究ポスター発表会を開催 (15校106人)
- (93) 2025年3月25日
京都大学北部総合教育研究棟益川ホールにおいて、第9回森里海シンポジウム「里山里海の今を知る」を開催 (114人)。新しい里山里海の勉強会 (第10回) を併催
- (94) 2025年3月25日
芦生研究林において、避難訓練を実施(10人)
- (95) 2025年3月25～31日
瀬戸臨海実験所附属白浜水族館において、春休み特別イベント「研究者と飼育係のこだわり解説ツアー」「バックヤードツアー」を毎日開催 (解説ツアー (一般53人)、バックヤードツアー (小学生以上52人))
- (96) 2025年3月25～31日
瀬戸臨海実験所附属白浜水族館において、春休み特別イベント「大水槽えさやり体験」を開催 (小学生以上26人)

- (97) 2025年3月26～31日
瀬戸臨海実験所において、公開臨海実習「沿岸域生態系多様性実習」を実施(教育関係共同利用拠点事業、他
大学7人、全学共通科目「森里海連環学実習IV」併催)
- (98) 2025年3月26～31日
瀬戸臨海実験所において、森里海連環学実習IV「沿岸域生態系に与える陸・川・人の影響」を実施(9人)

2. フィールド研の活動

(1) フィールド研2024年度の主な取り組み

1) 第9回森里海シンポジウム「里山里海の今を知る」

森林育成学分野 教授 徳地 直子

森里海連環学を通じた持続可能社会の創成を目指して、フィールド科学教育研究センターと公益財団法人イオン環境財団の共催で、2025年3月25日に北部総合教育研究棟にて、第9回森里海シンポジウム「里山里海の今を知る」を開催しました。午前は106人、午後は114人が参加しました。

午前はプレ企画として、連携する全国の高校15校が里山・里海をテーマに、生物の生態や保全に関する研究や、環境DNAやリモートセンシングを使った研究など、日頃の研究成果の発表を行いました。本学教員が審査員となって、各発表について講評と表彰を行いました。

午後のシンポジウムでは、館野隆之輔 フィールド研センター長と西原謙策 イオン環境財団事務局次長から開会挨拶があった後、紺頼楓さん（農学研究科博士前期課程2年生）、横部智浩 フィールド研特任助教、八柳哲 同特任助教、田中拓弥 同特任講師の4人の講演者が、全国の里山における市民参加型の土壌や植生の調査結果、環境DNA技術を駆使した里海と河川における生物多様性評価、モデル里山・里海形成事業の一環で実施している上賀茂試験地での「里山おーぷんらぼ」の紹介など、「新しい里山・里海 共創プロジェクト」の最新の研究成果を発表しました。

最後の質疑応答では、「里山の植生や現状について、高校生が知っておくべきことはありますか？」という質問に対して、「まずは、近くの里山へ行って、里山を管理している方の話を聞いてみてほしい。また、松枯れやナラ枯れの現状を知ってほしい」と講演者から回答がありました。また「環境DNAでは、河川の両生類を同定できますか？また、その種の量も分かるのですか？」という質問に対して「基本的に、DNA情報が分かっている種について同定ができ、生物の量も分かる」と回答がありました。

アンケートには「今回の交流を通して、改めて里山里海について考えるきっかけになった。来年もぜひ参加したい」、「上賀茂試験地の里山おーぷんらぼに参加してみたい」などの感想が寄せられ、本シンポジウムが好評であったことが伺えました。

(初出 <https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/news/2025-04-14>)



パネルディスカッションの様子



登壇者

2) 京大フィールド研×パナソニック「研究交流会」

センター長／森林情報学分野 教授 舘野 隆之輔

フィールド科学教育研究センターとパナソニック ホールディングス株式会社は、2024年12月19日に、百周年時計台記念館国際交流ホールにて研究交流会を開催しました。パナソニック社員、フィールド研教職員、本学の大学院生から合計48件のポスター発表があり、約90人が研究交流会に参加しました。

最初に、舘野隆之輔 フィールド研センター長の開会挨拶があり、続いて各発表者が1分の研究紹介をした後、3グループに分かれてポスターセッションを行いました。微生物の多様性、地域デザイン、持続的な森林資源管理・活用手法、魚類やプランクトンの群集構造、水中ドローンの活用、環境DNAによる魚類モニタリング、海産無脊椎動物の多様性、気候変動と沿岸漁場環境、森里海連環学、パナソニック共存の森（滋賀県草津市）におけるデータ計測、パナソニック人工嗅覚センサシステムの開発など、幅広い研究テーマのポスターを掲示して、約3時間かけてディスカッションを行いました。ポスターの前では、参加者が熱心に議論する様子が見られ、お互いの研究を知るとともに、新たな研究テーマの発掘につながる流れが生まれました。

最後に、素晴らしい発表をした大学院生1人へパナソニック特別賞が授与されたあと、小川立夫 パナソニック ホールディングス株式会社 グループCTO から閉会挨拶があり、研究交流会は盛況のうちに終了しました。

(初出 <https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/news/2025-01-15-1>)



ポスター発表 (Aグループ)



集合写真

3) 芦生研究林斧蛇館リニューアル

芦生研究林／森林情報学分野 講師 松岡 俊将

斧蛇館は芦生研究林構内にある資料館です。斧蛇館の建物は、1975年に柱や板などの製品の倉庫として建築されました。その後、1992年に、大学の活動や芦生の森を一般の方にも知ってもらうため資料館として改修・開館しました。その際に、「斧蛇館（おのじゃかん）」と名付けられました。2020年、芦生研究林基金へご寄付により、資料館としての教育と展示機能の強化を目的にリニューアルが決まりました。

リニューアルは、2021年にコンセプトの立案、2022年に企画・デザイン案の作成、そして2023年から2024年にかけて展示物の作成と工事を行い、2024年6月25日のリニューアルオープン記念式典を持って完了しました。リニューアルでは、新しい斧蛇館が「多様な人が集い・学ぶ場」となることを目指しました。そこで、企画立案やデザイン・展示物の作成等のあらゆる過程において、展示の専門家だけではなく、自然科学と人文学・社会科学を含む研究者、芸術家、研究林内を案内しているツアーガイド、そして地域の関係者など多くの方に協力していただきました。

新しい斧蛇館では、森に入るだけでは分からない「自然の仕組み」や「人と自然の関わり」を紐解く場として、以下のような展示を行っています。入り口には、画家の平田有加氏の水彩絵巻「芦生の森 四季図絵巻」のレプリカを展示しました。この絵画は、シカの食害が深刻化する前の芦生の森をイメージし、芦生の森の生物多様性とその直面する課題を多くの方に伝えるために制作されたものです。続いて、斧蛇館と芦生研究林の説明（研究林の概要、研究林が直面している気候変動やシカの食害、多様な主体とともに進めている生物多様性保全の取り組みなど）、芦生研究林で行われてきた研究と成果、そして研究林設定以前から現在までの歴史を紹介するパネルを展示しました。パネルは、研究林の教職員を中心に、芦生研究林に関わってきた多くの方の協力を得ることで、生物（動物、植物、菌類）や物質循環の研究と、研究林の歴史に関する多様な論文・資料と写真等の情報を集約しました。資料館の中央には、これまで斧蛇館に展示されていた剥製や資料などをより臨場感あふれる展示するためのジオラマを作成しました。ジオラマの棚は、美山町に住む家具職人に作成を依頼し、芦生産の木材を一部使用しました。

リニューアル記念式典と見学会では、フィールド研の関係教職員、関連団体、地域の方など67人が集まってくれました。資料館の展示物を前にしながら、過去の、現在の、そしてこれからの芦生についてお話をしている様子が、とても印象的でした。

資料館の改修を通じて、改めて芦生研究林の長い歴史や多様な研究成果と取り組みについて、学び、思いをはせることになりました。改修は企画から工事までのすべての過程で、様々な方のお力をお借りしており、新しい斧蛇館は多様な人の協働の成果といえます。多くの人と共にリニューアル作業を進める中で、芦生の森は様々な方に思われ、支えられている森であることを感じました。新しい斧蛇館が芦生研究林の教育研究の展開と、大学と社会の協働のきっかけとなることを祈っています。



新しい斧蛇館の展示物の一部



リニューアル式典での平田さんによる絵巻の解説

4) 和歌山研究林「100年目からの新たな歩み～99年を振り返る～」

和歌山研究林長／森林育成学分野 教授 徳地 直子

2024年11月28日（木）に有田川町清水文化センターにおいて、和歌山研究林地上権返還記念イベント「100年目からの新たな歩み～99年を振り返る～」を開催しました。

和歌山研究林は、1926（大正15）年1月に、和歌山県有田郡八幡村の海瀬氏所有の山林564haに、99年間の地上権が設定されたことに始まります。1942（昭和17）年には同じく海瀬氏所有の隣接する山林が追加設定され、約840haにわたる広大な森林を大学での教育研究に活用してきました。2025（令和7）年1月に地上権設定の期限を迎えることになり、契約延長を含め、様々な可能性を検討してきましたが、諸般の事情により99年間の期限をもって、所有者（現在はマルカ林業株式会社）に返還させていただくこととなりました。

99年間にわたる教育研究について、所有者や地域の皆様へのご報告とお礼を兼ね、有田川町様と共催の形で、「100年目からの新たな歩み～99年を振り返る～」と題したイベントを開催した次第です。本イベントには、有田川町の林業や教育に関わる地域の皆様や、かつて和歌山研究林で研究を行った卒業生、研究林に勤務して下さった職員0Bの皆さんにもご参加いただき、終始和やかで前向きな会とさせていただくことができました。

第1部では、有田川町の中山正隆町長にご挨拶いただき、担当教員である長谷川尚史准教授からの概要説明の後、和歌山研究林で長期的に行ってこられた生態学研究センターの佐藤拓哉准教授から、「森と川と海をつなぐ細い糸－和歌山研究林での大規模実験の日々」と題し、和歌山研究林だからこそ可能であった世界的な研究についてご紹介いただきました。またマルカ林業株式会社の海瀬隆太郎社長にもご登壇いただき、京大総長からの感謝状を贈呈しました。

続く第2部では、「森林と教育：地域の未来と大学への期待」をテーマに、長谷川准教授の司会で、有田川町の中平教育部長、上田林務課長、清水森林組合道上組合長、マルカ林業海瀬社長と徳地とで、パネルディスカッションを行いました。パネラーの皆様から有田川町と研究林のつながりについて、これまで研究林で行ってきた小中学生や分校の高校生への出前授業や森林体験などを高く評価していただき、急速に過疎化が進行している当地域において、今後も京都大学が積極的な関わりを続けることや、林業に関しても大学の知見を地域に還元していくことへの期待が語られました。

和歌山研究林は林業の先進的な地域であるため人工林の造成について教育研究するように設定された場所で、これまで樹下植栽をはじめ人工造林などについて多くの研究が行われてきました。学生たちは、実際の自然環境を通じて、環境科学や生態学、持続可能な開発について学び、実習を通じて実践的な経験を積むことができました。人工造林が主流でなくなった近年では、造林した人工林のモニタリングだけでなく、環境省のモニタリングサイト1000のコアサイトとして森林動態の長期モニタリングや、佐藤先生のアマゴによる森と川のつながりの研究など多くの研究がなされてきました。地上権をお返しした後は、常勤職員の配置がなくなることや林道の問題などで現地での利便性は低くなるものの、なんとか研究を続けていけるような手を進めています。和歌山研究林で2002（平成14）年に始まった地域の高校生への教育プログラムであるウッズサイエンスも、有田川町や和歌山県、さらには地域の林業事業者の皆様とともに実施していくことになっています。今後も地域との連携を絶やさず、次の100年につなぐ京都大学の窓として活動する和歌山研究林を、引き続き、どうかよろしくおねがいいたします。



感謝状贈呈（館野センター長・マルカ林業海瀬社長）



式典受付

5) 伊佐津川水域での環境DNA調査

里海生態保全学分野 特任助教 八柳 哲

舞鶴水産実験所では「新しい里山・里海 共創プロジェクト」の一環として、舞鶴市内を流れる主要河川である伊佐津川水系において魚類群集の多様性・季節性をモニタリングする試みを2023年度から実施しています。河口域から山間の上流部にかけて設定した12の調査定点において、魚類が水中に放出した環境DNAをろ過・抽出・分析する手法（以下、環境DNA手法）を活用して調査を進めてきました。

2023年度に行った春夏秋冬の調査の結果、合わせて70種を超える魚類の環境DNAが検出されました。この中には季節特有に検出された回遊魚（例：春に遡上するシロウオ）や、絶滅の危惧される純淡水魚（例：ナガレホトケドジョウ）など、様々な魚種が含まれます。基本的には下流側ほど検出される種数が多く、どの季節でも上・中・下流それぞれで明確に異なる群集構造が形成されていることがわかりました。ただし、夏だけは上流側でも下流側に引けを取らないほど検出種数が多いなど、季節ごとに特有なパターンも見られました。春先に海から遡上してくるアユは夏になるにつれて上流へと移動していくことはよく知られますが、回遊魚だけでなく純淡水魚を含む様々な魚種においても夏に上流で検出されやすい傾向が確認されました。魚たちが生活史を全うするために、下流と上流との間が妨げなく移動可能であることの重要性が示唆される結果と言えます。またこうした群集構造や種多様性の季節的・空間的なパターンは、伊佐津川本流と支流の池内川とでほぼ一致していることもわかりました。アユやニホンウナギなどの水産重要種や絶滅危惧種が、本流・支流の下流から上流までを季節に応じて幅広く利用していることが明らかとなり、今後のモニタリング方針を考えるうえでも重要な成果となりました。

この研究成果は論文として発表されているほか（Ito et al. 2025）、調査の様子と併せて「新しい里山・里海 共創プロジェクト」のウェブページにおいても紹介されています。引き続き、夏の渇水などの自然攪乱の影響や、里地での環境変動などの影響を評価するためにも継続的に調査を実施していく予定です。公益財団法人イオン環境財団の皆さまをはじめ、伊佐津川での研究を支援してくださっている皆さまに心より感謝申し上げます。

参考文献

Ito T, Yatsuyanagi T, Yokobe T, Shiomi M, Masuda R (2025) Seasonal changes in the structure of river fish communities in temperate Japan depicted using quantitative eDNA metabarcoding. PLoS One 20(7): e0328280.



伊佐津川の夏のアユの群れ



渇水時の伊佐津川分岐点
左が支流の池内川・右が渇水で瀬切れした伊佐津川本流

6) 白浜水族館の広報集客活動とグッズ作成

基礎海洋生物学分野 講師 河村 真理子

事務支援職員 上木原 昭子

事務掛長 白石 大作

白浜水族館は、瀬戸臨海実験所の実験施設であった水槽室を1930年に一般公開し、国立大学法人が持つ唯一の水族館として、地元の人々や他県から来訪した観光客に親しまれています。当館は、瀬戸臨海実験所が積極的に行ってきた自然史科学を題材とする研究教育を背景にもち、白浜周辺に生息する海産無脊椎動物を主眼とした展示が特徴です。展示生物は職員が採集または地元漁業者からの購入で収集し、常時約500種を57の水槽で展示しています。研究教育機関による利用のほか、一般来館者には大人600円、小人200円にて年中無休で公開しています。

当館では、集客を図るために様々なイベントを開催してきました。入館者数の低迷をきっかけとして2004年に開始した、飼育担当技術職員と教員による解説ツアーは、日替わりで展示水槽とバックヤードを紹介する冬休み特別イベントでした。このイベントは好評を博し、春・夏休みに拡大して、恒例イベントとして連日の参加者で賑わっています。その後、館内のリニューアルや駐車場の大幅拡張を経て、2003年に51,000人弱であった有料入館者数は2024年には93,000人弱となっています。企画展や参加型イベント（エサやり体験、磯採集体験、飼育体験）も例年行い、繰り返し来てもらえるよう工夫しています。また、共催イベントとして、「くろしお水槽」の白浜駅構内常設や、路線バスの乗り放題乗車券の購入者に団体割引適用など、地元の交通機関を利用する観光客に向けた広報集客を図っています。

2022年からは、広報集客の一環として実験所員がデザインしたオリジナルグッズの配布企画が立ち上がりました。まず京都大学創立125周年を記念し、教職員からデザインを募って5種類1250個の缶バッジを製作しました。創立記念日の6月18日を含む3日間の来館者に配布し、当たり付の缶バッジをひいた人には水族館観覧券2枚を進呈しました。白浜水族館開館100周年のカウントダウンイベントでも、95周年記念缶バッジを製作しました。また、年末年始にはステッカーや卓上カレンダーを配布しました。学生もこの企画に積極的に参加し、各々の好きな生き物をデザインに取り入れています（写真1, 2）。

グッズ配布を開始した年がコロナ禍であったこともあり、その集客力については開始前の来館者数と比較することはできません。しかし、水族館窓口ではグッズ配布に関する問い合わせが増えてきており、配布イベントの知名度が年々高くなっていることを実感しています。そして、オリジナルグッズはしばらく手元に残るものですから、グッズ自体が水族館広報の重要な担い手になってくれることを期待し、持っていて楽しくなるようなグッズをこれからも製作すべく、継続的に配布イベントを開催していきたいと考えています。

なお、グッズ配布企画については、フィールド研公式ウェブサイトや地方紙で紹介していただいたほか（下記）、白浜水族館公式Xなどで告知しています。

- ・白浜水族館 > 京大127周年記念 缶バッジの配布 (<https://fserc.kyoto-u.ac.jp/wp/blog/archives/38196>)
- ・卓上カレンダー配布 12月31日～1月3日 京大白浜水族館 [紀伊民報 2024年12月29日7面]
- ・オリジナルグッズ贈呈 熊楠記念館と京大水族館 両館に同日入館で [紀伊民報 2024年12月1日9面]



写真1 白浜水族館で配布した缶バッジ全種



写真2 年末年始配布の卓上カレンダーデザイン例

7) 里山の土壌を知るプロジェクト 第1回 中間報告会&交流会

森林情報学分野 特任助教 横部 智浩

2025年2月7日、土壌採取にご協力いただいた団体の皆さまを対象に、「里山の土壌を知るプロジェクト 第1回 中間報告会&交流会」をオンラインで開催しました。(参加者 82人)

- 18:00-18:05 [はじめに] あいさつ 司会： 田中拓弥特任講師
18:05-18:40 [第1部] 中間報告： 横部智浩特任助教
神津州佑さん（農学研究科森林科学専攻 M2）
18:45-19:25 [第2部] 各調査のディスカッション（ブレイクアウトルーム機能による）
(1)土壌、(2)落葉、(3)樹木、(4)開空度、(5)下層植生、
(6)里山の環境・生き物、(7)里山管理、(8)里山と人の関わり
19:30-20:00 [第3部] 参加者同士の交流（ブレイクアウトルーム機能による）

里山の典型的な景観であるコナラやクヌギなどの優占する広葉樹林では、近年人の関わりが減少して多くが放置されているという現状があります。一方で放置された里山の広葉樹林を管理・利用していこうという動きもでてきていますが、景観の変化は分かっても「管理・利用が里山環境に及ぼす影響」まではあまり把握できていません。そこで京都大学フィールド研は、全国の里山団体の協力をえて、全国の里山の現状を把握する一環として里山の植生の遷移と密接に関係する土壌に注目した『里山の土壌を知る～市民参加型の全国里山土壌調査～』プロジェクトを立ち上げました。2024年7月から9月にわたって応募チラシ・ウェブページなどを使って参加者を全国から募集し、北海道から九州にわたる33か所の里山の方々が参加くださりました。今回はこれらの参加者への中間報告会でした。

2部と3部は参加者と一緒に関山調査や管理などについて活発な議論が行われました。その後いただいた感想は、「活動の刺激になった」、「過去の里山の歴史を知りたくなった」、「里山の環境により関心を持つようになった」、「土壌に愛着がわいた」、「(土壌以外にも)いろいろな調査をしたくなった」などでした。引き続き京都大学フィールド研は、「里山シチズンサイエンス」を通して様々な里山の関係者とともに関山を知る」活動を進めていきたいと思ひます。



第1部 中間報告



第3部 交流会の様子

(2) 実習報告

1) 少人数教育科目群 ILASセミナー 「木文化再生－森林から都市へ」

森林情報学分野 講師 坂野上 なお

ILAS セミナー「木文化再生－森林から都市へ」は、本学地球環境学舎の小林広英教授および落合知帆准教授とともに共同で開講している。もともと、フィールド研教員であった地球環境学舎の柴田昌三名誉教授が立ち上げ時より参加していたものだが、柴田名誉教授の退職に伴い坂野上が加わるようになった。

本セミナーにおける問題意識と目的は、「森林国でありながら国産木材の利活用は未だに高いとは言えない。一方、都市においても優れた木造文化を持ちながら、その継承が十分になされているとは言えない。」という状況下、「様々な事例を紹介しながら、森林や里山環境の在り方、日本の木材生産と森林の実態、地域に根ざした伝統木造建築（風土建築）の維持継承、都市木造建築の可能性、木造建築と災害などを概観し、日本の木文化再生について考える。」（「」内は2024年度シラバスより）。というものである。

本セミナーでは地球環境学舎教員はおもに座学を担当し、坂野上は2回の座学に加え上賀茂試験地における野外実習を1日行った。坂野上の担当する座学は、おもに森林の利用の歴史について、古代から現代までを概観し、人が森林と関わることで原生的な森林をどのように変えてきたのか、また戦後の人工林造成が拡大する過程で失われてきた「里山」について、その現代的な意義を考えさせる内容である。併せて、伝統的な木造建築の材料としてわが国の森林資源がどのように活用されてきたのかも解説した。

以上の座学ののち、2024年6月15日（土）に上賀茂試験地における野外実習を行った。試験地では、標本館の世界各国の木材標本やタケ標本から木質材料の多様さを、試験地に植栽された木々からは、森林から都市へと供給される木質材料の育つ環境を学んだ。試験地の展望地からは京都盆地を見渡すことができ、かつての里山＝都市近郊林としての上賀茂の森の立地を体感できたかと思う。ちょうど同日に開催されていた里山おーぶんらば@上賀茂の参加者とも交流を行い、里山活動に携わる人々の問題意識や実践内容にも触れたうえで、里山エリアの見学も行った。

参加者7人全員が1回生で、総合人間学部2人、工学部3人、農学部（いずれも森林科学科）2人という構成だった。入学直後の初々しい学生達だったが、森林と建築、またその歴史に関わる学びを、本セミナーで得てくれたとすれば幸いである。



上賀茂試験地・標本館にて標本類を観察



上賀茂試験地の林相を観察

(3) 全学共通科目

(講義・実習：統合科学科目群)

講義名	担当教員	形態	対象	開講期	単位
森里海連環学Ⅰ：森・里・海と人のつながり	徳地、舘野、益田、三田村、下村、長谷川、伊勢、坂野上、中野、甲斐、田中、張	講義	全回生	前期	2
森里海連環学Ⅱ：森林学	徳地、舘野、長谷川、伊勢、石原、小林(和)、坂野上、中西、松岡、杉山、張ほか	講義	全回生	前期	2
森里海連環学実習Ⅰ：芦生研究林－由良川－丹後海のつながりを探る	徳地、中西、甲斐、鈴木、石原、邊見、松岡	実習	全回生	前期集中	2
森里海連環学実習Ⅱ：北海道東部の森と里と海をつなぐ	小林(和)、杉山、張ほか	実習	全回生	前期集中	2
森里海連環学実習Ⅲ：暖地性積雪地域における冬の自然環境	石原、坂野上、松岡、鈴木(華)	実習	全回生	後期集中	1
森里海連環学実習Ⅳ：沿岸域生態系に与える陸・川・人の影響	下村、中野、後藤、山守、河村ほか	実習	全回生	後期集中	2

(講義・実習：キャリア形成科目群)

講義名	担当教員	形態	対象	開講期	単位
博物館実習（館園実務）	甲斐、下村、邊見ほか	実習	3回生～	後期集中	1

(ILASセミナー：少人数教育科目群)

講義名	担当教員	形態	対象	開講期	単位
木文化再生－森林から都市へ	坂野上ほか	ゼミ	1回生	前期集中	2
フィールド実習“森は海の恋人”	下村、中野、後藤、山守	ゼミ	1回生	前期集中	2
森での感動を科学する	伊勢	ゼミ	1回生	前期集中	2
京都の文化を支える森林－地域の智慧と生態学的知見	徳地、石原、坂野上	ゼミ	1回生	前期集中	2
貝類の不思議	中野	ゼミ	1回生	前期集中	2
森を育て活かす－林業体験をとおして考える	長谷川	ゼミ	1回生	前期集中	2
甲殻類学入門	下村	ゼミ	1回生	前期集中	2
森と暮らしを繋ぐ持続可能なデザイン	徳地、張	ゼミ	1回生	前期	2
里山の物質循環－燃料・肥料・食料から考える－	舘野	ゼミ	1回生	前期集中	2
京都の海の沿岸動物学入門	鈴木、甲斐、邊見	ゼミ	1回生	前期	2
海洋共生生態学入門	後藤、邊見	ゼミ	1回生	前期集中	2
北海道の昆虫相	小林(和)、杉山	ゼミ	1回生	前期集中	2
黒潮流域の海洋生物自然史	山守	ゼミ	1回生	前期集中	2
北海道のきのこの多様性と生き方	杉山、小林(和)	ゼミ	1回生	前期集中	2
芦生研究林の菌類多様性に触れよう	松岡	ゼミ	1回生	前期集中	2

(4) 大学院教育・学部教育

フィールド研は、協力講座として、京都大学大学院農学研究科へ3分野、理学研究科へ1分野が参画して、大学院教育および学部教育を行っている。また、大学院地球環境学舎へ協力分野として参画している。

協力講座としての教員配置と学生数（2024年10月現在）

	専攻	分野	教員	ポスドク など	博士後期 課程	修士課程	学部生 (4回生)
農学研究科	森林科学専攻 森林資源学講座	森林育成学分野	徳地 直子（教授） 長谷川 尚史（准教授） 伊勢 武史（准教授） 石原 正恵（准教授） 鈴木 華実（助教） 張 曼青（特定助教）	-	1	6	-
		森林情報学分野	舘野 隆之輔（教授） 小林 和也（准教授） 坂野上 なお（講師） 松岡 俊将（講師） 中西 麻美（助教） 杉山 賢子（助教）	-	2	2	-
	応用生物科学専攻	海洋生物環境学分野 (流動分野)	三田村 啓理（教授） 市川 光太郎（准教授） 小林 志保（助教）	-	3	11	4
		里海生態保全学分野 <舞鶴水産実験所>	益田 玲爾（教授） 甲斐 嘉晃（准教授） 鈴木 啓太（助教） 邊見 由美（助教）	-	5	7	-
理学研究科	生物科学専攻	海洋生物学分科 <瀬戸臨海実験所>	下村 通誉（教授） 中野 智之（准教授） 河村 真理子（特定講師） 後藤 龍太郎（助教） 山守 瑠奈（助教）	1	3	5	-
地球環境学舎	資源循環学廊 (協力分野)	生態系連環論分野	徳地 直子（教授） 舘野 隆之輔（教授） 鈴木 啓太（助教）	-	1	5	-

() 内は、休学中の学生数

大学院での提供科目

大学院農学研究科 森林科学専攻

講義名	担当教員	科目	対象	開講期	単位
森林情報学特論 I	舘野、松岡	BA13	修士1回生以上	後期集中	2
森林育成学特論 I	徳地、長谷川	BA15	修士1回生以上	後期	2
森林情報学演習	舘野、小林(和)、坂野上、中西、松岡、杉山	BF16	修士1回生以上	前期	2
森林情報学演習	舘野、小林(和)、坂野上、中西、松岡、杉山	BF16	修士1回生以上	後期	2
森林育成学演習	徳地、長谷川、伊勢、石原、張	BF17	修士1回生以上	前期	2
森林育成学演習	徳地、長谷川、伊勢、石原、鈴木(華)、張	BF17	修士1回生以上	後期	2

森林情報学専攻実験	舘野、小林(和)、坂野上、中西、松岡、杉山	BG16	修士1回生以上	前期	2.5
森林情報学専攻実験	舘野、小林(和)、坂野上、中西、松岡、杉山	BG16	修士1回生以上	後期	2.5
森林育成学専攻実験	徳地、長谷川、伊勢、石原、張	BG17	修士1回生以上	前期	2.5
森林育成学専攻実験	徳地、長谷川、伊勢、石原、鈴木(華)、張	BG17	修士1回生以上	後期	2.5

大学院農学研究科 応用生物科学専攻

講義名	担当教員	科目	対象	開講期	単位
海洋生物環境学特論II	三田村、市川、小林(志)ほか	DA51	修士1回生以上	前期集中	2
応用生物科学特別講義 VI	三田村ほか	DA42	修士1回生以上	前期集中	1
海洋生物環境学演習	三田村、市川、小林(志)ほか	DB38	修士1回生以上	前期	1.5
海洋生物環境学演習	三田村、市川、小林(志)ほか	DB39	修士1回生以上	後期	1.5
海洋生態学特論	益田、甲斐、鈴木、邊見	DA22	修士1回生以上	前期集中	2
里海生態保全学演習	益田、甲斐、鈴木、邊見	DF17	修士1回生以上	前期	1.5
里海生態保全学演習	益田、甲斐、鈴木、邊見	DF17	修士1回生以上	後期	1.5
海洋生物環境学専攻実験	三田村、市川、小林(志)ほか	DC38	修士1回生以上	前期	3
海洋生物環境学専攻実験	三田村、市川、小林(志)ほか	DC39	修士1回生以上	後期	3
里海生態保全学専攻実験	益田、甲斐、鈴木、邊見	DG17	修士1回生以上	前期	3
里海生態保全学専攻実験	益田、甲斐、鈴木、邊見	DG17	修士2回生以上	後期	3

大学院理学研究科 生物科学専攻 (動物学系)

講義名	担当教員	科目	対象	開講期	単位
海洋生物学特論	下村、中野、後藤、山守	8040	修士	前期	2
機能形態・系統特論A	下村、中野、後藤、山守	8131	修士	前期	2
機能形態・系統特論B	下村、中野、後藤、山守	8132	修士	後期	2
海洋生物学ゼミナールA	下村、中野、後藤、山守	8133	修士	前期	2
海洋生物学ゼミナールB	下村、中野、後藤、山守	8134	修士	後期	2
海洋生物学ゼミナールC	下村、中野、後藤、山守	8135	修士	前期	2
海洋生物学ゼミナールD	下村、中野、後藤、山守	8136	修士	後期	2
海洋生物学ゼミナール	下村、中野、後藤、山守		博士後期課程		

大学院地球環境学舎 環境マネジメント専攻

講義名	担当教員	科目	対象	開講期	単位
森里海統合管理学	徳地、舘野、石原、益田、下村、三田村、鈴木、伊勢、田中、山下ほか	3304	修士1・2回生	前期	2
(生態系連環論)国際環境マネジメント基礎演習	徳地、舘野	3363	修士2回生	前期・後期	1
(生態系連環論)環境マネジメント基礎演習	徳地、舘野	3380	修士2回生	前期・後期	1
(生態系連環論)修士論文	徳地、舘野		修士2回生		
(生態系連環論)地球環境学特別実験及び演習 Ia Ib IIa IIb IIIa IIIb	徳地、舘野	5004-9	博士後期課程	前期・後期	各1
(生態系連環論)環境マネジメント演習 Ia Ib IIa IIb	徳地、舘野	7015-8	博士後期課程	前期・後期	各1

大学院情報学研究科

講義名	担当教員	科目	対象	開講期	単位
プラットフォーム学セミナー	三田村ほか	8702	修士1・2回生	前期	2
認知科学基礎論	佐藤ほか	3151	修士1・2回生	前期	2
計算論的認知神経科学	佐藤ほか	3163	修士1・2回生	前期	2

学部での提供科目

農学部 森林科学科

講義名	担当教員	科目	対象	開講期	単位
森林科学概論B	徳地、館野、長谷川、伊勢ほか	E104	1回生	前期集中	2
森林育成学	徳地、長谷川、石原、鈴木(華)	E191	3回生	後期	2
森林環境学	館野、坂野上、松岡、杉山	E192	3回生	後期	2
森林土壌学	長谷川	E193	3回生	前期集中	1
生態系シミュレーション	伊勢、石原、小林(和)	E194	4回生	前期集中	2
森林フィールド系実習及び実習法	長谷川、坂野上ほか	E231	3回生	前期	3
研究林実習I	石原、松岡ほか	E251	2回生	前期集中	1
研究林実習II	伊勢ほか	E252	3回生	前期集中	1
研究林実習III	小林(和)、杉山、長谷川	E253	3回生	前期集中	2
研究林実習IV	小林(和)、杉山、長谷川	E254	3回生	後期集中	2
課題研究(森林科学科)	森林科学科教員	E302	4回生		10

農学部 資源生物科学科

講義名	担当教員	科目	対象	開講期	単位
資源生物科学概論B	三田村ほか	A106	1回生	前期	2
海洋生物科学技術論と実習I	三田村、市川、小林(志)、益田、甲斐、鈴木、邊見ほか	A205	2回生	前期集中	2
海洋生物科学技術論と実習II	益田、甲斐、鈴木、邊見、市川、小林(志)ほか	A206	2回生	前期集中	2
海洋生物環境学I	三田村、市川、小林(志)ほか	A223	3回生	前期	2
海洋生物科学技術論と実習IV	益田、三田村、甲斐、鈴木、邊見	A258	2回生	後期集中	2
海洋生物科学実験及び実験法I	三田村、市川、小林(志)ほか	A286	3回生	前期	6
海洋生物科学実験及び実験法II	三田村、市川、小林(志)ほか	A287	3回生	後期	6
海洋生物科学	三田村、市川、小林(志)、益田ほか	A259	2回生	後期	2
海洋資源生物学基礎	三田村、益田、市川、小林(志)、鈴木、邊見ほか	A272	2回生	前期	2
魚類学	甲斐	A275	3回生	前期	2
海洋生物環境学II	三田村、市川、小林(志)	A307	3回生	後期	2
海洋生物資源学演習	三田村、市川、小林(志)ほか	A512	4回生	通年	2

理学部 生物科学科

講義名	担当教員	科目	対象	開講期	単位
海洋生物学	下村、中野、後藤、山守	2705	2回生以上	前期	2
無脊椎動物学	下村、中野、後藤、山守	2708	2回生以上	後期	2
臨海実習第1部	下村、中野、後藤、山守	2733	2回生以上	前期集中	2
生物学セミナーB(10)	下村、中野、後藤、山守	3761	3回生以上	後期	2
臨海実習第2部	下村、中野、後藤、山守	3767	3回生以上	前期集中	2
臨海実習第4部	下村、中野、後藤、山守	3769	3回生以上	前期集中	2

◆学位授与

(農学：森林情報学分野)

修士 足立 浩汰朗 窒素制限が強い森林において優占樹種および土壌母材が土壌微生物群集と窒素動態に与える影響

(農学：森林育成学分野)

修士 太田 果南 原始的な森林における中・大型哺乳類の活動と人為影響-芦生研究林の事例-

修士 神津 州佑 広葉樹二次林の伐採管理が土壌真菌群集と土壌養分環境に与える影響-全国里山土壌調査を通して-

修士 藤村 光希 スギ人工林における皆伐初期の硝化・脱窒機能遺伝子からみた窒素動態

(農学：里海生態保全学分野)

博士 井上博 日本海における持続可能な漁業に向けてのEcopathモデルの適用

修士 黒澤 匠 アオリイカの対捕食者行動パターンとクサフグの存在による影響

修士 杉山 友樹 ダイナンギンポ (スズキ目タウエガジ科) の系統地理学的研究

修士 田原 宏一 ゲノムワイドSNPに基づくアカシタビラメ種群の集団構造分析

修士 平田 愛実 丹後海におけるスズキ浮遊仔魚の食性

修士 劉 瑾妍 アイゴの被食圧についての行動実験と捕食者胃内容物分析による評価

(農学：海洋生物環境学分野)

博士 船越 裕紀 Hypoxia and oligotrophy faced by bivalve aquaculture in the semi-enclosed sea area (Kumihama Bay, Kyoto) (閉鎖性海域(久美浜湾)の二枚貝養殖が直面する貧酸素と貧栄養)

修士 荒井 優志 汽水域および海水域におけるホシガレイ人工種苗の捕食者の特定と被食による減耗の評価

修士 小木曾 奏斗 PITタグを用いた長期追跡に基づく河川生活期におけるニホンウナギの季節的な活動と成長に関する研究

修士 志塚 竣介 受動的音響観測手法を用いた若狭湾、浅茅湾における小型鯨類の来遊種と出現傾向の推定

修士 得田 悠裕 ジュゴンの摂餌行動を通じた母仔ペアの来遊傾向把握と船舶航行の影響の評価

修士 長村 啓太 河川改修工事による物理環境の変遷に伴うニホンウナギの分布の変化

学士 伊藤 達紀 耳石微量元素分析によるサツキマス(アマゴ)の多様な回遊様式の評価

学士 上田 聖真 赤外線暗視カメラとPITタグを用いた黄ウナギ期および銀ウナギ期におけるニホンウナギの下流への移動に関する研究

学士 臣 和音 アザラシ類のストレス評価に向けたバイオマーカーに関する研究

学士 田中 碧 超音波テレメトリーを用いたホシガレイ種苗の移動と環境との関係に関する研究

(理学：基礎海洋生物学分野)

修士 金子 佑真 日本産アカエラミノウミウシ属の分類学的再検討

修士 張 家齊 北西太平洋とその周辺海域の潮間帯・浅海産ヤドカリ類の系統地理学的研究

修士 堀之内 恵志 紀伊半島南部に生息する等脚目ヒメスナホリムシ *Excirolana chiltoni* の生活史と砂浜海岸斜面における潜伏行動

修士 篠田 晏希 日本沿岸のヤドカリ類に寄生するヤドカリノハラヤドリ亜科(甲殻亜門：等脚目)の系統分類学的研究

(地球環境学舎 生態系連環論分野)

修士 伊澤 雄登 京都府由良川川口沖におけるアラメガレイの個体群動態

(5) 教育関係共同利用拠点事業

1) 公開実習科目一覧

フィールド研9施設のうち、2011年4月に舞鶴水産実験所および瀬戸臨海実験所が、2015年7月に芦生研究林・北海道研究林・上賀茂試験地が、文部科学省から教育関係共同利用拠点に認定され、拠点事業として、公開実習を実施するほか、他大学による実習、および他大学生、大学院生による論文作成のための利用を受け入れている。2024年度に実施した公開実習は以下の17科目である。

黒潮海域における海洋生物の自然史科学に関するフィールド教育共同利用拠点（瀬戸臨海実験所）

科目名	担当教員	実習期間	日数	学生数	学生の所属等
博物館実習（館園実務）	下村、中野、後藤	2024-06-04/08	5	3	北海道大学、龍谷大学、北里大学
Functional Morphology and Evolutionary Biology of Marine Invertebrates	下村、中野、後藤、山守	2024-08-06/12	7	10	東京農工大学、近畿大学、筑波大学(2)、東洋大学、大阪公立大学(2)、信州大学、島根大学(2)
自由課題研究	下村、中野、後藤、山守	2024-09-02/09-06	5	1	お茶の水女子大学
海産無脊椎動物分子系統学実習	下村、中野、後藤、山守	2025-02-25/03-04	8	12	帝京大学、東北大学(2)、奈良大学、筑波大学、兵庫県立大学、近畿大学、鹿児島大学(2)、桜美林大学(2)、茨城大学
藻類と海浜植物の系統と進化	下村、中野、後藤、山守	2025-03-15/19	5	6	東北大学、北海道大学、高知大学、横浜国立大学、桜美林大学、京都大学
沿岸域生態系多様性実習	下村、中野、後藤、山守	2025-03-26/31	7	7	北海道大学、宮城教育大学、東北大学、水産大学校、東京海洋大学、愛媛大学(2)

日本海における水産学・水圏環境学フィールド教育拠点（舞鶴水産実験所）

科目名	担当教員	実習期間	日数	学生数	学生の所属等
森里海連環学実習 I	益田、甲斐、鈴木、邊見ほか	2024-08-06/10	5	6	龍谷大学、東京都立大学、福島大学、北海道大学
魚類学実習	益田、甲斐、鈴木、邊見、八柳ほか	2024-08-23/28	6	4	広島大学(2)、京都市芸繊維大学(2)
魚類生態学実習	益田、甲斐、鈴木、邊見、八柳ほか	2024-08-28/09-02	6	1	東京海洋大学
沿岸生態学実習	益田、甲斐、鈴木、邊見、八柳ほか	2024-09-16/09-20	5	4	岩手大学(2)、名古屋工業、長崎大学
博物館実習（館園実務）	甲斐、鈴木、邊見	2024-11-01/05	5	0	
仔稚魚学実習	益田、甲斐、鈴木、邊見、八柳	2025-03-03/07	5	5	長崎大学(2)、広島大学、水産大学校、京都先端科学大学

人と自然のつながりを学ぶ森林フィールド教育共同利用拠点（芦生研究林・北海道研究林・上賀茂試験地）

科目名	担当教員	実習期間	日数	学生数	学生の所属等
森里海連環学実習 I（舞鶴水産実験所と共同開催）	徳地、石原、松岡、中西	2024-08-01/06 (2024-08-01)	5	4	東京都立大学、龍谷大学、北海道大学、福島大学
森里海連環学実習 II（北海道大学と共同開催）	小林（和）、杉山、張	2024-09-15/21 (2024-09-15/18)	7	10	北海道大学（10）
公開森林実習 I 近畿地方の奥山・里山の森林とその特徴	石原、小林（和）、松岡、坂野上、張	2024-09-04/06	3	10	北海道大学、千葉大学、筑波大学、信州大学、名古屋工業大学、大阪大学、近畿大学、福井県立大学、大阪産業大学、(台湾) 国立中央大学
公開森林実習 II 夏の北海道東部の人と自然の関わり	小林（和）、杉山	2024-08-06/10	5	11	千葉大学、北海道大学、東北大学、東京農業大学(2)、酪農学園大学、東京都立大学(2)、立命館大学、東京農工大学、宮城教育大学
公開森林実習 III 森林・里山の生態系サービスを学ぶ	館野、張、坂野上	2024-10-05/12-14	5	5	京都産業大学、三重大学、山形大学、京都先端科学大学、京都薬科大学

2) 舞鶴水産実験所における教育関係共同利用拠点事業

舞鶴水産実験所長 益田 玲爾

■他大学生を対象とした公開実習

全国共同利用教育拠点としての活動は、本年度が3期4年目となる。全国の大学生を対象に以下の6科目の公開実習を開講した。「森里海連環学実習I」は、芦生研究林内の由良川上流域から舞鶴市神崎の河口までの調査定点にて魚類と水生昆虫、プランクトン、付着藻類等を採集し、同時に水質や環境データを取得して、河川を經由した陸域と海域のつながりについて理解を深める実習である。本学の学生に加え、他大学生4人が参加した。「魚類学実習」では、由良川河口付近での魚類と餌生物の採集や魚類の解剖、仔稚魚の食性分析等を指導した。他大学生4人を受け入れた。「無脊椎動物学実習」では、緑洋丸に乗船しての底生生物の採集・分類とDNA分析、および環境観測を通して、沿岸生物の多様性と環境の関係を学んでもらった。他大学生1人を受け入れた。「沿岸生態学実習」を開講し、シュノーケリングによる魚類の観察や魚類の行動実験の実習に、他大学生4人が参加した。「博物館実習（館園実務）」では、魚類標本の作製とそのデータベース化について経験させ、他大学からの参加はなく本学の学生のみが参加した。「仔稚魚学実習」では、教育研究船・緑洋丸に乗船しての生物採集と分類、またスズキ仔魚を材料とした耳石日周輪の解析や餌生物の分析等を経験してもらった。特別聴講学生2人を含む他大学生5人が参加した。これら実習における他大学からの受講者は延べ95人であった。

■他大学による実習の受け入れ

近畿大学農学部3回生を対象とした環境管理学専門実験・実習を6月に実施し、延べ110人が参加して、海洋観測、魚類学、底生動物学等の実習を経験した。関西学院大学生命環境学部1・2回生を対象とした実習を8月に実施し、延べ100人の学生が参加して、魚類学習心理学、発生学、魚類・無脊椎動物分類学、沿岸海洋生態学等を学んだ。岐阜大学教育学部1・2回生を対象とした実習を9月に実施し、延べ64人が参加して、藻類学、発生学、魚類学、無脊椎動物学、沿岸海洋生態学等を学んだ。

■他大学生、大学院生による論文作成のための利用

共同利用研究として、全国の7大学から延べ216人の利用を受け入れた。

■運営実施体制

専任教員・研究員に加えて技術補佐員1人が共同利用を担当し、各自の専門性を活かしたサポートを行った。宿泊施設担当の労務補佐員を雇用し、宿泊棟を管理している。共同利用運営委員会を4月に開催し、拠点としての質の向上を目指した。フィールド実習教育に関するワークショップを開催し、舞鶴水産実験所の邊見由美助教から「実習生一拠点ポスター教員の立場からみる実習」と題して講演を提供した。一方、長崎大学環東シナ海環境資源研究センター、広島大学瀬戸内圏フィールド科学教育研究センター（竹原実験所）および北海道大学北方生物圏フィールド科学センター（七飯、臼尻、忍路実験所）と当実験所との間で締結した水産海洋実践教育ネットワークに関する協定も継続している。その一環として、本年度は当実験所の教員が北海道大学の实習にZoomによる講義を提供した。実験所のX（旧ツイッター）（https://x.com/mai_fish_res_st）では、実習に関する情報に加えて、当実験所で行われている調査研究や、市場に上がる魚などの情報を、基本的に毎日発信している。

3) 黒潮海域における海洋生物の自然史科学に関するフィールド教育共同利用拠点

瀬戸臨海実験所長 下村 通誉

■公開実習

瀬戸臨海実験所では、国立大学法人臨海臨湖実験所長会議に所属する施設が開講する公開臨海実習を文部科学省の財政的支援を受けながら 1989 年度から実施しており、2011 年度に文部科学省から教育関係共同利用拠点（教育拠点）に認定されてからは、当該事業として開講している。2012 年度からは概算要求による運営費交付金を獲得し、従来年間 2 科目の開講していたものを 5 科目に拡充し 2015 年度まで行った。2016 年度に教育拠点第二期の申請が認められ 5 ヶ年事業として実施した。2017 年度からはさらに 1 科目を増やし合計 6 科目とした。2021 年度に教育拠点第三期の申請が認められ 5 ヶ年事業の予定で実施中であり、2024 年度は公開実習 6 科目を実施した。

1. 博物館実習（館園実務）：2024年6月4日～8日。3大学3人延べ15人参加。
2. Functional Morphology and Evolutionary Biology of Marine Invertebrates：2024年8月8～12日。7大学10人延べ70人参加。理学部臨海実習第2部と日程・内容を重ねた。
3. 自由課題研究：2024年8月31～9月6日。1大学1人延べ7人参加。理学部臨海実習第1部と日程・内容を重ねた。
4. 海産無脊椎動物分子系統学実習：2025年2月25～3月4日。10大学13人延べ104人参加。
5. 藻類と海浜植物の系統と進化：2025年3月15～19日。4大学4人延べ20人参加。理学部臨海実習第3部と日程・内容を重ねた。
6. 沿岸域生態系多様性実習：2024年3月26～31日。6大学7人延べ42人参加。全学共通科目「森里海連環学実習 IV：沿岸域生態系に与える陸・川・人の影響」と日程・内容を重ねた。

■他大学による実習の受け入れ

瀬戸臨海実験所では、施設・設備を活用して行った他大学による臨海実習を共同利用実習として受け入れており、受け入れ数は、7大学（5国立校、1公立校、1私立校）、7科目、36日間、延べ635人であった。

■他大学学部生、大学院生による研究利用

瀬戸臨海実験所では、他大学の学部生および大学院生による研究目的での利用を共同利用研究として受け入れている。本年度の受け入れ数は、10大学（7国立校、3私立校）、13課題、延べ847人であった。

■運営実施体制

4月7日に共同利用運営委員会（学内委員4人・学外委員6人）をZoomでオンライン開催し、2023年度実績報告、2024年度事業計画の検討、2024年度実施計画書の検討を行った。

各拠点事業（公開臨海実習・共同利用実習・共同利用研究）については、実験所教員4人（教授1人・准教授1人・助教2人）、技術職員5人、事務職員5人が分担して運営にあたった。

■その他

拠点に対する運営費交付金を使って、拠点事業で用いる物品を充実させ、教育研究環境の向上を図った。また拠点事業による船舶の使用については、使用料を徴収しないようにした。

2024年4月7日に水産・臨海・臨湖実験所フィールド実習ワークショップをオンラインで行った。京都大学舞鶴水産実験所の邊見由美助教に講演をお願いし「実習生－拠点ポスドク－教員の立場からみる実習」を舞鶴水産実験所と共催で行った。

4) 人と自然のつながりを学ぶ森林フィールド教育共同利用拠点（芦生・北海道・上賀茂）

森林情報学分野 准教授 小林和也

■拠点施設が主体となる共同利用実習の提供

公開森林実習Iは芦生研究林および上賀茂試験地で開催し、特別聴講生として北海道大学1人、千葉大学1人、筑波大学1人、信州大学1人、大阪大学1人、一般聴講生として名古屋工業大学1人、近畿大学1人、福井県立大学1人、大阪産業大学1人、台湾 国立中央大学1人が参加し、延べ40人・日が受講した。原生的な森林である芦生研究林や里山である上賀茂試験地を見学し、森林と人の関わりの変遷について学習した。

公開森林実習IIは北海道研究林で実施し、大学コンソーシアム京都の単位互換制度を利用して立命館大学1人が参加したほか、特別聴講生として北海道大学1人、東北大学1人、千葉大学1人、一般聴講生として東京農業大学2人、東京都立大学2人、酪農学園大学1人、東京農工大学1人、宮城教育大学1人が参加し、延べ62人・日が受講した。このうち東京都立大学の1人は他大学実習に参加することで単位認定される制度（科目名：生物学学外体験実習）を利用して本実習について単位認定された。自然環境と人間活動の関係として生態系への影響が少ない林業について学習した。

公開森林実習IIIは上賀茂試験地で実施し、大学コンソーシアム京都から京都産業大学1人、京都薬科大学1人、特別聴講生として三重大学1人、一般聴講生として京都先端科学大学1人、山形大学1人が参加し、延べ25人・日が受講した。過去の実習の経緯や目的を踏まえつつ、受講生とともに今年度の目的や方針を議論し、森林整備やバイオマス利用を中心に里山の生態系サービスを学ぶ実習を行った。

■他の教育拠点との協働による共同利用実習の提供

森里海連環学実習Iを芦生研究林と舞鶴水産実験所が共同で実施し、本学学生5人、一般聴講生として東京都立大学1人、龍谷大学1人、北海道大学1人、福島大学1人が参加し、延べ9人・日が受講した。芦生研究林を源流域とする由良川に着目し、原流域の森林から河口までの生態系の講義、景観の観察、水質や生物相調査を行った。講義や調査結果について、過去のデータなどと比較しながら各参加者が学んだ内容について発表・議論を行った。

森里海連環学実習IIは北海道研究林と北海道大学厚岸臨海実験所の「森里海連環学 北大・京大合同演習」を共同で実施し、本学学生9人、北海道大学10人が参加し、延べ81人・日が受講した。森から海までの生態系と人間活動の影響に関する講義と森林、河川、沿岸海域での調査を行って、集めたデータをもとに班ごとに発表を行い、理解を深めた。

■他大学の实習科目等、卒業研究・修士研究に関する教育へのフィールドの提供と支援

放送大学、大阪産業大学、京都光華女子大学、北海道教育大学釧路校、京都精華大学、北海道大学、京都府立大学、酪農学園大学、京都教育大学、人間環境大学、東邦大学、四天王寺大学から合計16件の実習を受け入れ、拠点施設の教職員が講義や実習を担当・支援したほか、Amdalas University、京都工芸繊維大学、京都府立大学、神戸大学、大阪公立大学、大阪産業大学、筑波大学、鳥取大学、同志社大学、日本大学、福島大学、龍谷大学の学部生・院生を受け入れ、拠点3施設の教職員がフィールドの提供並びに研究支援を行った。

■ネットワークを活用した実習フォローアップと教育プログラムの新規開発・提案・改善

公開森林実習Iでは、北海道研究林とオンラインで接続したうえで、参加学生に自身の身の回りの森林について他の学生に紹介してもらい、各地の森林と芦生、上賀茂、北海道と比較することで、日本の多様な森林の特徴や人と森の関わりが多様性と共通性について理解が深めた。

大学院生向けの高度な実習の開発に向けて、芦生研究林において菌類ワークショップを開催した。講師として本拠点の教員2人の他、信州大学、栃木県立博物館、理化学研究所から若手研究者1人ずつを招聘し、フィールド調査から室内でのサンプル処理まで、菌類を対象とした研究手法の実践的な講義と実習を行った。京都大学学部生1人、修士課程1人、信州大学学部生1人、佐賀大学修士課程1人、鳥取大学博士課程1人、三重大学修士課程1人、神戸大学博士課程1人の計12人、延べ38人・日が参加した。

■資料、試料と蓄積データの提供

拠点施設での長期モニタリング調査を継続して実施するとともに、毎木調査のデータベース化を進め、データペーパーとしての原稿を準備している。他に芦生研究林・上賀茂試験地のLiDARデータ、芦生研究林・北海道研究林の人工林の微生物群集、北海道研究林の毎木データがデータペーパーとして公開された。

(6) 研究活動・外部資金の獲得状況

研究プログラム委員会委員長／三田村啓理

2024年度 受託研究

(金額の単位はすべて千円)

委託者	事業名	研究担当者	職種	研究課題名	2024年度 交付額
大学共同利用機 関法人 情報・シ ステム研究機構 国立情報学研究 所	-	徳地 直子	教授	A I等の活用を推進する研究データエコシステム 構築事業	5,000
国立研究開発法 人 科学技術振興 機構	共創の場形成支援 プログラム 本格 型 (COI-NEXT)	徳地 直子	教授	ゼロカーボンバイオ産業創出による資源循環共創 拠点に関する研究開発	7,475
福島国際研究教 育機構	令和6年度「原子力 災害からの復興に 向けた課題の解決 に資する施策立案 研究」委託事業	三田村 啓理	教授	原子力災害に関するデータや知見の集積・発信 (放 射性物質の魚類への取込・排出メカニズム)	5,542
福島国際研究教 育機構	令和6年度農林水 産分野の先端技術 展開事業	三田村 啓理	教授	I C Tインフラを用いた効果的な種苗放流による 資源の安定化	43,500
国立研究開発法 人 水産研究・教 育機構	水産資源調査・評 価推進委託事業	三田村 啓理	教授	くろまぐるユニットのうちクロマグロ幼魚の成長 量の個体差及び季節差の発現機序に関する研究	1,575
国立研究開発法 人 水産研究・教 育機構	環境研究総合推 進費	市川 光太郎	准教授	ドローン空撮による藻場を利用するアオウミガメ の自動検出手法の開発と個体数推定	2,249
国立研究開発法 人 農業・食品産 業技術総合研究 機構生物系特定 産業技術研究支 援センター	スタートアップ総 合支援プログラム (SBIR支援)	伊勢 武史	准教授	高速教師画像作成法を用いた森林植生判別AIによ る森林資源把握の効率化	9,997
受託研究	計7件				75,338

2024年度 受託事業

委託者	委託事業名	研究代表者	職種	2024年度 交付額
京都市	京都丹波高原国定公園生態系維持回復事業生態系モニタリング調 査等業務	石原 正恵	准教授	1,602
一般財団法人リモ ート・センシング技術セ ンター	陸域炭素収支算定に関する高精度バイオマスマップ等の整備手法 の開発と検証に係る支援作業	石原 正恵	准教授	1,667
受託事業	計2件			3,269

2024年度 学術指導

委託者	学術指導名	研究担当者	職種	2024年度 交付額
いであ株式会社	海洋哺乳類の水中鳴音判別に関する指導	市川 光太郎	准教授	864
学術指導	計1件			864

2024年度 共同研究

委託者	委託研究名	研究担当者	職種	研究担当者	2024年度 交付額
鳥取大学乾燥地 研究センター共 同研究	アラブ首長国連邦のマングローブ生態系における根 圏微生物の多様性	舘野 隆之輔	教授	-	324
パナソニックホ ールディングス 株式会社	森里海連環学のテーマ探索	徳地 直子	教授	-	3,900
パナソニックホ ールディングス 株式会社	パナソニック先進共同研究部門（研究題目：中長期 的視点での社会的課題型研究テーマ、異分野融合型 研究テーマ、未踏型研究テーマの探索と検討）	徳地 直子	教授	-	1,000
株式会社アクア サウンド	スマート・バイオテレメトリー技術の開発	三田村 啓理	教授	-	572
京大大学生態学 研究センター 共 同研究a	砂浜の食物網における餌資源としてのアオウミガメ 卵の寄与率の解明	三田村 啓理	教授	-	290
京大大学生態学 研究センター 共 同研究b	個体識別を行ったニホンウナギの季節変化および成 長に伴う食性変化の解明	三田村 啓理	教授	-	0
国立極地研究所 2024年度 戦略的 研究プロジェクト	環境DNAとバイオテレメトリー技術の融合による生態 系モニタリング技術の開発：アクセスが困難な南極 海氷下生態系をモデルとした手法確立	河合 賢太郎	広島大学 助教	三田村 啓理 市川 光太郎	2,250
国立研究開発法 人 理化学研究所	自然環境における感情センシング研究	吉川 左紀子	研究員	-	880
ホクサン株式 会社	林地用除草剤のドローン散布による環境影響試験	小林 和也	准教授	-	299
株式会社カーリ ット	林地用除草剤のドローン散布による環境影響試験	小林 和也	准教授	-	299
Biologging Solutions 株式 会社	水中サウンドスケープ観測可能なバイオリギングに よる生物多様性のマッピング	市川 光太郎	准教授	-	2,145
パナソニックホ ールディングス 株式会社	環境DNA解析手法を用いた陸域の生物多様性モニタ リング	松岡 俊将	講師	-	1,870
共同研究	計12件				13,829

2024年度 共同事業

委託者	委託研究名	研究担当者	職種	2024年度 交付額
株式会社日本総 合研究所	カーボンサイクルイノベーションコンソーシアム2024の推進	小林 志保	助教	50
共同事業	計1件			50

2024年度 機関経理補助金

委託者	委託研究名	研究担当者	職種	2024年度 交付額
京都府	学生とともにのぼす京都プロジェクト共同事業費補助金「ビジターセ ンター×京大×未来知プロジェクト」	石原 正恵	准教授	390
京都府	学生とともにのぼす京都プロジェクト共同事業費補助金「京都の都市 近郊型里山の新しい活用のあり方～大学生の持続的な参加へ～」	舘野 隆之輔	教授	390
機関経理補助金	計2件			780

2024年度 寄附金

寄付者(団体)	プロジェクト名	担当教員	職種	2024年度 交付額
公益財団法人 イオン環境財団	新しい里山・里海 共創プロジェクト研究	館野 隆之輔 徳地 直子 益田 玲爾	教授	30,000
認定特定非営利活動法人 アース ウォッチ・ジャパン	環境DNAを用いた魚類調査プロジェクト	益田 玲爾	教授	145
株式会社 ツカサペトコ	海藻の培養と増殖に関する研究	益田 玲爾	教授	3,000
一般財団法人 自然環境研究セン ター	森林生態系の長期動態に関する研究助成金	徳地 直子	教授	1,903
吉川 左紀子	持続可能な社会	徳地 直子	教授	1,000
株式会社アクアサウンド	海洋生物環境学に対する研究助成	三田村 啓理	教授	840
サントリーホールディングス株式 会社	都市近郊の里山林における「環境林施業と持続可能なバ イオマス利用」に関する研究の助成のため	長谷川 尚史	准教授	1,000
一般財団法人 自然環境研究セン ター	森林生態系の長期動態に関する研究助成金	石原 正恵	准教授	1,647
公益財団法人 自然保護助成基金	絶滅危惧植物群の域外保全の社会実装：資金・担い手の 好循環モデルの確立に向けて	石原 正恵	准教授	2,000
一般社団法人 芦生もりびと協会	芦生研究林の環境保全を目的とする助成	石原 正恵	准教授	162
公益財団法人 河川財団	深層学習を用いた二ホンウナギ稚魚の堰遡上行動モニ タリング	市川 光太郎	准教授	1,000
一般財団法人 自然環境研究セン ター	森林生態系の長期動態に関する研究助成金	坂野上 なお	講師	1,842
京都府立洛西高校	社会連携活動及び高大連携活動	坂野上 なお	講師	20
公益財団法人 河川財団	河口域の魚類多様性評価への環境DNA技術応用の検 討	鈴木 啓太	助教	1,000
舞鶴とり貝組合	舞鶴湾の環境調査助成	鈴木 啓太	助教	1,100
宮津湾とり貝育成組合	宮津湾の環境調査助成	鈴木 啓太	助教	120
公益財団法人 旭硝子財団	集団ゲノミクスを活用した干潟の絶滅危惧生物「シャミ セガイ」の多様性保全研究	後藤 龍太郎	助教	2,000
公益財団法人 日本生命財団	干潟の絶滅危惧巨大生物サナダムシの保全生物学的 研究	後藤 龍太郎	助教	1,400
公益財団法人 サントリー文化財 団	中国農村部の生きた民間信仰の継承と再構築：巫女・道 士・占い師に着目して	張 曼青	特定 助教	200
公益財団法人 阪本奨学会	里山管理を目的とした簡易架線導入の検討	藤井 弘明	技術 専門員	300
寄附金 計20件				50,678

2024年度 京都大学芦生研究林基金

期間	件数	2024年度 入金額
第1四半期	15	206
第2四半期	13	92
第3四半期	18	189
第4四半期	15	374
京都大学芦生研究林基金 計61件		861

2024年度 科学研究費補助金 (代表者)

(交付機関はすべて独立行政法人日本学術振興会)

研究種目	研究者	職種	研究期間 (年度)	課題番号	研究課題名	交付額合計 ※予定含む	2024年度 交付額
国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化(B))	舘野 隆之輔	教授	2020-2024	20KK0134	半乾燥生態系での植物-根圏微生物相互作用系を活用した緑化技術の開発	18,850	4,420
基盤研究(B)	舘野 隆之輔	教授	2021-2024	23K21215	斜面地形に沿った立地条件の違いに土壤微生物群集の機能や多様性が果たす役割の解明	17,160	3,120
基盤研究(B)	徳地 直子	教授	2022-2025	23K23650	市民協力による広域多点採水と高精度分析技術を用いた河川リン酸濃度決定機構の解明	17,290	4,030
基盤研究(B)	小林 和也	准教授	2021-2024	23K21199	シロアリにおける性決定遺伝子とその多様化プロセスの解明	17,290	3,250
基盤研究(B)	中野 智之	准教授	2022-2024	23K23945	小笠原諸島西之島の生物相の起源	13,130	3,250
基盤研究(B)	松岡 俊将	講師	2024-2028	24K01781	シカ過採食に伴う植生の喪失と回復が生物多様性と生態系機能に及ぼす影響の解明	18,590	3,250
基盤研究(C)	朝倉 彰	特任教授	2023-2025	23K05888	日本列島と周辺海域の東亜固有種の成立プロセス-潮間帯性ヤドカリを例として	4,680	1,560
基盤研究(C)	小林 志保	助教	2022-2024	22K12460	間欠的に貧酸素化する浅海域に生息する底生貝類の斃死リスクに温暖化が及ぼす影響評価	4,160	1,170
基盤研究(C)	後藤 龍太郎	助教	2023-2025	23K05906	宿主内種分化による多様化プロセスの解明:海産共生貝類における検証	4,680	1,560
基盤研究(C)	駒井 幸雄	研究員	2023-2025	23K05316	西日本全域の溪流河川水中窒素濃度の実態とランダムフォレスト法による要因解析	4,680	1,950
研究活動スタート支援	河村 真理子	特定講師	2024-2025	24K23145	鉢虫綱のクラゲの発生源推定における生体鉱物の利用	1,950	1,170
研究活動スタート支援	八柳 哲	特定研究員	2024-2025	24K23922	森里海をつなぐメタ群集構造の決定プロセス解明:若狭湾系沿岸群集に着目して	2,730	1,560
若手研究	邊見 由美	助教	2024-2027	24K18188	日本海の潮下帯における造巣性甲殻類の分布と住み込み共生の解明	4,810	2,600
若手研究	山守 瑠奈	助教	2023-2027	23K14263	岩盤穿孔者の持つ生態系エンジニア機能の解明	4,680	780
若手研究	杉山 賢子	助教	2024-2025	24K17924	森林の下層植生の衰退は林床菌類の分散・環境応答を変化させるのか	4,680	1,300
挑戦的研究(萌芽)	伊勢 武史	准教授	2023-2025	23K17569	表情認識と人物トラッキングによる「滞在と感動」の推定と地域特性に沿った観光振興	6,370	2,470
奨励研究	中村 はる奈	技術職員	2024	24H02744	フィールド実習におけるサイバーフィジカルシステム導入の検討	470	470
科学研究費補助金 計17件							37,910

2024年度 科学研究費補助金 (分担者)

(交付機関はすべて独立行政法人日本学術振興会)

研究種目	研究者	職種	代表者名 (所属)	研究期間 (年度)	課題番号	研究課題名	2024年度 交付額
基盤研究(A)	舘野 隆之輔	教授	Haregeweyn N (鳥取大学)	2024-2028	24H00777	土壌侵食と土壌微生物の相互作用の解明:侵食モデルへの微生物因子の組み込みに向けて	650
基盤研究(A)	舘野 隆之輔	教授	木庭 啓介 (京都大学)	2022-2025	22H00383	動的マルチオミクス解析による土壌有機物分解機構の解明	390
基盤研究(B)	舘野 隆之輔	教授	智和 正明 (九州大学)	2022-2025	23K23651	窒素沈着量の減少によって森林の生態系機能は回復するか	520
基盤研究(B)	舘野 隆之輔	教授	福澤 加里部 (北海道大学)	2022-2024	23K23641	樹木・林床植生系の菌根タイプの多様性を考慮した森林の土壌窒素動態メカニズムの解明	910
基盤研究(A)	徳地 直子	教授	島田 洋子 (京都大学)	2024-2028	24H00776	多面的機能を考慮した福島森林再生のための総合的評価手法の開発	1,170
基盤研究(B)	徳地 直子	教授	酒井 佳美 (国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所)	2024-2027	24K01805	非破壊測定手法を用いた材分解促進イベントの実証	715

挑戦的研究 (開拓)	徳地 直子	教授	石丸 香苗 (福井県立大学)	2024-2028	24K21177	ESGの世界的潮流は世界の食糧安全保障に危機をもたらすかーブラジルと日本の視座から	260
基盤研究(A)	三田村 啓理	教授	和田 敏裕 (福島大学)	2024-2028	24H00517	処理水放出後の漁業復興に向けた原発周辺水域の水産物の安全性評価と科学的知見の発信	1,040
基盤研究(B)	下村 通誉	教授	藤田 喜久 (沖縄県立芸術大学)	2020-2024	23K20305	琉球列島の洞窟水圏環境における生物多様性の解明	130
基盤研究(B)	長谷川 尚史	准教授	鈴木 保志 (高知大学)	2021-2024	23K21785	持続可能な次世代分散定住社会のために今必要な森林地域の道路網整備の隘路はどこか?	542
基盤研究(A)	伊勢 武史	准教授	飯島 慈裕 (東京立大学)	2024-2027	24H00125	永久凍土荒廃による流域化がもたらす水文・生態・人間活動への影響	1,300
基盤研究(B)	石原 正恵	准教授	戸田 求 (広島大学)	2024-2027	24K01814	大気-植生動態モデルを用いて将来気候下における老齢林の気温緩衝能を評価する	234
基盤研究(C)	石原 正恵	准教授	門脇 浩明 (京都大学)	2021-2025	21H02233	シカ食害が招く森林衰退:植物土壌フィードバックに着目して	100
基盤研究(A)	市川 光太郎	准教授	宮本 佳則 (東京海洋大学)	2024-2026	24H00520	南極沿岸氷床下におけるノトニア科魚類の行動と海洋物理環境の関係	1,300
学術変革領域 研究(A)	松岡 俊将	講師	塩尻 かおり (龍谷大学)	2023-2028	23H04970	生物間相互作用によるBVOCの改変	2,886
基盤研究(B)	松岡 俊将	講師	深澤 遊 (東北大学)	2024-2026	24K01807	菌類による枯死木分解が森林の更新と炭素貯留に与える影響は気候でどう変わるか	120
国際共同研究 加速基金 (海外連携研究)	松岡 俊将	講師	深澤 遊 (東北大学)	2024-2027	24KK0125	南米における枯死木分解に関わる菌類群集と倒木更新の生物地理	50
学術変革領域 研究(A)	小林 志保	助教	杉本 亮 (福井県立大学)	2022-2026	22H05202	陸海境界領域を含む沿岸域における陸起源物質の動態解明と縁辺海への輸送量の定量	3,608
基盤研究(B)	鈴木 啓太	助教	杉本 亮 (福井県立大学)	2021-2024	23K21231	沿岸浅海域における地下水湧出と低次生産過程の統合的研究	390
基盤研究(B)	後藤 龍太郎	助教	岡本 朋子 (岐阜大学)	2021-2024	23K21339	植物と送粉者の種特異性における化合物のブレンドとキラリティーの役割	260
基盤研究(B)	邊見 由美	助教	安房田 智司 (大阪公立大学)	2022-2024	23K23966	海産動物の共生・寄生関係の実態と進化・維持機構を「認知進化生態学」で紐解く	260
挑戦的研究 (萌芽)	邊見 由美	助教	杉本 亮 (福井県立大学)	2023-2024	23K18053	生物巣穴は浅海域の物質循環に重要か:生態系エンジニアリング効果の定量技術開発	130
基盤研究(B)	杉山 賢子	助教	深澤 遊 (東北大学)	2024-2026	24K01807	菌類による枯死木分解が森林の更新と炭素貯留に与える影響は気候でどう変わるか	120
国際共同研究 加速基金 (海外連携研究)	杉山 賢子	助教	深澤 遊 (東北大学)	2024-2027	24KK0125	南米における枯死木分解に関わる菌類群集と倒木更新の生物地理	50
基盤研究(A)	張 曼青	特定 助教	島田 洋子 (京都大学)	2024-2028	24H00776	多面的機能を考慮した福島の森林再生のための総合的評価手法の開発	1,170
基盤研究(A)	野田 琢嗣	研究員	和田 敏裕 (福島大学)	2024-2028	24H00517	処理水放出後の漁業復興に向けた原発周辺水域の水産物の安全性評価と科学的知見の発信	1,040
科学研究費補助金 計26件							19,345

2024年度 科学研究費補助金 (特別研究員奨励費)

(交付機関はすべて独立行政法人日本学術振興会)

研究者	職種	指導教員名	研究期間 (年度)	課題番号	研究課題名	交付額合計 ※予定含む	2024年度 交付額
藤田 大樹	特別研究員 (PD)	下村 通誉	2023-2025	23KJ1170	魚類寄生虫ウオノエ科における幼期形態と寄生戦略の解明	4,680	1,560
四ノ宮 千遥	特別研究員 (DC1)	下村 通誉	2024-2026	24KJ1503	穿孔性環形動物の種多様性と硬質基盤の侵食過程における生態的役割の解明	2,300	1,200
科学研究費補助金 (特別研究員奨励費) 計2件							2,760

2024年度 研究助成金(学生取得分)

助成名	課題名	学生氏名	所属・学年	担当指導教員	2024年度 交付額
卓越大学院プログラム 履修者研究活動経費	ニホンウナギの他分野融合的な研究を可能に する研究プラットフォームの構築	小木曾 奏斗	修士課程2年	三田村 啓理	270
研究助成金(学生取得分) 計1件					270

2024年度 次世代研究者挑戦的研究プログラム支援事業(京都大学大学院教育支援機構プログラム)

氏名	学年	指導教員名	研究期間 (年度)	研究課題名	2024年度 交付額
橋添 なな実	博士後期課程 3回生	三田村 啓理	2022. 4- 2025. 3	クロマグロ当歳魚の回遊経路解明のための高精度位置 推定技術の確立	400
大上 迪士	博士後期課程 2回生	館野 隆之輔	2023. 4- 2026. 3	河川源流域の森林渓流水中の微生物群集構造の時空間 的変動とその機構の解明	400
Hunter Harter Godfrey	博士後期課程 1回生	益田 玲爾	2023. 10- 2026. 9	人工魚礁の有効性についての目視調査および環境DNA を用いた評価	400
千田 哲朗	博士後期課程 1回生	益田 玲爾	2024. 10- 2027. 3	カジカ類を題材とした魚類の形態的・遺伝的多様化プ ロセスの解明	568
次世代研究者挑戦的研究プログラム支援事業 計4件					1, 369

(7) 社会連携活動

1) フィールド研主催事業

- ① 第9回森里海シンポジウム「里山里海の今を知る」
日時：2025年3月25日
会場：益川ホール
(第10回 新しい里山里海の勉強会 併催)
- ② 高校生森里海研究ポスター発表会
日時：2025年3月25日
会場：益川ホール
- ③ 新しい里山里海の勉強会
日時：2024年7月3日、2025年1月14日 (第7、9回)
場所：オンライン
- ④ 里山おーぷんらぼ@上賀茂
日時：2024年4月13日～2025年3月11日(2024年度第1～11回)
会場：上賀茂試験地
主催：フィールド科学教育研究センター、公益財団法人イオン環境財団
- ⑤ 里山里海つながるフェス@イオンモール高の原
日時：2024年12月8日
会場：イオンモール高の原
主催：フィールド科学教育研究センター、公益財団法人イオン環境財団
共催：JST COI-NEXT「ゼロカーボンバイオ産業創出による資源循環共創拠点」
(第8回 新しい里山里海の勉強会 併催)

2) フィールド研共催・後援事業

- ① 第20回京都大学附置研究所・センターシンポジウム 京都大学鹿児島講演会 京都からの挑戦ー地球社会の調和ある共存に向けてー「京都大学が提案する未来」
日時：2025年3月1日
会場：カクイックス交流センター (かごしま県民交流センター) 県民ホール
主催：京都大学、京都大学研究連携基盤

3) 各施設等主催共催事業

- ① 芦生研究林
資料館「斧蛇館」リニューアルオープン記念式典 6月25日
京都府立植物園において、公開講演会「芦生の森の昆虫たち 今昔物語」を開催 8月24日
芦生研究林一般公開<京大ウィークス参加イベント> 10月20日
芦生菌類ワークショップ 10月12～14日
- ② 北海道研究林
初夏の花観察会プチフラワーソン2024 (標茶区) 6月16日
自然観察会「秋の森の生態系」(白糠区) <京大ウィークス参加イベント> 10月5日
- ③ 和歌山研究林
有田川町立石垣小学校との共催で、森林体験学習 6月7日
有田川町立八幡小学校との共催で、森林体験学習 5月22日、11月1日
和歌山県紀の国森づくり基金活用事業 (緑育推進事業) 10月10日、11日、11月14日
(株式会社マルカ林業との共催)
ミニ公開講座 <京大ウィークス参加イベント> 10月26日
地上権返還記念式典「和歌山研究林100年目からの新たな歩み～99年を振り返る～」 11月28日
(有田川町との共催)

	和歌山研究林見学会	11月29日
④	上賀茂試験地	
	「里山フェスin上賀茂試験地：洛再Linksのみんなと里山で遊ぼう!!」	10月6日
	秋の自然観察会〈京大ウィークス参加イベント〉	10月26日
⑤	徳山試験地	
	周南市連携事業「鼓南中学校環境学習」	6月14日
	京都大学・周南市連携講座	6月15日
	周南市・フィールド研連携公開講座〈京大ウィークス参加イベント〉	10月19日
⑥	北白川試験地	
	夏の自然観察会「大学キャンパスで虫みつけ」〈京大ウィークス参加イベント〉	8月3日
⑦	舞鶴水産実験所	
	大浦の魚付き林と海辺の生き物観察会	7月24日
	教育研究船「緑洋丸」による舞鶴湾の生物採集およびスライドショー上映 〈京大ウィークス参加イベント〉	10月26日
⑧	瀬戸臨海実験所	
	第87～92回瀬戸海洋生物学セミナー	4月23日～2025年2月20日
	きのくに県民カレッジ連携講座「水族館の磯採集体験」	4月13日、5月11日、6月8日
	島島ビーチクリーン活動	6月22日
	「研究者と飼育係のこだわり解説ツアー」「バックヤードツアー」	7月20日～9月1日
	「大水槽エサやり体験」	7月22日～8月28日
	きのくに県民カレッジ連携講座「水族館の飼育体験」	10月5日、11月30日、2025年3月1日
	公開ラボ・施設見学「白浜の海の自然と発見」〈京大ウィークス参加イベント〉	10月19日
	特別企画展「絶滅のおそれのある海の生き物展：和歌山県レッドデータブック でひもとく」	2023年12月23日 ～2024年4月7日
	「研究者と飼育係のこだわり解説ツアー」「バックヤードツアー」	12月25日～2025年1月7日
	白浜の豊かな海と生き物について学ぼう！	2025年2月15日
	「研究者と飼育係のこだわり解説ツアー」「バックヤードツアー」「大水槽えさやり体験」	2025年3月25～4月7日

(8) 広報活動

1) フィールド研の刊行物

フィールド研年報

『京都大学フィールド科学教育研究センター 年報 第21号』, 京都大学フィールド科学教育研究センター, 79p., 2024.

FSERC News

<No. 63 2024年6月>

—目次—

センター長就任挨拶

(館野 隆之輔)

新人紹介： 下村 通誉 (基礎海洋生物学分野 教授)

田中 拓弥 (森林育成学分野 特任講師)

八柳 哲 (里海生態保全学分野 特任助教)

受賞の記録：

研究者の異動：

活動の記録： 2024年1月～4月

新刊紹介：

フィールド散歩： 冬から春にかけての各施設及びその周辺の写真 6枚

<No. 64 2024年10月>

―目次―

研究ノート	南極における海氷下の魚類研究	(市川 光太郎)
社会連携ノート	北白川試験地 夏の自然観察会の開催	(芦生研究林/北白川試験地 山中 公)
技術ノート	白浜水族館の非常用自家発電設備について	(瀬戸臨海実験所 武藤 岳人)
受賞の記録:		
研究者の異動:		
活動の記録:	2024年5月～8月	
予定:		
フィールド散歩:	夏から秋にかけての各施設及びその周辺の写真 6枚	

<No. 65 2025年2月>

―目次―

社会連携ノート	和歌山研究林「100年目からの新たな歩み～99年を振り返る～」	(徳地 直子)
研究ノート	希少鳥類の交通事故発生パターンの推定：長期データと状態空間モデルを用いた解析	(小林 和也)
新人紹介	鈴木 華実 (森林育成学分野 助教) 高木 淳一 (海洋生物環境学分野 特任助教)	
受賞の記録:		
活動の記録:	2023年9月～12月	
予定:		
フィールド散歩:	秋から冬にかけての各施設及びその周辺の写真6枚	

□概要パンフレット

FSERC Topics Sep. 2024, 京都大学フィールド科学教育研究センター 発行, 2p., 2024. 9

□新しい里山・里海 共創プロジェクト

『第6回新しい里山里海の勉強会報告書』, 京都大学フィールド科学教育研究センター 発行, 16p., 2024. 10
(冊子デザイン 京都芸術大学情報デザイン学科学学生)

2) 施設等の刊行物

□森林研究 (森林生態系部門紀要)

『森林研究』第83号, 京都大学フィールド科学教育研究センター森林生態系部門発行
(オンライン版 <http://hdl.handle.net/2433/290603>)

<資料>京都府南部の小面積孤立林(京都大学・宇治キャンパス構内)におけるハイタカAccipiter nisus の記録
(久野 真純, 本村健, 大手信人)

□瀬戸臨海実験所紀要

(2024年度は発行なし)

□研究林・試験地情報

『研究林・試験地情報 2023 (令和5) 年度』, 京都大学フィールド科学教育研究センター森林・里域フィールド管理部門, 123p., 2025-02-20

―目次―

各施設年次報告

芦生研究林年次報告	(石原 正恵)
北海道研究林年次報告	(小林 和也)
和歌山研究林年次報告	(徳地 直子)

上賀茂試験地年次報告

(館野 隆之輔)

徳山試験地年次報告

(徳地 直子)

北白川試験地年次報告

(徳地 直子)

個別報告

DF Scannerの森林調査業務への利用について

(北川 陽一郎)

構内ミニ植物園整備のための植物相調査

(岸本 泰典)

Google Apps Scriptを用いたクイズ作成スクリプトの開発

(宮城 祐太)

芦生研究林における菌類子実体（きのこ）の発生の調査と過去調査との比較

(永井 貴大)

冷凍保存したモウソウチク種子の発芽試験

(長谷川 敦史)

研修報告

研究資料

業務資料

□瀬戸臨海実験所年報

(2024年度は発行なし)

3. 各施設等の活動

(1) 各施設等の活動概要

1) 芦生研究林

芦生研究林長 石原 正恵

■教育研究

利用者は、教育研究が延べ3,285人（教育1,364人、研究1,921人）、その他・一般2,891人、合計6,176人であった。教育においては、合計32件の実習を受け入れた（内訳：公開森林実習Ⅰ、森里海連環学実習Ⅰ、本学実習15件、他大学実習6件、ゼミ・課外実習など8件、小中高の実習3件）。カセサート大学、IPB大学などの海外大学の実習、人間・環境学研究科附属学術越境センターの実習を新たに実施した。超学際関係の実習が増えており、負担軽減のため美山観光まちづくり協会との連携を進めた。

研究においては、多数の利用者の受入・支援を行うと同時に、生態系プロジェクト、モニタリングサイト1000、水質・気象モニタリング、河川水の環境DNA（ANEMONE）、国際プロジェクトLIFEPLANなどのプロジェクトを実施・協力した。森林炭素蓄積量の高精度推定を目指すJAXAのスターダストプログラムについて、3月に作られたマニュアルに基づきドローン・GNSSを用い、固定標準地において4隅の杭チェック、打ち直し等と位置測定を行った。タカノツメの新野生品種「ヒトツバタカノツメ」が発表された（阪口他 2024）。また芦生を含むモニタリングサイト1000のプロットにおけるLiDARデータがデータペーパーとして公開された（Takeshige *et al.* 2025）。芦生研究林基金をもとに2人の学生に公募研究の支援を行った。2025年3月3日に芦生Open Science Meeting 2024も実施した。

保全では、京都丹波高原国定公園生態系維持回復事業を京都府から受託し、防鹿柵の維持および柵内外での植生調査を芦生生物相保全プロジェクト（ABCプロジェクト）とともにに行った。野田畑湿原にて研究の一環として新たな防鹿柵を設置し、長治谷・野田畑湿原の防鹿柵の維持管理を行った。5月16日にKDDI関西総支社で社員向けの生物多様性の勉強会を開催し、6月16日にKDDI社員有志ボランティアにより、構内における外来種のツルニチニチソウ除去作業を行った。さらに、LPWAを用いたIoT鳥獣対策通知システムによるシカの有害駆除と林内通信の実証実験を進めた。その結果、6、12月にシカ4頭捕獲し、上述の生態系維持回復事業等とあわせて合計8頭を捕獲した。構内の希少植物種のミニ植物園においては2018年から開始した芦生希少植物域外保全プロジェクトを継続し、2025年度10月のオープンにむけて整備を進めた（芦生研究林基金）。プロ・ナトゥーラ助成金が採択され、美山小学校でゼンテイカの栽培が開始された。

■社会連携、広報

芦生研究林基金をもとに整備をすすめてきた資料館「斧蛇館」のリニューアルオープン式典を6月25日に開催し（約60人）、その後実習や広報活動に大きく寄与している。8月24日に京都府京都学・歴史館にて講演会「芦生の森の昆虫たち 今昔物語」（参加者128人）を開催した。京大ウィークス参加事業として一般公開を10月20日に開催した。応募者203人のうち、抽選で選ばれた34人が参加した。芦生研究林基金へは、86万円の寄付があった。

■施設の特記事項

研究林内において7月および11月に起こった豪雨により、林内5林班林道のかご枠設置箇所がずれ落ち、路肩が陥没する災害が起こった。また、2月に起こった大雪の影響による落雪で、二階建て物品倉庫および車庫のシャッターおよび壁が破損する災害があった。いずれも、2025年度に災害復旧経費にて修繕を行う予定である。

年度当初にユニックレーンのブーム収納忘れによる電柱・電線損傷事故が起こった。この事故をうけ、学生の広河原バス停までの送迎について、月曜日と木曜日のみに限定した。ゼミ合宿において転落事故があり救急搬送され、利用者へのヘルメット着用など注意点の周知を改めて行った。また昼間のクマの目撃件数が増え、一般利用者の一時入林禁止処置などを行った。林道法面上から倒木が落下し、ハイエースが破損し修理をした。

施設・車両の老朽化が進んでおり、芦生研究林基金にて学生合宿所の修繕、センター長裁量経費にてマイクロバスを更新、管理部門経費にて浄化槽ポンプ・火災報知器の更新、車の修理等を行った。今後も老朽化した施設の問題箇所が発生すると思われる、庁舎の建替の必要性が高まっている。省エネ対策のため、事務所と資料館のLED化を行った。また、猛暑対応を進めており、和歌山研究林から移管したエアコンを設置し、学生宿泊所（クラブ）については談話室を残し整備が終わった。また、学生合宿所北・南、長期滞在用宿舎（9号）の3部屋、講義室においても今後対策を検討する必要がある。

2) 北海道研究林

北海道研究林長 小林 和也

■教育研究

教育利用は、学内の実習として、全学共通科目の「森里海連環学実習 II」、農学部の「研究林実習 III」、「研究林実習 IV」と少人数の「ILASセミナー：北海道の昆虫相」「ILASセミナー：北海道のきのこの多様性と生き方」が行われ、延べ 569 人の利用があった。全学共通科目の「森里海連環学実習 II」は北海道大学厚岸臨海実験所と共同で行い、9月 15～21 日の日程で、本学 9 人と北海道大学の 10 人が参加し、別寒辺牛川の最上流部に近い標茶区から、牧草地として使われている中流、そして下流の厚岸湖にいたる流域の植生、土壌、水質、水生生物調査を通じて、森-里-海の繋がりについて学んだ。「研究林実習 III」は、8月 27 日～9月 3 日の日程で 25 人が参加し、北方の森林植生、森林の垂直分布や道東の林業・林産業の現況を学ぶとともに間伐施業体験などを実施した。「研究林実習 IV」は、2月 20～26 日の 7 日間の日程で 22 人が参加し、季節凍土が発達する道東において、冬の森林、積雪の調査法を修得し、獣害対策と環境資源としての森林の役割や持続的な利用について学んだ。「ILAS セミナー：北海道のきのこの多様性と生き方」は、9月 23～27 日の日程で 5 人が参加し、菌類多様性の調査・研究手法および森林生態系における菌類の機能について学んだ。また 8月 6～10 日に開催された「ILASセミナー：北海道の昆虫相」には、7 人が参加し、北海道の森林生態系における昆虫相について調査・研究手法を学び、データ解析の基礎を習得した。「ILASセミナー：北海道の昆虫相」と同時開講した他大学生向けの「公開森林実習 II」には、一般聴講生として宮城教育大学 1 人、東京農工大学 1 人、東京農業大学 2 人、酪農学園大学 1 人、東京都立大学 2 人、特別聴講生として北海道大学 1 人、東北大学 1 人、千葉大学 1 人、コンソーシアム京都を通じて立命館大学 1 人が参加した。その他、学外の実習として、酪農学園大学の「水圏・地圏総合実習」、北海道教育大学釧路校の「山岳生態学実習」、北海道大学の「生物学実習」を受け入れた。

研究活動は前年に引き続き野生動物モニタリングとして自動撮影カメラを用いたカメラトラップ調査、エゾシカのライトセンサス、エゾシカ目撃調査を行った。また、カラマツ樹冠下地掻きを行った箇所の植生調査、研究林全域を対象としたインベントリ調査、生態系プロジェクトとして標茶区の天然林の毎木調査、環境系プロジェクトとして雨水と渓流水の水質測定と天然林のリターフォールの調査を行った。JAXA 等との共同研究であるスターダストプログラムの一環として、業務で毎木調査を実施しているプロットの四隅を GNSS 測量し、取得した位置データと毎木調査データの提供を行った。また、ホクサン株式会社および株式会社カーリットとの共同研究として除草剤散布試験を行い、3月に札幌で開催された森林学会大会において発表を行った。研究利用は 48 件、延べ 1,556 人の利用があった。本学 28 件延べ 1,427 人、他大学 17 件延べ 110 人、他機関 1 件延べ 10 人、一般 2 件延べ 9 人で、研究内容は森林の植生と土壌の関わりに関する研究、道東特有の気象条件と大気窒素沈着に関する研究、森と川の繋がりに関する研究、森林内の植物・動物・菌類に関する研究など多岐にわたった。

■社会連携

社会教育として、例年、標茶町教育委員会と共催している「しべちャアドベンチャースクール」を 11月 17 日に予定していたが雨天のため中止となった。10月 5 日に白糠区で京大ウィークス自然観察会を開催し、参加者は 13 人であった。また 6月 16 日に標茶区において初夏の花観察会を行い、13 人が参加した。10月 26、27 日に釧路市観光国際交流センターで開催されたくしろ木づなフェスティバルに参加し、施設紹介・研究紹介・森林の VR 体験・実体顕微鏡による標本観察・iPad を用いた森林に関するクイズ等を行った。社会教育全体で 3 件、延べ 65 人の利用があった。そのほか、10月 8～10 日に北海道東北地区大学演習林等技術職員研修を開催し、斜里町ウトロ地区において知床での自然管理・ヒグマやエゾシカとの関わり方について知床財団や知床ネイチャーオフィスの職員からの講義および現地案内を受けた後、標茶区で林内見学を行った。

■施設の特記事項

造林事業として、直営により 0.60ha のカラマツ造林地を皆伐し、0.63ha の伐採跡地にグイマツ F1 を植栽し、除草剤散布試験地として 0.14ha の未立木地にコンテナ苗(カラマツ、トドマツ、アカエゾマツ各 50 本)を植栽した。予定していたカラマツ請負間伐は、現場の傾斜・作業道の状況等から定性間伐では作業が困難なため実施しなかった。今後主伐することを検討していく。釧路総合振興局・標茶町役場と打合せを重ね、道の森林調査簿と研究林データの照査を行い、標茶区 3, 4, 5, 7 林班について R7-11 年度の森林経営計画を作成し認定された。また、植栽地の保育作業として下刈、獣害対策として電気柵の管理、殺鼠剤の散布を行った。釧路地域エゾシカ越冬期集中捕獲事業において、北海道釧路総合振興局、標茶町、標茶町猟友会などと協力して北海道研究林標茶区のエゾシカ捕獲に向けた調査を開始した。学生宿舎照明器具の LED 交換工事を行った。

3) 和歌山研究林

和歌山研究林長 徳地 直子

■教育研究

教育利用としては5件の申請を受け、延べ124人の利用があった。学外の利用としては、有田川町立八幡小学校の森林体験学習（春、秋）、同町立石垣小学校の森林体験学習、和歌山県農林大学校林業研修部の講義が行われ、学内の利用としては、ILASセミナーが実施された。

例年実施されてきた有田中央高校清水分校のウッズサイエンス（3年生向け）は、対象となる生徒の在籍がなかったため、2024年度は開講されなかったが、次年度以降の開催に向けて、高校や町と協議を行った。

研究利用としては7件の申請を受け、延べ135人の利用があり、その内外国人の研究利用者は学生6人であった。学内からは生態学研究センターの利用があったほか、学外からは宮崎大学、福島大学のほか、和歌山県立自然博物館、日本野鳥の会や民間企業による研究利用があり、溪流魚の生態や溪流の水質、菌類および粘菌類を対象とした研究や、ドローンによる資源量解析などに関する研究が行われた。

■社会連携

マルカ林業株式会社との共催で「緑育推進事業」（和歌山県紀の国森づくり基金活用事業）をマルカ林業社有林で3回実施し、和歌山市内の小学校から5年生計87人が参加した。

10月26日に京大ウィークス2024参加イベントとして開催したミニ公開講座は、16人の応募があり、当日は9人が参加した。

■施設の特記事項

京都大学がマルカ林業株式会社との間で交わした99年の地上権契約が2025年1月18日に満了となり、京都大学の所有地以外は地権者であるマルカ林業株式会社へ返還された。2024年11月28日には有田川町と共催で、和歌山研究林の99周年と地上権返還を記念するイベントを清水文化センターで開催した。京都大学やマルカ林業、有田川町をはじめとする自治体や、有田中央高校清水分校などの教育機関から多数の関係者にご参加いただき、一般参加者をあわせて100人が来場された。

翌日には、和歌山研究林内で現地見学会も開催し、フィールド研教職員や和歌山研究林に勤務経験のある技術職員OBなど総勢32人が参加した。

また、地上権返還に向けての事業としては、下がり滝からの取水に使用していた水道設備の撤去などが行われ、劣化していた教育研究棟（j.Pod）の西側壁面の改修工事も行われた。

人事としては、2024年12月末をもって専門職（技術）1人と非常勤職員1人が退職し、2025年3月末にも専門職（技術）1人が退職した。

4) 上賀茂試験地

上賀茂試験地長 坂野上 なお

■教育研究

2024年度の利用申請数は130件、教育、研究、見学の利用総数は2,952人で、前年度の申請数、利用総数をいずれも1割程度上回った。

学生実習などの教育関係の申請数は40件、利用者数は延べ1,709人で前年度より約270人増加した。5年目を迎えた公開森林実習IIIは、今年もコンソーシアム京都の科目として受講する実習生を含め5人を受け入れた。内訳は、京都産業大学、三重大学、山形大学、京都先端科学大学、京都薬科大学より各1人であった。

他大学の実習では、京都府立大学、京都精華大学、放送大学、京都光華女子大学、人間環境大学、京都教育大学、大阪産業大学から延べ509人の利用があった。研究利用では学内外から56件、838人の利用があった。研究成果として1件の卒業論文、4件の修士論文が公表された。

■社会連携

秋の自然観察会を京大ウィークス2024の事業として10月26日(土)に開催した。幼児を含む18人の参加があり、3グループに分けて散策コースを案内した。

2022年度から始まった京大フィールド研と公益財団法人イオン環境財団との共同事業「新しい里山・里海 共創プロジェクト」に関連して毎月ほぼ1回のペースで行われてきた「里山おーぷんらぼ@上賀茂」は2年目を迎え、さまざまな立場、年齢層の参加者が集い、植樹、畑作り、染色、炭焼など多彩な取り組みを行った。

■施設の特記事項

2024年1月に武田薬品工業株式会社京都薬用植物園(以下、京都薬用植物園)との間で種子交換に関する事業提携を目的とする協定締結を行い、上賀茂試験地はおもに種子採取、京都薬用植物園には、調製・精選作業、種子リストの作成、植物検疫や発送、輸入許可などの事務手続きを担当していただくこととなった。本格的に提携業務を開始した2023-2024年は78の機関から872件の受注があり、単独で行っていた2020-2021年と比べて機関数、受注件数ともに約2倍に増えた。2025年2月にはBGCI(植物園自然保護国際機構)の種子交換ネットワークにも参加した。

社会連携事業として行っている里山おーぷんらぼ@上賀茂とも連携して、中長期計画に基づく12~13林班のマツ属実験林の整理および広葉樹林への林種転換の取り組みとして、12林班にコナラ・クヌギの植栽を実施した。今後も役目を終えたマツ属実験林の伐採および広葉樹林への転換を進める予定である。

5) 徳山試験地

徳山試験地長 徳地 直子

■教育研究

2024年度における徳山試験地の利用延べ人数は188人であり、昨年度とほぼ同数であった。

研究利用は3件28人の利用があった。学生実習やILASセミナーなどの教育利用はなかった。周南市との連携で実施した中学生の体験学習による教育利用が16人、公開講座等での一般人の教育利用が50人であった。

■社会連携

2010年に開始した山口県周南市との連携事業は15年目を迎え、周南市役所の公園花とみどり課と協力して実施した。春の連携講座は第21回目として6月15日に周南市役所庁舎1階の多目的室において実施した。午前の部は、徳地直子教授による京都大学フィールド研と徳山試験地について説明があった後、張曼青特定助教により「日本と中国における山村の生業」をテーマとする講演が行われた。午後からは徳山試験地教職員の案内による試験地の見学会が行われた。受講者は24人であった。

秋の連携公開講座は京都大学の特別公開イベントである「京大ウィークス2024」と併せて10月19日に開催した。今回も午前に講演会、午後は試験地の見学を実施した。午前の部は徳山保健センター健診ホールにて行われた。徳地直子教授による京都大学フィールド研および森里海連環学についての説明があった後、中西麻美助教が「ヒノキの雄花生産と花粉症」をテーマとして講演を行った。この日は朝から雨模様であったが、午後になって雨が小休止した間に、タブノキ・カシ類、クロキなどの暖温帯常緑広葉樹林や約100年生のヒノキ林（文化庁より「ふるさと文化財の森（檜皮）」に指定）を有する徳山試験地の見学会を実施した。天候の悪化に備えて30分早く切り上げたが、徳山試験地教職員の解説によりヒノキ林などを観察した。周南市をはじめとする地域から26人の参加者があった。

6月14日に周南市との連携事業の一環として、周南市立鼓南中学校の環境体験学習を徳山試験地にて実施した。午前は、徳地教授による森林と水質に関する講義と水質測定の実験を行った。午後からは技術職員の指導のもと、ノコギリの取扱いや伐採方法に関する安全教育を実施した後、ヒノキ林の間伐木と雑木の伐採体験を行った。伐採した樹木の枝を払った後に、通直な部分を複数人で協力して運搬し、作業所前の広場で1cm程度に輪切りにしてコースターの作成に取り組んだ。

■特記事項

昨年度に引継ぎ、3試験地合同の業務支援として、6月に上賀茂試験地より2人の技術職員が徳山試験地へ出張し、見本林園の排水路の泥上げ作業を行い、さらに2月には給水施設の取水口に堆積した土砂の取り除き作業や道路上の危険木伐採を行った。

気象観測について、森林系里山分野経費で雨量計データロガーを更新した。

中国電力の特別高圧送電線の保守管理があり伐採補償があった。

6) 北白川試験地

北白川試験地長 館野 隆之輔

■教育研究

北白川試験地では2024年度には、19件の教育・実習利用、32件の研究利用、その他1件の合計52件の利用申請を受け付けた。年間利用者の延べ人数は、教育利用が676人、研究利用が2,137人、散策等を含むその他104人の合計2,917人（2023年度は2,987人）であった。近年取り組んできた研究用地の整理・拡充の効果によって、利用人数が高く推移していると思われる。

教育利用では、例年行われている食品有機化学実習によるサワラの枝葉から抗菌物質を精製する実験、森林水文学・砂防学実習や土壌物理学実習による計測機器の使用方法や土壌採取方法の習得、森林基礎科学実習による樹木識別や葉の形質測定、複数のILASセミナーなど本学学生を対象とする実習利用のほかに、カセサート大学と京大農学部との短期学生交流プログラム、他大学学生対象の公開森林実習Ⅰ、愛媛県立西条高等学校による森林生態系および森里海連環学の学習などを受け入れた。

研究利用では主となるフィールド研や本学森林科学専攻の他、アジア・アフリカ地域研究研究科、情報学研究科、生体圏研究所、白眉センター、また、他大学では福井県立大学学術教養センター、京都府立大学生命環境学部森林科学科、東北大学生命科学専攻、その他には特定非営利活動法人国際斜面災害研究機構の利用があった。また、研究成果として8件の学会発表、1件の修士論文が発表された。

■社会連携

社会教育利用では、京大ウィークス事業として、2024年8月3日（土）に夏の自然観察会「大学キャンパスで虫みつけ」を実施した。募集人員20人に対し134人の応募があり、京都市内、京都府内からの申し込みが大半を占めたが、滋賀県、兵庫県、奈良県など関西一円から申し込みがあった。当日の内容は、試験地職員による概要説明の後、午前中はセミの抜け殻採集によるセミの生息状況調査を行い、試験地内で採取したセミの抜け殻を講義室に持ち帰ってセミの種類を分析した。午後は試験地内を歩きながら、事前に設置しておいたバナナトラップを回収し、講義室でトラップに入った虫を観察した。実施後のアンケートでは、「京都大学のキャンパスでたくさんの虫がいることを知れて興味深かった」「バナナトラップでたくさんの虫が捕れるのがおどろいた」「親子で楽しむことができた」といった参加者からの声が寄せられた。

■施設の特記事項

フィールド研の新棟が2026年度中の完成を目指して建設されることが決まり、北白川試験地の南東部が建設予定地となった。工事の影響を受ける試験地内の見本樹のうち、希少なものについては、新棟工事に先駆けて、2024年度末から移植作業が実施され、スギ（北山杉仕立て）は旧演習林事務所入り口付近、ハクショウは旧演習林芝地および上賀茂試験地へそれぞれ移植された。また、取り壊される倉庫内の物品を保管するスペースを確保するため、試験地北東部にビニールハウスとプレハブ物置が設置されることとなった。

7) 紀伊大島実験所

紀伊大島実験所長 伊勢 武史

■教育研究

近年組織だった教育研究利用が途絶えていたが、2024年度からは実験所の特色を生かしたフィールド教育研究の検討を進めている。山口県立大学のゼミ授業や、京都市立芸術大学などの有志による合宿などが開催され、参加者は実験所や周辺地域の環境を体験し学習を深めることができた。また、隣接する航空自衛隊串本駐屯地の理解と協力のもと、教育研究の基盤となる施設全域の植生観測のためのドローン調査を行った。さらに、施設内に点在する樹木名看板の確認とデジタルデータ化を行い公開することで、豊かな植生を広く発信し、利用者の誘致につなげている。

■施設の特記事項

実験所施設の維持のための活動を精力的に実施している。実験所内に所在する展示温室は京都大学内でも有数の規模を誇るが、近年は利用がなされておらず、台風などによるガラスの損壊が生じはじめていた。そこで、地元の森林組合の協力により展示温室に隣接する樹木の枝打ちを実施し、さらなる損壊を防止する手当を実施した。また、施設内の電線・電話線などに接する樹木の枝打ちや、建物屋上周辺の樹木の枝打ちを行い、建物の健全な維持のための手当を実施した。

さらに、2025年度からの本格的な教育研究実施に備え、北部構内施設安全課の協力と助言のもと、研究棟屋上の防水補修、施設内の産業廃棄物の処理、研究棟トイレの改修を実施した。また、今年度立ち上げた紀伊大島実験所将来検討ワーキンググループでは、今後の施設活用プランを検討し確立することができた。今後も、当施設の特色を生かした教育研究の推進が望まれる。

8) 舞鶴水産実験所

舞鶴水産実験所長 益田 玲爾

■教育研究

イオン環境財団との共創プロジェクトを担当する研究員として、八柳哲博士が2024年4月に着任した。2024年度に舞鶴水産実験所の里海生態保全学分野に所属する大学院生の数は、修士課程7人、博士後期課程5人であり、これには4人の外国人留学生（インド、中国2人、アメリカ合衆国）が含まれる。大学院生の研究テーマは、魚類の系統分類学、稚魚の生活史戦略、魚類および水産無脊椎動物の行動・生態、水圏生物の環境DNAなどと幅広く、教員5人が各専門分野から指導している。大学院生の各研究テーマについては、毎週月曜日に行われるゼミでの発表を通して、全教員および研究員からの指摘も取り入れて進められている。

■社会連携

京都府下を中心に、市民団体等の企画への講師派遣に協力し、小中学校への出前授業を提供した。京都府立西舞鶴高等学校については7月に2日間にわたる日帰りの実習を受け入れた。兵庫県立香住高等学校からは2月に日帰りの研修を受け入れた。京都府立海洋高等学校については教員が訪れて研究指導を行った。当実験所の教職員らが指導に協力した福知山高校の自然科学部は、日本水産学会秋季大会高校生ポスターの部および環境DNA学会つくば大会の中高生オンライン発表で、いずれも最優秀賞を受賞し、新聞やニュースに取り上げられた。

7月24日に、イオン環境財団と連携したイベントとして、「魚付き林と海辺の生き物観察会」を開催した。

舞鶴市立福井小学校、京丹後市丹後小学校、八幡市立男山中学校を教員が訪問し出前授業を提供した。京都府海の民学舎、京都府商工会議所女性部連合会、舞鶴市城南会館等の講師派遣に協力した。このほか、当実験所教員が京都府漁業調整委員などを担当し、京都府北部地域や舞鶴市の地域産業の活性化において重要な役割を担っている。

■施設の特記事項

所内の電灯のLED化を進めた。人の通行に自動的に反応して点灯する方式の電灯を、門灯を始め各所に設置した。加えて、海岸の電灯も夜間に点灯することにした。これにより宿泊を伴う実習における安全性が向上した。

2002年3月に建てられた研究棟は、本年度末で築23年を迎えた。軽量鉄骨による簡易的な建造物であり、耐久性が低いことから、日本海の風雪にさらされる環境で今後長期間使用できるとは考えられない。同時期に建設された飼育棟も、既に老朽化が進み、特に錆による支柱の劣化は著しく、補修を適宜行っているものの、大型の台風が襲来すれば倒壊の危険性すらある。今後さらなる増加が見込まれる実習や研究目的の利用者の安全および利便性を確保するためにも、飼育棟と研究棟を統合した建物を早期に建築する必要がある。

9) 瀬戸臨海実験所

瀬戸臨海実験所長 下村 通誉

■教育研究

2024年度は教育関係共同利用拠点事業の第3期の4年目である。当実験所は、日本でも特に海洋生物相の豊かな場所に立地しており、その特徴を活かした、より充実した臨海実習や共同利用のために、この教育拠点活動を推進してきている。

2014年度から、当実験所と京大本学のラボとの合同ゼミを行っている。2024年度は農学研究科海洋生物増殖学分野、農学研究科海洋生物環境学分野、舞鶴水産実験所、福井県立大学海洋生物資源学部との合同ゼミを行った。前年度に引き続き毎月「瀬戸海洋生物学セミナー」をオンラインで実施した。外部の研究者を招いた研究紹介セミナーで、全国から参加者を募集している。

■社会連携

イオン環境財団との共催イベントとして2024年6月22日に「島島ビーチクリーン」、2025年2月15日に「白浜の豊かな海と自然について学ぼう」を実施した。また、2024年10月19日の京大ウィークスのイベント「白浜の海の自然と発見」もイオン環境財団と共催で実施した。

■施設の特記事項

島島には近年、レジャー客による無断上陸が絶えなかったが、2024年度は無断上陸は確認されなかった。

10) 森里海連環学プロジェクト支援室

森里海連環学プロジェクト支援室長 徳地 直子

2024年度、森里海連環学プロジェクト支援室は、室長、副室長、技術職員1人の3人体制で、森里海連環学に関する試料分析、実験室・分析機等の管理を行った。支援室として担当した業務は以下の通りである。

- ・水試料分析（栄養塩、福知山高校・新しい里山・里海 共創プロジェクト）
- ・西舞鶴高校実習の水試料分析（栄養塩）
- ・分析機器の保守管理
- ・化学物質の管理
- ・実験廃液の管理
- ・無機廃液の処理
- ・不用試薬等の廃棄（外部委託処理）
- ・その他（機器類の修理や事務的な調書対応等）

11) 企画情報室

企画情報室長 三田村 啓理

■特記事項

<会議業務>

企画情報室は、教授会や、新しい里山・里海 共創プロジェクト等のテレビ会議等の運用を担当している。2024年度における会議室のテレビ会議機器の利用回数は76回であった。

<広報>

広報委員会の指示の下、定期刊行物として、年報を1号(第21号)、ニュースレターを3号(63~65号)、概要パンフレットのTOPICSを1回、ニュースメールを5回、編集・発行・発送・配信した。フィールド研ウェブページを随時更新し、2024年度に公開したページは152ページ、写真の公開は409枚、旧Twitter(現X)投稿数は213件であった。

部局YouTubeチャンネルに2022年11月に撮影した和歌山研究林の記録映像(2件 計24分57秒)を公開するとともに、新しい里山里海の勉強会の記録映像を編集し限定公開した(2件 計2時間18分25秒)。また、研究連携基盤ページで公開している広報映像の更新等を行った。

<情報システムの企画、開発、運用>

情報セキュリティ委員会の指示の下、学内ネットワークの設定、メーリングリストの管理、共用機器類の管理、各施設の機器不具合等に対応した。公開ウェブページでは、ログを逐次確認して設定を調整するとともに、WordPressによるシステムを10回更新し、年度末で6.7.2となった。4月に全国里山土壌調査「里山の土壌を知るプロジェクト」のページ設定を行った。5月に公開サーバのPHPを7.4から8.2に更新、構成員限定ページのpukiwikiを1.5.2から1.5.4に更新した。WordPressのコンテンツをプラグインactivitypubによるSNSとの連携を検討中である。

KUINS VLANの総点検、サーバ脆弱性診断を実施した。12月に情報セキュリティポリシー実施手順書を改訂した。その他、全施設での無線LAN基地局更新作業の連絡調整支援、各種トラブル等に対応した。

<各施設およびフィールド研教職員の各種情報の収集>

フィールド研および教職員の各種活動状況を収集するため、各施設から毎月報告される利用実績報告書の集計、新聞等のフィールド研関連記事の収集、事業の記録、研究業績・外部資金・各種活動等の業績調べを行った。

URAが整備を始めた部局所属研究者による研究論文分析データを、従前より整備していた業績データベースと照合解析し、元データを公開しているClarivate社とURAに分類修正を依頼して部局論文数を増やすとともに、フィールド研教員による「トップ10%論文」を確認し部局長に報告した。

<フィールド研常設各種委員会に係る実務>

その他各委員会の実務として、シラバス調べ、調書への対応等を行った。

<フィールド研行事(イベント)に係る実務>

12月19日に時計台記念館で開催した教員集会とPanasonic研究交流会において、会場設営、ポスター印刷、事後の報告広報等を担当した。3月25日に開催した第9回森里海シンポジウムでは、記録映像編集、午前中に開催された高校生森里海研究ポスター発表会の印刷等を担当した。

新しい里山里海 共創プロジェクトにおいては、里山里海つながるフェス(12月8日・イオンモール高の原)の開催支援、第7-9回新しい里山里海の勉強会 Zoom オペレーション等を担当した。きょうと☆いきものフェス(9月27-28日・京都府立植物園)展示の準備支援、缶バッジの作成等を担当した。その他、10月8日開催の日台シンポジウム、11月28日の和歌山研究林閉鎖式典、2月7日「里山の土壌を知るプロジェクト中間報告会」の実施支援を行った。

<その他>

台湾大学の研究者の来訪を受け台湾演習林資料を閲覧に供した。農学部資料館解体に伴う旧附属演習林関係の資料の確認整理に着手した。2月から障害者雇用の一環としてならし勤務を受け入れた。その他、各種申請・提出書類の作成の支援、施設・教職員による業務の支援等を弾力的に行った。

(2) 各施設を利用した学生実習等

(上段:京大生対象、下段:他大学生対象、学生数(受講者)・教員等数(TA含む)は、延人数)

芦生研究林

期 間	日数	大学	部局	科 目 名	学年	学生数	教員等数	備考
24.06.01	1	京都大学	総合人間学部	課題演習:生物学A	2-4回生	2	1	
24.07.12 ~ 24.07.13	2	京都大学	農学研究科	ユネスコチェアフィールドワーク:水と森と社会	大学院生	12	12	
24.08.06	1	京都大学	フィールド研	森里海連環学実習I	全学1~4回生	5	11	
24.08.19 ~ 24.08.20	2	京都大学	宇宙総合学研究ユニット	有人宇宙キャンプ	学部生	18	17	
24.08.26 ~ 24.08.30	5	京都大学	農学部	研究林実習I	2回生	118	26	
24.09.03 ~ 24.09.04	2	京都大学	フィールド研	ILASセミナー「森での感動を科学する」	全学1回生	20	11	
24.09.09 ~ 24.09.11	3	京都大学	学術情報メディアセンター	サイバーフィジカル混成によるフィールド実習記録とその分析		18	19	
24.09.11 ~ 24.09.13	3	京都大学	フィールド研	ILASセミナー「京都の文化を支える森林:地域の知恵と生態学的知見」	全学1回生	30	18	
24.09.17 ~ 24.09.19	3	京都大学	農学部	研究林実習II	3回生	48	15	
24.09.23 ~ 24.09.25	3	京都大学	フィールド研	ILASセミナー「芦生研究林の菌類多様性に触れよう」	全学1回生	15	10	
24.09.25 ~ 24.09.28	4	京都大学	農学部	森林利用学実習及び実習法	3回生	131	35	
24.10.21 ~ 24.10.22	2	京都大学	人間・環境学研究科附属学術越境センター	2024年度第1回「Field Encounter」芦生		12	4	
24.10.26 ~ 24.10.27	2	京都大学	農学部・農学研究科	農学部・大学院生セミナー(Informal annual event for doctoral and master's students)		20	8	
24.11.20 ~ 24.11.22	3	京都大学	総合生存学館	サービスマスターリングB		15	15	
25.02.18 ~ 25.02.20	3	京都大学	フィールド研	森里海連環学実習III(暖地性積雪地域における冬の自然環境)	全学部1~4回生	27	20	
24.05.21 ~ 24.06.07	2	福井県立大学	学術教養センター	森林の観察		5	2	
24.05.27 ~ 24.05.31	5	東邦大学	理学部	野外生態学実習II	3年生	100	11	
24.06.10	1	京都府立林業大学校		森林科学1	1年生	12	6	
24.06.19	1	京都大学	農学部	カセサート大学-京都大学農学部短期学生交流プログラム		14	7	
24.06.29 ~ 24.06.30	2	大阪産業大学	デザイン工学部・環境理工学科	生物資源活用演習	3年生	18	4	
24.07.06 ~ 24.07.07	2	四天王寺大学	教育学部教育学科	教育専門研究I/教育専門演習III:大学生を対象とした自然体験活動の教育効果		20	4	
24.07.31	1	京都市立芸術大学	美術学部美術科	森とメディア表現との接点について		9	6	
24.08.06	1	京都大学	フィールド研	森里海連環学実習I(公開実習)		4	0	(併催)
24.08.21 ~ 24.08.23	3	人間環境大学	人間環境学部・環境科学科	奥山里山管理実習/森林管理実習B/共同フィールドワーク	1~4年	50	10	
24.09.04 ~ 24.09.06	3	京都大学	フィールド研	公開森林実習I		30	23	
24.11.16 ~ 24.11.17	2	龍谷大学	政策学部	地域資源を活用した山間地域の農産品販売拡大プロジェクト		12	2	
25.01.23	1	IPB大学		Winter Program		14	8	
計	63		(27件)			779	305	

北海道研究林

期 間	日数	大学	部局	科 目 名	学年	学生数	教員等数	備考
24.08.06 ~ 24.08.10	5	京都大学	フィールド研	ILASセミナー「北海道の昆虫相」	主として1回生	35	20	標茶区
24.08.27 ~ 24.09.03	8	京都大学	フィールド研	研究林実習III	3回生	200	49	標茶区
24.08.28	1	京都大学	フィールド研	研究林実習III	3回生	25	7	白糠区
24.09.15 ~ 24.09.18	4	京都大学	フィールド研	森里海連環学実習II	主として1回生	36	27	
24.09.23 ~ 24.09.27	5	京都大学	フィールド研	ILASセミナー「北海道のきのこの多様性と生き方」	主として1回生	25	13	
25.02.20 ~ 25.02.26	7	京都大学	フィールド研	研究林実習IV	3回生	147	45	
24.08.06 ~ 24.08.10	5	京都大学	フィールド研	公開森林実習II	主として2-3回生	45	0	(併催)
24.09.09 ~ 24.09.12	4	酪農学園大学	環境共生学類	水圏地圏総合実習	3年	84	13	
24.09.15 ~ 24.09.18	4	北海道大学	北方生物圏フィールド科学センター	森里海連環学 北大・京大合同演習	B1~	40	20	(併催)
24.09.19 ~ 24.09.20	2	北海道大学	農学部	生物学実習	3~4年次	44	7	
24.09.26 ~ 24.09.27	2	北海道教育大学	釧路校地域学校教育実践専攻	山岳生態学実習	2~4年次	10	6	
計	47		(12件)			691	207	

和歌山研究林

期 間	日数	大学	部局	科目名	学年	学生数	教員等数	備考
24.08.19 ~ 24.08.22	4	京都大学	フィールド研	ILASセミナー「森を育て活かすー林業体験をととして考える」	全学1回生	20	18	
24.10.07	1	和歌山県農林大学校	林業研修部	講義		11	4	
計	1		(2件)			31	22	

上賀茂試験地

期 間	日数	大学	部局	科目名	学年	学生数	教員等数	備考
24.05.07	1	京都大学	農学部	森林基礎科学実習 I	森林科学科2回生	32	3	
24.05.11	1	京都大学	フィールド研	ILASセミナー「森と暮らしを繋ぐ持続可能なデザイン」	全学1回生	5	2	
24.05.18	1	京都大学	フィールド研	ILASセミナー「北海道のきのこの多様性と生き方」	全学1回生	7	2	
24.05.18	1	京都大学	フィールド研	ILASセミナー「芦生研究林の菌類多様性に触れよう」	全学1回生	6	2	
24.05.18 ~ 24.08.15	4	京都大学	フィールド研	ILASセミナー「里山の物質循環:燃料・肥料・食料から考える」	全学1回生	31	12	
24.05.25	1	京都大学	農学部	森林科学専攻新入生歓迎会		161	58	
24.06.15	1	京都大学	フィールド研	ILASセミナー「木文化再生ー森林から都市へ」	全学1回生	7	2	
24.09.11	1	京都大学	フィールド研	ILASセミナー「京都の文化を支える森林:地域の智慧と生態学的知見」	全学1回生	11	9	
24.11.13	1	京都大学	農学部	応用生態学実験及び実験法	3回生	20	1	
25.01.15	1	京都大学	農学研究科	森林情報学特論I	M1およびM2	7	2	
24.04.26 ~ 24.11.08	4	京都府立大学	生命環境学部	生物学実験及び同実験法	1回生	129	9	
24.04.27 ~ 24.06.04	2	京都精華大学	人間環境デザインプログラム	自然環境演習H	1年生	20	8	
24.06.01 ~ 24.06.02	2	放送大学	京都学習センター	人間と自然の相互作用		31	6	
24.06.03 ~ 24.07.21	3	京都府立大学	生命環境学部	森林植物学実習	2回生	74	7	
24.06.29	1	京都光華女子大学	キャリア形成学部	応用ゼミ I f	2回生	8	3	
24.08.21	1	人間環境大学	環境科学部フィールド生態学科	奥山里山管理実習/森林管理実習/共同フィールドワーク	1,2年生	17	7	
24.09.04	1	京都大学	フィールド研	公開森林実習I	他大学全年	10	8	
24.10.05 ~ 25.03.06	5	京都大学	フィールド研	公開森林実習III	主として2・3年次生対象	30	36	
24.10.10	1	京都精華大学	デザイン学部ビジュアルデザイン学科	ビジュアルデザイン応用実習5	1回生	11	2	
24.11.09 ~ 24.11.10	2	放送大学	京都学習センター	人間にとっての環境とは?		22	6	
24.11.16 ~ 24.11.17	2	放送大学	京都学習センター	身近な森との付き合い方		25	6	
24.11.27	1	京都教育大学	教育学部産業技術科学科	生物育成実習	2回生・3回生	25	2	
24.12.14	1	大阪産業大学	デザイン工学部・環境理工学科	生物資源活用演習	3年生	10	1	
25.01.22	1	総合地球環境学研究所		Workshop and Training on Transformative Transdisciplinary Methods		1	17	
計	40		(24件)			700	211	

徳山試験地

(該当案件なし)

北白川試験地

期 間	日数	大学	部局	科 目 名	学 年	学生数	教員等数	備考
24.04.10	1	京都大学	農学部	食品有機化学実験および実験法	3回生	6	3	
24.04.10	1	京都大学	農学部	森林科学概論A		58	3	
24.04.17 ~ 24.06.26	2	京都大学	農学部	土壌物理学・水環境工学実験	3回生	28	2	
24.04.22 ~ 24.07.01	7	京都大学	農学研究科	ILASセミナー「群集生態学入門」	全学1回生	91	7	
24.04.25 ~ 24.06.06	4	京都大学	農学部	森林フィールド系実習及び実習法	3回生	121	7	
24.05.10	1	京都大学	理学研究科	植物自然史III	全学1,2回生	21	1	
24.05.14 ~ 24.06.11	2	京都大学	農学部	森林基礎科学実習I	2回生	68	3	
24.06.19	1	京都大学	農学部	有機化学実験	3回生	56	2	
24.09.13	1	京都大学	フィールド研	ILASセミナー「京都の文化を支える森林：地域の智慧と生態学的知見」	全学1回生	11	4	
24.10.02	1	京都大学	農学部	海洋生物科学実験及び実験法I	3回生	26	1	
24.10.28 ~ 24.12.23	2	京都大学	農学部	森林水文・砂防学実験及び実験法	3回生	19	2	
24.12.18	1	京都大学	農学部	森林応用生態学実験及び実験法	3回生	12	1	
24.06.11	1	京都大学	農学部	カセサート大学-京都大学農学部短期学生交流プログラム		15	6	
24.08.23	1	人間環境大学	環境科学部フィールド生態学科	奥山里山管理実習/森林管理実習/共同フィールドワーク	1,2年生	16	2	
24.09.06	1	京都大学	フィールド研	公開森林実習I	他大学全学年	10	5	
計	27		(15件)			558	49	

紀伊大島実験所

期 間	日数	大学	部局	科 目 名	学 年	学生数	教員等数	備考
24.08.06 ~ 24.08.08	3	山口県立大学	国際文化学部	専門演習 I	3回生	9	3	
計	3		(1件)			9	3	

舞鶴水産実験所

期 間	日数	大学	部局	科 目 名	学 年	学生数	教員等数	備考
24.07.13 ~ 24.07.15	3	京都大学	フィールド研	ILASセミナー「京都の海の沿岸動物学入門」		18	9	
24.07.20 ~ 24.07.21	2	京都大学	理学研究科	地質科学野外巡検IA(大島半島巡検)		32	2	
24.08.06 ~ 24.08.10	5	京都大学	フィールド研	森里海連環学実習I		30	15	
24.08.23 ~ 24.08.28	6	京都大学	農学部	海洋生物科学技術論と実習I		66	30	
24.08.28 ~ 24.09.02	6	京都大学	農学部	海洋生物科学技術論と実習II		54	32	
24.11.01 ~ 24.11.05	5	京都大学	フィールド研	博物館実習(館園実務)		14	11	
25.03.03 ~ 25.03.07	5	京都大学	農学部	海洋生物科学技術論と実習IV		75	21	
24.05.22 ~ 24.05.26	5	近畿大学		環境管理学専門実験・実習I		100	13	
24.08.06 ~ 24.08.10	5	京都大学	フィールド研	森里海連環学実習I(公開実習)		20	0	併催
24.08.16 ~ 24.08.20	5	関西学院大学		海洋生物実習		105	15	
24.08.23 ~ 24.08.28	6	京都大学	フィールド研	魚類学実習(公開実習)		24	0	併催
24.08.28 ~ 24.09.02	5	京都大学	フィールド研	無脊椎動物学実習(公開実習)		6	0	併催
24.09.10 ~ 24.09.13	4	岐阜大学		臨海実習		20	13	
24.11.01 ~ 24.11.05	5	京都大学	フィールド研	博物館実習(館園実務)(公開実習)		0	0	併催
25.03.03 ~ 25.03.07	5	京都大学	フィールド研	仔稚魚学実習(公開実習)		25	0	併催
計	72		(15件)			589	161	

瀬戸臨海実験所

期 間	日数	大学	部局	科 目 名	学 年	学生数	教員等数	備考
24.04.27 ~ 24.04.29	3	京都大学	フィールド研	ILASセミナー「甲殻類学入門」	1回生	12	3	
24.04.27 ~ 24.04.29	3	京都大学	フィールド研	ILASセミナー「貝類の不思議」	1回生	15	3	
24.04.27 ~ 24.04.29	3	京都大学	フィールド研	ILASセミナー「黒潮流域の海洋生物自然史」	1回生	18	3	
24.06.29 ~ 24.06.30	2	京都大学	総合生存学館	UNESCO Field WorkおよびILASセミナー実習	1回生	46	2	
24.08.06 ~ 24.08.12	7	京都大学	理学部	臨海実習第2部	全学年	28	52	
24.09.02 ~ 24.09.06	5	京都大学	理学部	臨海実習第1部	全学年	25	44	
24.09.02 ~ 24.09.06	5	京都大学	理学部	臨海実習第4部	全学年	0	0	併催
24.09.24 ~ 24.09.26	3	京都大学	フィールド研	ILASセミナー「海洋共生生態学入門」	1回生	9	6	
24.11.15 ~ 24.11.16	2	京都大学	理学部	地質科学野外巡検IB		26	4	
24.12.09 ~ 24.12.13	5	京都大学	フィールド研	博物館実習（館園実務）	3回生以上	20	15	
25.03.15 ~ 25.03.19	5	京都大学	理学部	臨海実習第3部	全学年	45	42	
25.03.26 ~ 25.03.31	6	京都大学	フィールド研	森里海連環学実習IV	全学年	54	34	
24.04.19 ~ 24.04.24	6	和歌山大学	教育学部	共同利用実習「臨海実習」		126	26	
24.05.31 ~ 24.06.03	4	大阪教育大学	教育学部	共同利用実習「臨海実習」		32	12	
24.06.04 ~ 24.06.08	5	京都大学	フィールド研	公開臨海実習「博物館実習」	3回生以上	15	16	
24.07.02 ~ 24.07.08	7	大阪公立大学	理学部	共同利用実習「臨海実習」		168	23	
24.06.22 ~ 24.06.26	5	奈良教育大学	教員養成課程	共同利用実習「臨海実習」		88	26	
24.08.06 ~ 24.08.12	7	京都大学	フィールド研	公開臨海実習「Functional Morphology and Evolutionary Biology of Marine Invertebrates」	全学年	70	0	併催
24.08.16 ~ 24.08.20	5	関西学院大学	生命環境学部	共同利用実習「臨海実験1」		65	31	
24.08.20 ~ 24.08.23	4	奈良女子大学	理学部	共同利用実習「海洋生物学野外実習」		56	16	
24.09.02 ~ 24.09.06	5	京都大学	フィールド研	公開臨海実習「自由課題研究」	全学年	5	0	併催
24.09.16 ~ 24.09.20	5	大阪大学	理学部	共同利用実習「生物学臨海実習」		100	14	
25.02.25 ~ 25.03.04	8	京都大学	フィールド研	公開臨海実習「海産無脊椎動物分子系統学実習」	全学年	96	47	
25.03.15 ~ 25.03.19	5	京都大学	フィールド研	公開臨海実習「藻類と海浜植物の系統と進化」	全学年	25	0	併催
25.03.26 ~ 25.03.31	6	京都大学	フィールド研	公開臨海実習「沿岸域生態系多様性実習」	全学年	42	0	併催
計	121		(25件)			1186	419	

(3) 各施設を利用した社会連携教育および野外学習等

(上段:小中高校生等対象、下段:一般対象、参加者数(対象者+引率者等)・教員等数(京大教職員)は、延人数)

芦生研究林

期 間	日数	主催者	講座・イベント名	対象者	参加者数	教員等数	備考
24.11.14	1	京都府立北桑田高等学校	森林科学演習		27	3	
24.05.17	1	公益社団法人京都モデルフォレスト協会	京都の森と自然を満喫する日帰りツアー 美山・芦生の森を歩く		10	1	
24.06.16	1	KDDI株式会社社員有志	森林ボランティア		39	3	
24.10.06	1	京都丹波高原国定公園ビジターセンター運営協議会	生き物たち自然 かんさつ塾		24	1	
24.10.20	1	フィールド研 芦生研究林	芦生研究林一般公開 (京大ウィークス)	一般	34	10	
24.10.12 ~ 24.10.14	1	フィールド研 芦生研究林	芦生菌類ワークショップ		30	8	
25.03.03	1	フィールド研 芦生研究林	芦生研究林 Open Science Meeting		42	11	
計	7	(7件)			206	37	

北海道研究林

期 間	日数	主催者	講座・イベント名	対象者	参加者数	教員等数	備考
24.06.16	1	フィールド研 北海道研究林	初夏の花観察会 プチフラワーソン2024	一般	13	5	標茶区
24.10.05	1	フィールド研 北海道研究林	自然観察会「秋の森の生態系」(京大ウィークス)	一般	13	10	白糠区
計	2	(2件)			26	15	

和歌山研究林

期 間	日数	主催者	講座・イベント名	対象者	参加者数	教員等数	備考
24.05.22 ~ 24.10.28	2	有田川町立八幡小学校	森林体験学習	5年生	30	7	
24.06.07	1	有田川町立石垣小学校	絶滅から生物を救おう!~生物多様性を目指して in清水~	5,6年生	15	5	
24.10.26	1	フィールド研 和歌山研究林	ミニ公開講座(京大ウィークス)	一般	9	5	
計	4	(3件)			54	17	

上賀茂試験地

期 間	日数	主催者	講座・イベント名	対象者	参加者数	教員等数	備考
24.04.13 ~ 25.03.28	57	フィールド研	里山おーぶらぼ@上賀茂		416	139	
24.10.20	1	きょうと生物多様性センター	京都の森の謎を調べよう!キミもおらぼの探検隊@上賀茂試験地		10	0	
24.11.21	1	京都光華女子大学キャリア形成	里山サイエンスツアー2024	高校生	8	5	
24.04.09 ~ 24.04.16	2	京都高齢者大学校	古都をめぐる自然観察会 ~京都にも自然がいっぱい~		61	0	
24.10.08	1	NPO法人 自然と緑	教授と行く自然観察会		27	1	
24.10.26	1	フィールド研 上賀茂試験地	秋の自然観察会(京大ウィークス)		18	9	
24.11.05 ~ 24.11.21	3	シニア自然大学校	植物の生き方を楽しむ講座		33	1	
24.12.05	1	栗東自然の森	森の木々を見る		6	1	
計	67	(8件)			579	156	

徳山試験地

期 間	日数	主催者	講座・イベント名	対象者	参加者数	教員等数	備考
24.06.14	1	周南市	鼓南中学校環境学習		19	4	中学生9人、引率7人、市職員3人
24.06.15	1	周南市・京大フィールド研	第21回連携講座		24	5	
24.10.19	1	周南市・京大フィールド研	連携公開講座(京大ウィークス)		26	8	
計	3	(3件)			69	17	

北白川試験地

期 間	日数	主催者	科目名	対象者	参加者数	教員等数	備考
24.08.07	1	愛媛県立西条高等学校	試験地でのフィールドワークを通じた森林生態系および森里海連環学の学習		42	2	
24.08.03	1	フィールド研 北白川試験地	夏の自然観察会(京大ウィークス)		18	6	
計	2	(2件)			60	8	

紀伊大島実験所

期 間	日数	主催者	講座・イベント名	対象者	参加者数	教員等数	備考
25.03.02 ~ 25.03.04	3	京都市立芸術大学	紀伊大島合宿	大学生・ 大学教 員・社会 人	26	6	
計	3	(1件)			26	6	

舞鶴水産実験所

期 間	日数	主催者	科目名	対象者	参加者数	教員等数	備考
24.07.22 ~ 24.07.23	2	京都府立西舞鶴高等学校	夏期実習「地球環境と海の生態系」		58	8	
25.02.10	1	兵庫県立香住高校	キャンパス見学会		17	1	
計	3	(2件)			75	9	

瀬戸臨海実験所

期 間	日数	主催者	講座・イベント名	対象者	参加者数	教員等数	備考
24.05.29	1	樟蔭中学校	海辺の生物観察		40	1	
24.06.22	1	フィールド研・イオン環境財団	島島ビーチクリーン	一般	22	5	
24.07.21 ~ 24.07.22	2	奈良県立郡山高等学校	生物部臨海実習	高校生	14	0	
24.07.22 ~ 24.07.23	2	大阪府立汎愛高等学校	理科課題研究	高校生	44	2	
24.07.23	1	大阪府立三国丘高等学校	生物部課外実習	高校生	11	2	
24.07.24 ~ 24.07.25	2	和歌山県	ネイチャー・キャンプ	小学4年生 ~中学3年 生	65	4	
24.07.25 ~ 24.07.26	2	兵庫県立尼崎小田高等学校	発生、系統分類実習	高校生	46	2	
24.07.27 ~ 24.07.29	3	滋賀県立膳所高等学校	サイエンスキャンプ（第54回生物実習 旅行）	高校生	72	9	
24.11.09	1	フィールド研・イオン環境財団	白浜の豊かな海と自然について学ぼう	一般	4	1	
24.12.26 ~ 24.12.27	2	大阪府立豊中高等学校	SSH白浜研修旅行	高校生	48	2	
25.02.15	1	フィールド研・イオン環境財団	白浜の豊かな海と自然について学ぼう	一般	15	2	
24.04.01 ~ 25.03.31	12	FMビーチステーション	ラジオで生き物紹介	一般	-	12	ラジオ
24.04.01 ~ 25.03.31	365	JR西日本	くろしお水槽	一般	-	104	白浜駅 構内展 示
24.04.13 ~ 24.06.08	3	白浜水族館	水族館の磯採集体験	一般	59	9	
24.04.23 ~ 25.02.20	6	フィールド研瀬戸臨海実験所	瀬戸海洋生物学セミナー第87~92回	全国研究 機関	202	30	オンラ インま たはハ イブ リッド
24.10.05 ~ 25.03.01	3	白浜水族館	水族館の飼育体験	一般	49	9	
24.10.19	1	フィールド研瀬戸臨海実験所	京大ウィークス「白浜の海の自然と発見」	一般	18	5	
計	408	(17件)			709	199	

4. 教職員の活動

(1) 研究成果

部門別・種別業績発表件数

	著書	原著論文・総説 (査読あり)	原著論文・総説 (査読なし)	その他 (一般誌・報告書等)	学会発表 (発表要旨集含む)
森林生態系部門	2	26	2	7	52
里域生態系部門	5	12	0	0	11
海洋生態系部門	6	35	1	3	71
管理技術部/技術室	0	1	0	5	2
計	13	73	3	15	130

(複数著者の重複の場合、所属する部門内での重複を除外して計数している。また、合計の欄では部門間の重複も除外しているため、部門合計と全体の合計の数値とは一致しないことがある。)

(個別業績は <https://fserc.kyoto-u.ac.jp/wp/blog/archives/5308> でご確認ください。)

(2) 他大学・各種学校の講義・実習

(高校生以下を対象とする講義などは、(6)社会貢献活動 参照)

森林生態系部門

- 徳地 直子 放送大学学園・非常勤講師(面接授業担当)「身の回りの自然を知ろう」
- 長谷川 尚史 京都府立林業大学校・講師「林業機械化概論」
高知県立林業大学校・特別教授「間伐作業システムと林業機械」 (2025-01-23/24)
和歌山県農林大学校林業研修部・講師「森林情報」「木材生産」
奈良県フォレスターアカデミー・講師「林業機械と森林作業システムⅠ」「林業機械と森林作業システムⅡ」
- 伊勢 武史 早稲田大学エクステンションセンター・オープンカレッジ講師「人類は持続可能に生きられるのか：環境・生態系と未来志向の人材育成」「人はなぜ自然が必要なのか：進化生物学から見た人間とは何か」「人類は持続可能に生きられるのか：大阪万博も目指すSDGsって実際どうなの?」
- 石原 正恵 京都府立林業大学校・非常勤講師「森林科学Ⅰ」 (2024-5-23)
福井県立大学・オンラインゲストスピーカー「地域生態学」 (2024-5-26)
- 松岡 俊将 同志社大学・嘱託講師「生命の科学2 菌類生態学」「環境システム基礎実験A」
- 張 曼青 龍谷大学・非常勤講師「環境と社会」

里域生態系部門

- 益田 玲爾 関西学院大学・非常勤講師「臨海実習」 (2024-08-16/20)
岐阜大学・非常勤講師「臨海実験法および実習」
北海道大学 公開水産科学実習「バイオリギング実習」におけるオンライン講義 (2024-09-05)
- 甲斐 嘉晃 関西学院大学・非常勤講師「臨海実習」 (2024-08-16/20)
- 邊見 由美 関西学院大学・非常勤講師「臨海実習」 (2024-08-16/20)
高知大学・非常勤講師「生物学特講」
岐阜大学・非常勤講師「臨海実験法および実習」
- 八柳 哲 関西学院大学・非常勤講師「臨海実習」 (2024-08-16/20)

海洋生態系部門

- 三田村 啓理 情報・システム研究機構国立極地研究所・客員教授
- 下村 通誉 公立大学法人大阪・非常勤講師「理学部臨海実習」

中野 智之 大阪教育大学・非常勤講師「臨海実習」
奈良教育大学・非常勤講師「臨海実習」
紀南看護専門学校・非常勤講師「基礎生物学」
関西学院大学・非常勤講師「臨海実習」(2024-08-16/20)
後藤 龍太郎 奈良女子大学・非常勤講師「生物科学特論A」

(3) 学会等における活動

◆学会役員・シンポジウム企画等

森林生態系部門

徳地 直子 日本森林学会 監事
館野 隆之輔 生物地球化学研究会 将来計画委員
森林立地学会 森林立地編集委員
Global Chane Biology Editorial Advisory Board
長谷川 尚史 森林利用学会・常務理事
日本森林学会・Journal of Forest Research編集委員
応用森林学会・編集委員
応用森林学会・会長
森林GISフォーラム・事務局(分科会)
日本森林学会・代議員
伊勢 武史 国立極地研究所:Polar Science編集委員
日本地球惑星科学連合 大気水圏科学複合領域・一般(CG) 陸域生態系の物質循環 共同コンベンナ
石原 正恵 日本生態学会大規模長期生態学専門委員会委員
日本学術会議:環境学委員会・地球惑星科学委員会合同IGBP・WCRP・DIVERSITAS合同分科会 GLP小
委員会委員
小林 和也 日本動物行動学会・広報委員長
日本生態学会:Ecological Research編集委員
坂野上 なお 林業経済学会:編集委員
松岡 俊将 日本生態学会:大会企画委員会(運営部会とオンライン部会)
張 曼青 日本現代中国学会関西部会:幹事

里域生態系部門

益田 玲爾 環境DNA学会:理事
日本水産学会:国際委員・近畿支部長・学会賞担当理事
甲斐 嘉晃 日本魚類学会:英文誌編集主任
鈴木 啓太 水産海洋学会:編集委員会副委員長・事業委員会委員
邊見 由美 日本甲殻類学会:和文雑誌Cancer編集委員
日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会2024:実行委員会
「青少年のための科学の祭典」高知大会:実行委員会
八柳 哲 環境DNA学会:広報委員

海洋生態系部門

朝倉 彰 日本甲殻類学会:会長
国際甲殻類学会 The Crustacean Society (USA): TCS-Carcinological Society of Japan Liaison Officer
三田村 啓理 日本水産学会:近畿支部幹事
下村 通誉 日本甲殻類学会:評議員
日本動物分類学会:評議員
中野 智之 軟体動物多様性学会:編集委員・事務局員
日本貝類学会:学会誌Venus編集委員
小林 志保 日本海洋学会:沿岸海洋研究会委員・海洋環境委員会委員
水環境学会関西支部:幹事
水産海洋学会:編集委員会委員
後藤 龍太郎 日本ベントス学会:英文誌編集委員
日本長期生態学ネットワーク (JaLTER):代表者委員・運営委員・情報管理委員

◆受賞歴

森林生態系部門

徳地 直子、館野 隆之輔、田中 拓弥

年月日：2024年12月9日

受賞者名（共著者含）：包 薩日娜・田中 拓弥・館野 隆之輔・徳地 直子

授賞内容（課題名など）：2024年度環境情報科学研究発表大会[学術委員長賞]「新しい里山里海を創る人
たちを繋ぐコンソーシアム構築に向けた検討」

館野 隆之輔

年月日：2024年12月7～8日

受賞者名（共著者含）：Zahra Salman・Henda Mahmoudi（International Center of Biosaline Agriculture）館野
隆之輔ほか

授賞内容（課題名など）：令和6年度乾燥地科学共同研究発表賞「Microbial diversity in the rhizosphere of
mangrove ecosystems in the United Arab Emirates（アラブ首長国連邦のマングローブ生態系における根圏微
生物の多様性）」

海洋生態系部門

荒井 修亮

年月日：2025年3月27日

授賞内容（課題名など）：令和6年度日本水産学会 功績賞「水圏生物の生態解明に資する硬組織分析およ
びバイオロギングの手法開発と一連の研究」

三田村 啓理、山下 洋、高木 淳一

年月日：2024年12月21日

受賞者名（共著者含）：角野 和史・和田 敏裕・山野辺 貴寛・舟木 優斗・高木 淳一・久米 学・山下 洋・
荒井 優志・小木曾 奏斗・堺 理紗子・前屋敷 大輔・倉都 健治・安藤 大輔・三田村 啓理

授賞内容（課題名など）：令和6年度日本水産学会近畿支部後期例会 優秀発表賞「ホシガレイ種苗放流に
伴うカワウの誘引と捕食」

中野 智之

年月日：2024年6月28日(伝達)

受賞者名（共著者含）：島島海岸生物群集一世紀間調査グループ（白浜町）

授賞内容（課題名など）：令和6年度地域環境保全功労者表彰

後藤 龍太郎

年月日：2024年4月9日(受賞日)、4月17日(表彰式)

授賞内容（課題名など）：令和6年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 [若手科学者賞]「寄生と共生が創
出する海底環境の生物多様性に関する研究」

管理技術部/技術室

境 慎二郎

年月日：2024年9月26日

授賞内容（課題名など）：第26回森林管理技術賞 特別功労賞「京都大学演習林の管理運営と技術職員の資
質向上への多大な貢献」

中村 はる奈

年月日：2024年9月26日

授賞内容（課題名など）：第26回森林管理技術賞 技術貢献賞「webを用いた遠隔双方向会議講義システ
ムの普及とデジタル教育コンテンツの充実」

北川 陽一郎

年月日：2024年9月26日

授賞内容（課題名など）：第26回森林管理技術賞 学術貢献賞「データ収集・分析を軸とした森林研究に
対する学術的貢献」

(4) 社会貢献活動

◆学外委員会委員等

森林生態系部門

- 徳地 直子 日本学術会議：日本学術会議連携会員
文部科学省・日本ユネスコ国内委員会：科学小委員会調査委員
農林水産省農林水産技術会議事務局：国立研究開発法人審議会臨時委員
一般財団法人防災研究協会：非常勤研究員
全国環境研協議会：酸性雨広域大気汚染調査研究部会
総合地球環境学研究所：共同研究員(Sustai-N-ableプロジェクト)
岐阜県：清流の国ぎふ森林・環境基金事業評価審議会委員
岐阜県飛騨市：生活環境保全のための森林整備検討会委員
静岡県：「南アルプスを未来につなぐ会」理事
滋賀県琵琶湖環境科学研究センター：評議員会委員
京都府：環境影響評価専門委員会委員
京都府八幡市：環境審議会委員
京都府長岡京市：総合計画審議会委員・生活環境審議会委員・西山森林整備推進協議会会長
京都府大山崎町：森林整備計画に係る指導者
和歌山県：農林水産関係試験研究評価委員会委員
一般財団法人雲孫財団：環境再生アドバイザー
東日本電信電話株式会社：調査員
- 長谷川 尚史 近畿中国森林管理局・近畿中国森林管理局技術開発委員会委員
国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所・外部評価委員
株式会社山地防災研究所・森林環境保全直接支援事業工程分析調査検討委員会委員 ※林野庁委託事業
一般社団法人日本森林技術協会・「新技術を活かした森林作業システム高度技能者育成事業」に係る検討委員会委員
一般社団法人フォレスト・サーバイ・森林作業システム高度技能者育成事業に係る検討委員
全国森林組合連合会・令和6年度森林プランナー育成対策企画運営委員会委員
滋賀県・学識経験者（滋賀県森林クラウドシステム構築・運用保守業務の入札に関する落札決定基準について）
滋賀県・滋賀県森林審議会委員
京都市・木材利用や森林経営保全活動の社会的価値検討会議
兵庫県農林水産部・農林水産政策審議会委員
兵庫県：県立農林水産技術総合センター外部評価専門委員会委員
兵庫県：分取造林事業のあり方検討委員会委員
奈良県フォレスターアカデミー・令和6年度奈良県フォレスターアカデミー外部講師
奈良県フォレスターアカデミー・令和6年度森林林業教育カリキュラム実施支援検討会検討委員
奈良県・公設試験研究機関に関する懇話会委員
和歌山県：総合計画策定に係るアドバイザー
和歌山県農林水産部・和歌山県森林審議会委員
和歌山県農林大学校：林業研修部講師・林業研修部運営検討委員会委員
十津川村・十津川村森林づくり審議会委員
有田川町林業振興センター・有田川町林業振興センター事業推進会議委員
一般社団法人徳島地域エネルギー・推進委員会委員
イワフジ工業株式会社・林業機械・木質系新素材の開発・実証事業検討委員会委員
- 伊勢 武史 日本学術会議：日本学術会議委員(環境学委員会・地球惑星科学委員会合同FE・WCRP合同分科会GLiC小委員会委員・iLEAPS小委員会委員)
京都伝統文化の森推進協議会：委員・文化的価値発信専門委員
早稲田大学エクステンションセンター：オープンカレッジ講師
京大オリジナル株式会社：アドバイザー（広島県世羅郡・民間企業からの委託事業、広島県内の特定エリア）
復建調査設計株式会社：アドバイザー
- 石原 正恵 文部科学省 科学技術・学術政策研究所 科学技術予測・政策基盤調査研究センター：科学技術専門家ネットワーク・専門調査員
一般財団法人 自然環境研究センター：モニタリングサイト1000（森林・草原調査）解析ワーキンググループ

ープ委員

- 京都府：芦生の森植生回復検討委員会委員
京都市：環境審議会生物多様性保全検討部会委員・地球温暖化対策推進委員会委員
小林 和也 標茶町：林業推進協議会委員
北海道立北の森づくり専門学院：「北海道森林づくり教育連携協議会」構成員
坂野上 なお 日本農林漁業振興会：農林水産祭中央審査委員会専門委員
滋賀県：公共事業評価監視委員会委員
滋賀県造林公社：理事
大阪府：大阪府国土利用計画審議会委員
奈良県：奈良の木利用拡大検討委員会委員
山口県：森林審議会委員
松岡 俊将 京都府総合政策環境部：希少野生生物保全推進員
総合地球環境学研究所：共同研究員(研究プロジェクト：森林の価値とは一森と生きるひとと社会の未来像)
田中 拓弥 近畿地方環境事務所：地域循環共生圏づくり支援体制構築事業審査委員会委員
横部 智浩 山中suplex：リサーチ・コラボレーター（国際共同調査・シンポジウム）
駒井 幸雄 特定非営利活動法人 瀬戸内海研究会議：副理事長

里域生態系部門

- 益田 玲爾 広島大学瀬戸内CN国際共同研究センター：ブルーイノベーション部門水産実験所連携協議会委員
北海道大学北方生物圏フィールド科学センター：共同利用協議会委員（水圏ステーション白尻水産実験所、七飯淡水実験所及び忍路臨海実験所）
長崎大学海洋未来イノベーション機構環東シナ海環境資源研究センター：共同利用運営協議会委員
京都府農林水産部水産課：京都海区漁業調整委員会委員
邊見 由美 関西自然保護機構・京都府レッドデータ改訂委員会調査員
一般財団法人自然環境研究センター・絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会 甲殻類分科会チェックシート記入者

海洋生態系部門

- 三田村 啓理 国立極地研究所：客員教授・南極観測アドバイザー・運営会議南極観測審議委員会委員・編集委員会委員
京都大学農学部四明會・四明會委員
京都府農林水産技術センター・京都府農林水産技術センター評議委員
大阪府立環境農林水産総合研究所・研究アドバイザー委員会委員
富山県農林水産技術会議・富山県農林水産試験研究評価外部評価委員
下村 通誉 広島大学瀬戸内CN国際共同研究センター：客員研究員
和歌山県環境生活部：和歌山県環境影響評価審査会委員
北海道大学北方生物圏フィールド科学センター：共同利用協議会委員（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター水圏ステーション厚岸臨海実験所、室蘭臨海実験所）
山下 洋 文部科学省「市民参加による海洋総合知創出手法構築プロジェクト」：外部評価委員会主査
公益財団法人G-7奨学財団：研究開発選考委員
一般社団法人 鰻の食文化と鰻資源を守る会委員
日本海学推進機構：専門委員
朝倉 彰 文部科学省高等教育局：教育関係共同利用拠点の認定等に関する有識者会議委員
北海道大学北方生物圏フィールド科学センター：水圏ステーション厚岸臨海実験所及び室蘭臨海実験所共同利用協議会委員
中野 智之 海洋研究開発機構：J-OBIS推進委員会委員
株式会社和歌山放送：ネイチャーキャンプ講師
小林 志保 国立環境研究所：客員研究員
後藤 龍太郎 一般財団法人 自然環境研究センター・絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会 海域その他無脊椎動物分科会チェックシート記入者
山守 瑠奈 株式会社和歌山放送・ネイチャーキャンプ講師
白浜町消防団・第2分団団員
白浜町公民館運営委員会

管理技術部/技術室

- 林 大輔 釧路北部消防事務組合標茶消防団・標茶消防団員

◆高校生までを対象としたプログラム

森林生態系部門

- 松岡 俊将 京都丹波高原国定公園ビジターセンター「森の巡る学び舎」2024年年度 「生き物たちの自然 かんさつ塾」講師, 2024-05-19, 06-16, 07-21, 09-15, 10-20, 11-17, 12-15)
京都府南丹保健所「京都丹波SDGs環境スクール 京都丹波高原自然観察体験」講師(京都丹波高原国定公園ビジターセンター), 2024-08-08
- 田中 拓弥 「里山体験プログラム」(イオンチアーズクラブに対して高校生による里山体験プログラムを提供)企画運営担当(上賀茂試験地), 2024-10-06
森里海交流会において、ファシリテーターを担当(旧演習林事務室・ラウンジ), 2025-03-24
「第6回新しい里山里海の勉強会報告書 ー連携高校による里山里海の研究・活動の紹介 VISUAL REPORT」制作支援
- 中西 麻美 京都府立西舞鶴高等学校・講師, 2024-06-10/10-30

里域生態系部門

- 益田 玲爾 八幡市立男山中学2年生4クラスへの出前授業「京都の海の魚たちの素顔」, 2024-09-05
京丹後市立丹後小学校5年生24人への出前授業「京都の海の魚たちの素顔」, 2024-10-15
舞鶴市立福井小学校3年生16人と教員3人への出前授業「京都の海の魚たちの素顔」, 2024-10-18
舞鶴市立大浦小学校3年生8人と教員2人への施設案内と授業「ナマコの話」(舞鶴水産実験所), 2024-11-22
兵庫県立香住高校2年生15人と引率者2人への施設案内と講義「日本海の魚たちの素顔」(舞鶴水産実験所), 2025-02-10
- 甲斐 嘉晃 京都府立西舞鶴高等学校・講師, 2024-07-21/31
- 鈴木 啓太 京都府立福知山高等学校・研究アドバイザー
京都府立西舞鶴高等学校・講師, 2024-06-10/10-30
- 邊見 由美 京都府立西舞鶴高等学校・講師, 2024-07-21/31

海洋生態系部門

- 下村 通誉 兵庫県立尼崎小田高等学校・白浜臨海実習講師, 2024-07-25/26
滋賀県立膳所高等学校・SSHサイエンスキャンプ講師, 2024-07-27/29
- 中野 智之 滋賀県立膳所高等学校・SSHサイエンスキャンプ講師, 2024-07-27/29
- 山守 瑠奈 大阪府立汎愛高等学校・外部講師, 2024-07-22/23
滋賀県立膳所高等学校・SSHサイエンスキャンプ講師, 2024-07-27/29
滝川第二高等学校・実習指導講師, 2025-04-02/04
貝塚市子ども博士養成講座「ウニの解剖に挑戦!」, 2024-08-01
大阪府豊中高校 臨海実習講師, 2024-12-26/27

◆社会人等を対象としたプログラム

森林生態系部門

- 徳地 直子 和歌山研究林 ミニ公開講座において、林内解説を担当, 2024-10-26
「里山里海つながるフェス@イオンモール高の原」ブース解説担当, 2024-12-08
第20回京都大学附置研究所・センターシンポジウム 京都大学鹿児島講演会 京都からの挑戦 ー地球社会の調和ある共存に向けてー「京都大学が提案する未来」において、講演「森林生態系の物質循環と私たちの暮らし」(カクイックス交流センター(かごしま県民交流センター)およびオンライン), 2025-03-01
- 舘野 隆之輔 夏の自然観察会「大学キャンパスで虫みつけ」(北白川試験地), 2024-08-03
「きょうと☆いきものフェス! 2024」にて、京都大学フィールド研のブースを出展(京都府立植物園), 2024-09-28/29
日台共同国際シンポジウム「森里海～連環する社会的共通資本」を開催(フィールド研共催)(旧演習林事務室), 2024-10-08
上賀茂試験地 秋の自然観察会において、林内解説を担当, 2024-10-26
「里山里海つながるフェス@イオンモール高の原」ブース解説担当, 2024-12-08
イオン環境財団主催 第2回SATOYAMAフォーラム「みんなで考えつくるー新しいSATOYAMA(里山)ー」において、第三部 パネルディスカッション モデレーターを担当(国連大学 ウ・タント国際会議場), 2025-02-18
「生物多様性に関する流域連携のキックオフ・フォーラム」において、話題提供「森里海連環学や新しい里山・里海 共創プロジェクトについて」(イオンモール京都桂川およびオンライン), 2025-03-09
- 長谷川 尚史 和歌山研究林 ミニ公開講座において、林内解説を担当, 2024-10-26
和歌山研究林「100年目からの新たな歩み～99年を振り返る～」において、講演「和歌山研究林の概要説

- 明及び教育・研究の紹介」およびパネルディスカッションのコーディネーター（有田川町清水文化センター），2024-11-28
- 兵庫県議会政務調査勉強会講師，2024-09-12
- 石原 正恵 公開講演会「芦生の森の昆虫たち 今昔物語」にて、講演「芦生研究林でのシカによる生物多様性劣化と保全・研究」（京都府立植物園），2024-08-24
- KDDI株式会社生物多様性勉強会「企業と大学の関係「協働・共創」は「連携」と何が違うのか？」（KDDI関西総支社），2024-05-16
- 京都大学技術職員専門研修（第4専門技術群：生物・生態系）「芦生研究林における多様な主体との協力による植物多様性保全」（武田薬品工業京都薬用植物園），2024-09-19
- 小林 和也 「初夏の花観察会」北海道フラワーソン2024を開催（北海道研究林標茶区），2024-06-16
- 自然観察会「秋の森の生態系」において、林内解説を担当（北海道研究林白糠区），2024-10-05
- 北海道・東北地区大学演習林等技術職員研修の講義・施設解説等を担当（北海道研究林標茶区），2024-10-08
- 「くしろ木づなフェスティバル2024」にて、京都大学北海道研究林のブースを出展（釧路市観光国際交流センター）2024-10-26/27
- 坂野上 なお 上賀茂試験地 秋の自然観察会において、林内解説を担当，2024-10-26
- 松岡 俊将 「きょうと☆いきものフェス！2024」にて、京都大学フィールド研のブースを出展（京都府立植物園），2024-09-28/29
- 芦生研究林一般公開において、原生林体験コースの解説を担当，2024-10-20
- 2024年度 パナソニック総合技術シンポジウム 講師（パナソニックホールディングス（株）西門真構内），2024-12-13
- KDDI関西総支社の生物多様性勉強会 講師（KDDI関西総支社），2024-05-16
- 田中 拓弥 「きょうと☆いきものフェス！2024」にて、京都大学フィールド研のブースを出展（京都府立植物園），2024-09-28/29
- 「里山里海つながるフェス@イオンモール高の原」企画担当，2024-12-08
- 「里山おーぶんらぼ@上賀茂」（第12回～第22回、番外編）企画運営担当（上賀茂試験地）
- 「新しい里山里海の勉強会（第7，9回）」企画運営担当（オンライン），2024-07-03, 2025-01-14
- イオン環境財団主催 第2回SATOYAMAフォーラム「みんなで考えつくるー新しいSATOYAMA（里山）ー」において、ブース出展他を担当（国連大学 ウ・タント国際会議場），2025-02-18
- 「里山おーぶんらぼフィールドガイド ～暮らしと関わる樹木マップ」の制作（上賀茂試験地）
- 森里海シンポジウム「里山里海の今を知る」（第9回）において「上賀茂試験地における里山おーぶんらぼ」を講演（北部総合教育研究棟・益川ホール），2025-03-25
- 中西 麻美 上賀茂試験地 秋の自然観察会において、林内解説を担当，2024-10-26
- 周南市・京都大学フィールド科学教育研究センター連携公開講座 講演「ヒノキの雄花生産と花粉症」（徳山保健センターおよび徳山試験地），2024-10-19
- 杉山 賢子 「初夏の花観察会」北海道フラワーソン2024を開催（北海道研究林標茶区），2024-06-16
- 自然観察会「秋の森の生態系」において、林内解説を担当（北海道研究林白糠区），2024-10-05
- 「くしろ木づなフェスティバル2024」にて、京都大学北海道研究林のブースを出展（釧路市観光国際交流センター）2024-10-26/27
- 鈴木 華実 芦生研究林一般公開において、林内解説を担当，2024-10-20
- 張 曼青 周南市連携講座 講演「日本と中国における山村の生業」（周南市役所および徳山試験地），2024-06-15
- 横部 智浩 「新しい里山里海の勉強会（第7回）」において、活動紹介「里山の土壌を知るプロジェクト～里山評価に向けたシチズンサイエンスの試み」，2024-07-03
- 「里山里海つながるフェス@イオンモール高の原」ブース解説担当，2024-12-08
- 「里山の土壌を知るプロジェクト 第1回 中間報告会&交流会」企画運営担当，2025-02-07
- イオン環境財団主催 第2回SATOYAMAフォーラム「みんなで考えつくるー新しいSATOYAMA（里山）ー」において、第二部 研究発表「シチズンサイエンスにより里山の土壌を知る活動」（国連大学 ウ・タント国際会議場），2025-02-18
- 萩原 幹花 大学女性協会京都支部「つながりの輪」若手女性科学者 海外研修助成報告，2024-06-09
- 大学女性協会京都支部例会「海外への挑戦～アメリカ編～」，2024-10-05

里域生態系部門

- 益田 玲爾 舞鶴市城南会館いきいきセミナーで「舞鶴湾の海・魚と気候変動」と題して講演，2024-10-16
- 京都府商工会議所女性部連合会にて「潜って食べて考える舞鶴の海の魅力」と題して講演（舞鶴グランドホテル），2024-10-22
- 一般公開「教育研究船「緑洋丸」による舞鶴湾の生物採集およびスライドショー上映」を実施（舞鶴水産実験所），2024-10-26

- 京都大学エグゼクティブ・リーダーシップ・プログラムでの講演「潜水目視調査から考える海の未来 ～多様性につながり～」(京都大学橘会館), 2024-11-30
 海の民学舎にて「水中から見た京都の海」と題して講演(舞鶴水産実験所), 2024-12-06
 ニッセイ財団環境問題助成研究ワークショップ「災害に強い森里海まちづくり～津波被災地での実践から～」にて「海の魚はどう回復したか」と題して講演(東京大学弥生講堂), 2024-12-14
 アースウォッチ報告会(Zoom)で「日本海の魚たちの特徴と7年前との比較」と題して講演(舞鶴水産実験所), 2025-03-22
- 甲斐 嘉晃 一般公開「教育研究船「緑洋丸」による舞鶴湾の生物採集およびスライドショー上映」を実施(舞鶴水産実験所), 2024-10-26
- 鈴木 啓太 一般公開「教育研究船「緑洋丸」による舞鶴湾の生物採集およびスライドショー上映」を実施(舞鶴水産実験所), 2024-10-26
- 邊見 由美 水産・臨海・臨湖実験所フィールド実習ワークショップ 講演「実習生一拠点ポスター教員の立場からみる実習」, 2024-04-12
 一般公開「教育研究船「緑洋丸」による舞鶴湾の生物採集およびスライドショー上映」を実施(舞鶴水産実験所), 2024-10-26
- 八柳 哲 「舞鶴市大浦の魚付き林と海辺の生き物観察会」を実施(舞鶴水産実験所), 2024-07-24
 「きょうと☆いきものフェス!2024」にて、京都大学フィールド研のブースを出展(京都府立植物園), 2024-09-28
 一般公開「教育研究船「緑洋丸」による舞鶴湾の生物採集およびスライドショー上映」を実施(舞鶴水産実験所), 2024-10-26
 「里山里海つながるフェス@イオンモール高の原」ブース解説担当, 2024-12-08
 イオン環境財団主催 第2回SATOYAMAフォーラム「みんなで考えつくるー新しいSATOYAMA(里山)ー」において、第二部 研究発表「新しい里山里海の共創～舞鶴市の河川における取り組み～」(国連大学 ウ・タン国際会議場), 2025-02-18
- 海洋生態系部門**
- 下村 通誉 島島ビーチクリーンを実施, 2024-06-22
 白浜水族館にて、京都大学126周年記念 缶バッジ(全2種類)を配布, 2024-06-18/23
 白浜水族館にて、オリジナル卓上カレンダーを配布, 2025-01-01/03
 白浜水族館 夏休み解説ツアー・バックヤードツアー・大水槽エサやり体験を実施, 2024-07-20/09-01
 白浜水族館 冬休み解説ツアー・バックヤードツアーを実施, 2024-12-25/2025-01-07
 白浜水族館 春休み解説ツアー・バックヤードツアー・大水槽エサやり体験を実施, 2025-03-25/04-07
 公開ラボ・施設見学「白浜の海の自然と発見」において、講演「瀬戸臨海実験所の紹介」(瀬戸臨海実験所), 2024-10-19
 イオン×京大「白浜水族館で白浜の豊かな海と生き物について学ぼう!」において、概要説明と水族館の解説を担当(白浜水族館), 2025-02-15
- 市川 光太郎 「きょうと☆いきものフェス!2024」にて、京都大学フィールド研のブースを出展(京都府立植物園), 2024-09-28/29
 第140回京都大学丸の内セミナー「水中の生物を音で調べる 熱帯のジュゴンと南極の魚」(京都大学東京オフィスおよびオンライン), 2024-06-07
- 中野 智之 島島ビーチクリーンを実施, 2024-06-22
 白浜水族館 夏休み解説ツアー・バックヤードツアー・大水槽エサやり体験を実施, 2024-07-20/09-01
 白浜水族館 冬休み解説ツアー・バックヤードツアーを実施, 2024-12-25/2025-01-07
 白浜水族館 春休み解説ツアー・バックヤードツアー・大水槽エサやり体験を実施, 2025-03-25/04-07
- 河村 真理子 京都大学127周年記念 缶バッジの制作・配布(白浜水族館), 2024-06-18/23
 島島ビーチクリーンを実施(瀬戸臨海実験所), 2024-06-22
 夏休み解説ツアー・バックヤードツアーを実施(白浜水族館), 2024-07-20/09-01
 公開ラボ・施設見学「白浜の海の自然と発見」において、広報および配布用グッズ製作を担当(瀬戸臨海実験所), 2024-10-19
 冬休み解説ツアー・バックヤードツアーを実施(白浜水族館), 2024-12-25/2025-01-07
 春休み解説ツアー・バックヤードツアーを実施(白浜水族館), 2025-03-25/04-07
 オリジナル卓上カレンダーを制作・配布(白浜水族館), 2025-01-01/03
- 小林 志保 「きょうと☆いきものフェス!2024」にて、京都大学フィールド研のブースを出展(京都府立植物園), 2024-09-28/29
- 後藤 龍太郎 白浜水族館 夏休み解説ツアー・バックヤードツアー・大水槽エサやり体験を実施, 2024-07-20/09-01
 白浜水族館 冬休み解説ツアー・バックヤードツアーを実施, 2024-12-25/2025-01-07
 白浜水族館 春休み解説ツアー・バックヤードツアー・大水槽エサやり体験を実施, 2025-03-25/04-07

- 「きょうと☆いきものフェス！2024」にて、京都大学フィールド研のブースを出展（京都府立植物園），2024-09-28/29
- 山守 瑠奈 「新しい里山里海の勉強会（第9回）」において、活動紹介「パンダの食べ残した竹でイカを育む」，2025-01-14
- 白浜水族館 夏休み解説ツアーを実施，2024-08-14/19
- 白浜水族館 冬休み解説ツアーを実施，2025-12-24/25
- 白浜水族館 春休み解説ツアーを実施，2025-03-26
- 和歌山県立自然市博物館にてクリスマス大水槽サンタダイブを実施，2025-12-22

管理技術部/技術室

- 岡部 芳彦 「初夏の花観察会」の企画・運営・林内解説を担当（北海道研究林標茶区），2024-6-16
- 自然観察会「秋の森の生態系」において、運営・林内解説を担当（北海道研究林白糠区），2024-10-05
- 「くしろ木づなフェスティバル2024」にて、京都大学北海道研究林のブースを出展（釧路市観光国際交流センター），2024-10-27
- 北海道・東北地区大学演習林等技術職員研修の林内解説を担当（北海道研究林標茶区），2024-10-10
- 奥田 賢 自然観察会「秋の森の生態系」において、運営・林内解説を担当（北海道研究林白糠区），2024-10-05
- 「くしろ木づなフェスティバル2024」にて、京都大学北海道研究林のブースを出展（釧路市観光国際交流センター），2024-10-27
- 北海道・東北地区大学演習林等技術職員研修の企画・運営・林内解説等を担当（北海道研究林標茶区），2024-10-08/10
- 加藤 哲哉 きのくに県民カレッジ連携講座「水族館の磯採集体験」，2024-04-13，05-11，06-08
- きのくに県民カレッジ連携講座「水族館の飼育体験」，2024-10-05，11-30，2025-03-01
- 木本 恵周 「くしろ木づなフェスティバル2024」にて、京都大学北海道研究林のブースを出展（釧路市観光国際交流センター）2024-10-26
- 北海道・東北地区大学演習林等技術職員研修の運営等を担当（北海道研究林標茶区）2024-10-08/10
- 永井 貴大 自然観察会「秋の森の生態系」において、運営・林内解説を担当（北海道研究林白糠区），2024-10-05
- 「くしろ木づなフェスティバル2024」にて、京都大学北海道研究林のブースを出展（釧路市観光国際交流センター），2024-10-26
- 橋本 晋太 「初夏の花観察会」において林内解説を担当（北海道研究林標茶区），2024-6-16
- 自然観察会「秋の森の生態系」において、運営・林内解説を担当（北海道研究林白糠区），2024-10-05
- 「くしろ木づなフェスティバル2024」にて、京都大学北海道研究林のブースを企画・出展（釧路市観光国際交流センター），2024-10-26/27
- 林 大輔 「初夏の花観察会」において林内解説を担当（北海道研究林標茶区），2024-06-16
- 「くしろ木づなフェスティバル2024」にて、京都大学北海道研究林のブースを出展（釧路市観光国際交流センター），2024-10-26
- 北海道・東北地区大学演習林等技術職員研修の運営・林内解説等を担当（北海道研究林標茶区），2024-10-08/10
- 原田 桂太 きのくに県民カレッジ連携講座「水族館の磯採集体験」，2024-04-13，05-11，06-08
- きのくに県民カレッジ連携講座「水族館の飼育体験」，2024-10-05，11-30，2025-03-01
- 古田 卓 自然観察会「秋の森の生態系」において、企画・運営・林内解説を担当（北海道研究林白糠区），2024-10-05
- 山内 洋紀 きのくに県民カレッジ連携講座「水族館の磯採集体験」，2024-04-13，05-11，06-08
- きのくに県民カレッジ連携講座「水族館の飼育体験」，2024-10-05，11-30，2025-03-01
- 山中 公 夏の自然観察会「大学キャンパスで虫みつけ」（北白川試験地），2024-08-03

(5) 国際活動

◆国際学会

森林生態系部門

- 田中 拓弥 日台共同国際シンポジウム「森里海～連環する社会的共通資本」運営スタッフ（京都大学, 2024-10-08）
萩原 幹花 Ecological Society of America Annual Meeting 2024 に参加（米国カリフォルニア州, 2024-08-04/09）
国際シンポジウム Plant molecular phenology and climate feedbacks mediated by BVOCs に参加（岐阜, 2024-10-28/31）

海洋生態系部門

- 三田村 啓理 2024 International Flatfish symposium に参加、当該プロジェクトに係る研究発表及び情報収集を行う（オランダ, ワーニンゲン大学, 2024-11-23/30）
朝倉 彰 国際甲殻類学会夏季大会参加（台湾, 台湾中央研究院, 2024-05-25/06-01）
国際甲殻カイアシ学会大会参加（広島国際会議場, 2024-06-01/07）
河村 真理子 The 18th International Jellyfish Workshop へ参加（新潟市, 朱鷺メッセ国際コンベンションセンター, 2024-12-10/12）
後藤 龍太郎 Asian Marine Biology Symposium へ参加（タイ バンコク, 2024-10-27/30）
オーストラリア軟体動物学会（オーストラリア パース, 西オーストラリア州立図書館, 2024-11-23/30）
山守 瑠奈 Asian Marine Biology Symposium へ参加（タイ バンコク, 2024-10-28/31）

◆海外調査

森林生態系部門

- 館野 隆之輔 科研に関連した調査、実験前処理、研究打ち合わせ（水土保持研究所杜盛教授）（中国 陝西省, 中国科学院水土保持研究所、延安市公路山試験地, 2024-07-25/08-02）
当該研究課題に関する試験地の設定準備、実験準備、研究打ち合わせ（中国 西南大学（重慶市）, 金佛山国家野外ステーション 西南大学（重慶市）, 2025-02-21/25）
張 曼青 生活状況、村落共同体の機能変化についての現地調査（中国 安徽省蕪湖市, 安徽省蕪湖市農村地域, 2024-05-29/06-03）
生活組織、および民間信仰の歴史と継承に関する聞き取り調査（中国 安徽省蕪湖市, 安徽省蕪湖市農村地域, 2024-09-28/10-05）
生活組織および民間信仰の歴史と継承に関する聞き取り調査（中国 安徽省蕪湖市, 安徽省蕪湖市農村地域, 2025-01-31/02-10）
駒井 幸雄 調査打合せ及び河川調査（インドネシア, パランカラヤ大学, 2024-11-22/26）

海洋生態系部門

- 三田村 啓理 東南アジアの魚類生態に関する研究及びバンコク連絡事務所の管理業務（タイ, 東南アジア地域研究研究所バンコク連絡事務所, 2024-04-18/05-10, 05-17/06-14, 06-21/07-06）
市川 光太郎 現地調査に関する打ち合わせ（タイ プーケット, トラン, ラジャマンガラ工科大学他, 2024-08-31/09-04）
ドローンによるジュゴンの航空目視調査（タイ, プーケット海洋生物海洋学センターおよびタリボン島, 2024-10-16/11-01）
25th Biennial Conference on the Biology of Marine Mammals に出席し、当該プロジェクトにかかる研究発表を行うとともに情報収集を行う（オーストラリア パース, 2024-11-08/17）
ドローン及び水中音録音機によるジュゴンの行動調査（タイ, プーケット海洋生物海洋学センター, 2025-02-26/03-10）

◆在外研究

海洋生態系部門

- 山守 瑠奈 携巣性環形動物の分類に関する標本調査・共同研究外（ノルウェー, University Museum of Bergen, 2024-09-30/10-27）

◆招へい外国人学者

海洋生態系部門

- ALDEA, Kristian Quintal（アルデア クリスチャン クインタル）フィリピン, カタンドゥアネス州立大学 Catanduanes State University, Associate Professor, 2024-06-06/19（受け入れ教員：邊見 由美）

◆その他出張研修

里域生態系部門

益田玲爾 第25回日中韓環境教育ネットワークにおいて講演 "Impact of warming water off Kyoto detected in underwater visual census" (けいはんなプラザ, 2024-10-28)

◆留学生

森林生態系部門

Zahra Salman 国費留学生 (アラブ首長国連邦 UAE), 舘野 隆之輔, 地球環境学舎D1)

韓雨彤 私費留学生 (中国, 舘野 隆之輔, フィールド研研究生)

Nay Lin Maung 国費留学生 (ミャンマー, 徳地 直子, 農学研究科森林科学専攻D3)

李 英帥 Li Yingshuai 私費留学生 (中国, 徳地 直子, 農学研究科森林科学専攻M2)

里域生態系部門

Chaitanya Bhandare 私費留学生 (インド, 益田 玲爾, 農学研究科D3)

劉 瑾妍 私費留学生 (中国, 益田 玲爾, 農学研究科M2)

Hunter Harter Godfrey 私費留学生 (アメリカ合衆国, 益田 玲爾, 農学研究科D1)

Lu Hongtao 私費留学生 (中国, 益田 玲爾, 農学研究科M1)

海洋生態系部門

張家齊 Cheung Ka Chai 私費留学生 (中国, 下村 通誉, 理学研究科基礎海洋生物学 M2)

Theo Ward 私費留学生 (アイルランド 下村 通誉, 理学研究科基礎海洋生物学 M1)

(6) 研修参加・資格取得等

◆職員研修 (学外)

総合技術研究会 2025

開催日時・場所 2025年3月5-7日 筑波大学

参加者 中村 はる奈・山内 洋紀・武藤 岳人

北海道東北地区大学演習林等技術職員研修

開催日時・場所 2024年10月8-10日 京都大学フィールド研北海道研究林標茶区

参加者 研修参加者はなし

関東甲信越地区農学部附属演習林技術職員研修

開催日時・場所 2024年10月30日-11月1日 宇都宮大学農学部附属演習林舟生演習林

参加者 細見 純嗣

東海地区大学演習林等演習林技術職員研修

開催日時・場所 2024年11月20-22日 三重大学大学院生物資源学研究所

参加者 永井 貴大

第49 回国立大学法人臨海・臨湖実験所・センター技術職員研修会議

開催日時・場所 2024年10月30日-11月1日 新潟大学佐渡自然共生科学センター臨海実験所

参加者 原田 桂太・武藤 岳人

文部科学省 情報システム統一研修

A I リテラシー/A I 研修 (最新の動向等) 【共通】 (eラーニング)

原田 桂太

データ分析技法 (マクロ・VBAの基礎) (eラーニング)

原田 桂太

◆職員研修 (学内)

京都大学技術職員研修 第49回: 桂キャンパス

2024年9月26, 27日 山中 公 (講師)

京都大学技術職員研修: スキルアップ研修:

安全体感教育研修: 関電プラント株式会社テクノセンター (兵庫県三田市)

2025年1月14日 岸本 泰典・柴田 泰征・太田 健一・勝山 智憲

2025年2月27日 向 昌宏・北川 陽一郎・山中 公・細見 純嗣・藤井 弘明

京都大学技術職員専門研修（第1専門技術群：工作・運転系）：舞鶴水産実験所（京都府舞鶴市長浜）
2025年2月18日 武藤 岳人・山本 恒紀・中村 はる奈・宮城 祐太・荒井 亮・藤井 弘明・柴田 泰征・大橋 健太・小倉 良仁・向 昌宏

京都大学技術職員専門研修（第2専門技術群：システム・計測系）：兵庫県立広域防災センター（兵庫県三木市）
2025年2月14日 西岡 裕平・岸本 泰典・長谷川 敦史

京都大学技術職員専門研修（第4専門技術群：生物・生態系）：武田薬品 京都薬用植物園（京都市左京区）
2024年9月19日 加藤 哲哉・山内 洋紀・勝山 智憲・山中 公・岸本 泰典・紺野 絡・大橋 健太・荒井 亮・藤井 弘明

京都大学技術職員研修（第6専門技術群：情報系）：基礎物理学研究所・数理解析研究所・桂キャンパス
2024年9月13日 榎田 盤・中村 はる奈

（京都大学パソコン研修（OAスキル研修）は、今年度該当案件なし）

◆免許・資格等の取得・安全衛生に関する講習会等

第一種中型自動車免許	細見 純嗣	（道路交通法に基づく国家資格）
第三種電気主任技術者	武藤 岳人	（電気工事士法に基づく国家資格）
自由研削といし取替試運転作業者特別教育	加藤 哲哉	
機械集材装置の運転の業務に係る特別教育	荒井 亮・大橋 健太（以上、労働安全衛生法に基づく特別教育）	
丸のこ等取扱作業者安全衛生教育	加藤 哲哉・山内 洋紀・武藤 岳人	（労働安全衛生法の通達に基づく教育）
危険物取扱者保安講習（乙種第4類）	西岡 裕平・荒井 亮・上西 久哉・中川 智之・勝山 智憲・宮城 祐太・山中 公・太田 健一・奥田 賢・林 大輔	（消防法に基づく講習）
無人航空機操縦講習プロフェッショナルコース	北川 陽一郎・西岡 裕平・荒井 亮	（民間団体によるドローン講習）

5. 資料

(1) 職員配置表

2025年 1月 1日現在

区分	教授	准教授	講師	助教	事務職員	専門職（技術）	非常勤職員等
流動分野研究室	三田村啓理 ◆山下 洋 ◆荒井 修亮	市川光太郎		小林 志保 ▲(兼担)高木 淳一 *倭 千晶			野田 琢嗣 山下 洋 寺西 満美
研究室（北部構内）	徳地 直子 ■館野隆之輔 ▲吉川左紀子 ▲吉岡 崇仁	伊勢 武史 長谷川尚史 *佐藤 弥 *赤石 大輔	坂野上なお (研究員) ▲◆田中 拓弥	◆張 曼青 (研究員) ▲◆横部 智浩 * Bao Sarina *石丸 香苗 *酒井 佳美 *山下 直子 *法理 樹里			川崎 茜 駒井 幸雄 吉川左紀子 池端 建吾 萩原 幹花 森川 一美
企画情報室	(室長) 三田村 啓理	(副室長) 長谷川尚史				●榎田 盤 ○中村はる奈	
森里海連環学 プロジェクト支援室	(室長) 徳地 直子 (副室長) 益田 玲爾					(兼)○向 昌宏	
事務室					(課長補佐) 松原 努 (掛長) 川俣 昭		山本みゆき 野村真由美
森林フィールド管理部門						▽○◎境 慎二郎	
里域フィールド管理部門						▽○藤井 弘明	
水域フィールド管理部門						△◎加藤 哲哉	
芦生研究林		(研究林長) 石原 正恵	松岡 俊将 ★坂野上なお	鈴木 華実	(掛長) ★(兼)川俣 昭 (主任) 四方 聡	●勝山 智憲 ○細見 純嗣 ○太田 健一 ○北川陽一郎 西岡 裕平 山中 公祐 宮城 祐太	中野 莉緒
北海道研究林		(研究林長) 小林 和也		杉山 賢子	(掛長) 若林潤一郎 安井 正	[標茶区] ●岡部 芳彦 ●奥田 賢 林 大輔 古田 卓 木本 惠周 永井 貴大 橋本 晋太	川村由紀枝 渡邊 紗織
和歌山研究林	(研究林長) ★徳地 直子 ★館野隆之輔	★長谷川尚史				●中川 智之 ●上西 久哉	
上賀茂試験地	★館野隆之輔		(試験地長) ★坂野上なお	中西 麻美		●紺野 絡 ●大橋 健太 ○荒井 亮 ○岸本 泰典 長谷川敦史 (再)山内 隆之	橋田理也子 南 ゆう
徳山試験地	(試験地長) ★徳地 直子					(兼)▽●境 慎二郎	徳原 典子 石丸美由希
北白川試験地	(試験地長) 館野 隆之輔					(兼)●藤井 弘明 ●柴田 泰征 吉岡 歩	
紀伊大島実験所		(実験所長) △伊勢 武史					
舞鶴水産実験所	(実験所長) □益田 玲爾	甲斐 嘉晃		鈴木 啓太 邊見 由美 (研究員) ▲◆八柳 哲	(専門職員) 林 優作	●向 昌宏 ○小倉 良仁	荻野 文代 潮見 美咲 山下みどり
瀬戸臨海実験所	(実験所長) 下村 通誉 ▲朝倉 彰	中野 智之	◆河村真理子	後藤龍太郎 山守 瑠奈	(掛長) 白石 大作 (主任) 横山 隆一 上木原昭子 瀧口 奈央	(兼)●加藤 哲哉 ○山内 洋紀 ○山本 恒紀 ○原田 桂太 武藤 岳人	興田 道子 寺本 律子 朝倉 彰

■センター長 □副センター長 *連携教員・研究員 ◆特定有期雇用教職員 ▲特任教員 ◎技術室長 ○技術室長補佐 ●技術係長 ○技術主任
勤務地：★京都 ▽北白川試験地 △瀬戸臨海実験所 (兼) 兼務 (再) 再雇用

(2) 常設委員会名称および委員一覧

2024年4月1日現在

将来構想企画委員会	○館野・徳地・益田・下村・三田村
教育研究評価（自己点検評価）委員会	○館野・徳地・益田・下村・三田村
施設・設備整備委員会	○館野・徳地・益田・下村・三田村
教育プログラム委員会	○下村・長谷川・中西・邊見
研究プログラム委員会	○三田村・小林（和也）・市川・後藤
広報委員会	○徳地・中野・山守・杉山・中西・鈴木・小林（志保）・松岡・槇田
人権問題対策検討委員会	○館野・益田・館野・徳地・三田村・フィールド研事務長
情報セキュリティ委員会	○館野・三田村・鈴木（部局情報セキュリティ技術責任者）・長谷川・槇田
社会連携委員会	○市川・長谷川・松岡・邊見・後藤
国際委員会	○三田村・益田・伊勢・山守
労働安全衛生委員会	○徳地・坂野上・甲斐・下村・向・技術長・事務室長
教育研究組織改革検討ワーキンググループ	○館野・益田・徳地・三田村・中野・小林（和也）・甲斐・石原
放射線障害防止委員会	○益田・甲斐（エックス線作業主任者）・徳地・中野
公用車管理委員会	○三田村・伊勢・市川・長谷川
芦生研究林基金運営委員会	○館野・徳地・松岡・石原・坂野上・フィールド研事務長
図書委員会	○伊勢・杉山・後藤・坂野上・鈴木
動物実験委員会	○益田・館野・小林（和也）・下村・中野・邊見・原田
教員業績評価委員会	○館野・徳地・益田・下村・三田村

（○は、委員長）

（役職指定）

危機管理委員会	全教授・各施設長・技術長
技術職員のあり方検討委員会	専任教授（流動分野を除く）・技術長・ （事務部）フィールド研事務長・フィールド研事務室長・ 総務課課長補佐（総務・人事担当）・総務課人事掛長

(3) 全学委員会等

2024年4月1日現在

<部局長が対応する委員会>

教育研究評議会	地球環境学堂・学舎 協議会	総合技術部 委員会
研究資源アーカイブ運営委員会	情報セキュリティ委員会	研究連携基盤運営委員会
野生動物研究センター連携協議会	情報環境機構協議委員会	

<他の教員が対応する委員会>

総合博物館運営委員会	益田
図書館協議員	舘野
	舘野
大学評価委員会 点検・評価実行委員会	徳地
学生の安全対策検討WG委員	徳地
組換えDNA実験安全委員会	甲斐
吉田キャンパス整備専門委員会	(随時指名)
化学物質専門委員会	徳地
国際戦略本部国際化推進懇談会	伊勢
動物実験委員会	益田
広報委員会委員 (附置話し合い)	徳地
農学研究科 建築委員会オブザーバー	徳地
農学研究科 (北部) 総合研究棟ワーキンググループ	尾田・松原
農学研究科 防火・防災委員会	伊勢
農学研究科 省エネルギー小委員会 (環境・安全・衛生委員会)	小林 (志保)
北部構内 交通委員会	市川
北部構内 化学物質責任者	徳地
ハラスメント相談窓口	益田・坂野上・小林 (志保)・加藤・松原
<学系会議>	
生態フィールド学系会議 (海洋生物環境学分野除く講師以上)	
生態フィールド学系長	木庭 啓介 (生態学研究センター)
応用生物学系会議 (海洋生物環境学分野教授)	
応用生物学系長	澤山 茂樹 (農学研究科)

(4) 運営委員会

2024年4月1日現在

区分	氏名	所属・職名
1号	舘野 隆之輔	フィールド研 センター長
2号	益田 玲爾	フィールド研 教授
	徳地 直子	フィールド研 教授
	三田村 啓理	フィールド研 教授
	下村 通誉	フィールド研 教授
3号	田村 実	理学研究科 教授
	小野田 雄介	農学研究科 教授
	深町 加津枝	地球環境学堂 准教授
	木庭 啓介	生態学研究センター 教授
	村上 由美子	総合博物館 准教授
	石川 登	東南アジア地域研究研究所 教授

(5) 協議委員会

2024年4月1日現在

区分	氏名	所属・職名	備考
1号	舘野 隆之輔	フィールド研 センター長	
2号	益田 玲爾	フィールド研 教授	
	徳地 直子	フィールド研 教授	
	三田村 啓理	フィールド研 教授	
	下村 通誉	フィールド研 教授	
3号	田中 耕一郎	理学研究科 教授	理学研究科長
	森 哲	理学研究科 教授	
	田尾 龍太郎	農学研究科 教授	農学研究科長
	那須田 周平	農学研究科 教授	農学研究科附属農場長
	田中 千尋	地球環境学堂 教授	地球環境学堂長
	中村 裕一	学術情報メディアセンター 教授	
	中野 伸一	生態学研究センター 教授	生態学研究センター長
	永益 英敏	総合博物館 教授	

(6) 教育関係共同利用拠点運営委員会

舞鶴水産実験所共同利用運営委員会

2024年4月1日現在

区分	氏名	所属・職名
1号	館野 隆之輔	フィールド研 センター長
2号	益田 玲爾	フィールド研 教授 (舞鶴水産実験所長)
3号	徳地 直子	フィールド研 教授
4号	小林 志保	フィールド研 助教
5号	塩尻 かおり	龍谷大学 農学部 准教授
	Jean Tanangonan	近畿大学 農学部環境管理学科 講師
	白山 義久	国立研究開発法人 海洋研究開発機構 科学アドバイザー
	富永 修	福井県立大学 海洋生物資源学部 特命教授
	仲岡 雅裕	北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター 教授
	三宅 崇	岐阜大学 教育学部 教授

瀬戸臨海実験所共同利用運営委員会

2024年4月1日現在

区分	氏名	所属・職名
1号	館野 隆之輔	フィールド研 センター長
2号	下村 通誉	フィールド研 教授 (瀬戸臨海実験所長)
3号	徳地 直子	フィールド研 教授
4号	渡辺 勝敏	京都大学 理学研究科教授
5号	仲岡 雅裕	北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター 教授
	遊佐 陽一	奈良女子大学 研究院自然科学系生物科学領域 教授
	長里 千香子	北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター 教授
	川井 浩史	神戸大学 内海域環境教育研究センター 特命教授
	深見 裕伸	宮崎大学 農学部 教授
	白山 義久	国立研究開発法人 海洋研究開発機構 科学アドバイザー

芦生研究林・北海道研究林・上賀茂試験地共同利用運営委員会

2024年4月1日現在

区分	氏名	所属・職名
1号	館野 隆之輔	フィールド研 センター長
2号	石原 正恵	フィールド研 准教授 (芦生研究林長)
	小林 和也	フィールド研 准教授 (北海道研究林長)
	坂野上 なお	フィールド研 講師 (上賀茂試験地長)
3号	徳地 直子	フィールド研 教授
4号	檀浦 正子	京都大学大学院 農学研究科 准教授
5号	平山 貴美子	京都府立大学大学院 生命環境学研究科 准教授
	赤石 大輔	大阪産業大学 デザイン工学部 准教授
	藤井 芳一	人間環境大学 人間環境学部教授
	保原 達	酪農学園大学 教授
	小林 元	信州大学 農学部附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター 准教授
	高木 正博	宮崎大学 農学部附属フィールド科学教育研究センター田野フィールド 教授

(7)新聞・雑誌等に掲載された記事

センターに関する記事

年月日	掲載面	掲載紙	タイトル	内容・キーワード等
2024年5月30日	9面	紀伊民報	アオリユゼツラン 巨大なアスパラのよう 花芽2本並んで伸びる	白浜水族館
2024年6月9日	20面	京都新聞(丹波版)	希少植物を「域外保全」京大芦生研究林など栽培 シカ食害で絶滅恐れ 人材・資金など仕組み構築課題	芦生研究林
2024年6月16日	9面	紀伊民報	オリジナル缶バッジ 18日から配布 京大白浜水族館	白浜水族館
2024年6月17日	20面	京都新聞(丹波A版)	生態系保全へ 外来種を駆除 南丹・京大芦生研究林	芦生研究林
2024年6月27日	9面	紀伊民報	イカの産卵床作る 白浜アドベン バンダ食べ残しの竹	白浜水族館
2024年6月27日	21面	毎日新聞 和歌山	アオリイカ:バンダが食べ残した竹、今年も有効活用 アオリイカの産卵床設置 白浜・AW	白浜水族館
2024年6月28日	17面	朝日新聞 和歌山県版	イカ産卵床、今年もイカが? 伊古木漁港に60基予定 アドベンチャーワールド	白浜水族館
2024年7月	p.6-7	京都大学業務支援室ニューズレター「TU・NA・GA・RU」第5号	フィールド科学教育研究センター上賀茂試験地の視察	上賀茂試験地
2024年7月13日	11面	紀伊民報	環境大臣表彰を受賞 白浜 島島海岸調査グループ	瀬戸臨海実験所
2024年7月18日	17面	京都新聞(丹波版)	京大芦生研究林 資料館が改装オープン 山歩き以上の気づき、展示	芦生研究林
2024年7月25日	1面	紀伊民報	白浜 京大水族館で2本開花 数十年に一度 アオリユゼツラン	白浜水族館
2024年7月31日	9面	紀伊民報	アオリイカの卵展示 京大白浜水族館 バンダ食べ残し竹に産卵	白浜水族館
2024年7月31日	24面	読売新聞(和歌山版)	イカベビー 観察いかが? 京大白浜水族館に産卵床=和歌山	白浜水族館
2024年8月2日	18面	京都新聞(丹波版)	子ら、カニ・エビ捕まえた 舞鶴で生き物観察会	舞鶴水産実験所
2024年8月2日	23面	朝日新聞(和歌山全県版)	竹の葉から赤ちゃんイカ 産卵床、京大白浜水族館で展示 /和歌山県	白浜水族館
2024年9月	p.32	京都大学環境報告書2024	京大ウィークス2023として 2023年7月22日(土)~11月18日(土)全国各地26施設が公開イベントを行いました	フィールド研
2024年9月5日	9面	日本農業新聞	[業界便り]里山土壌調査の協力者募集 京都大など	フィールド研
2024年9月14日	3面	毎日新聞(夕刊)	海中で輝く生き物たち	白浜水族館
2024年9月25日	11面	紀伊民報	京大実験所の見学会 10月19日、白浜	瀬戸臨海実験所
2024年10月	p.2-3	京都大学業務支援室ニューズレター「TU・NA・GA・RU」第6号	特集:「京大らしい仕事」:研究補助	フィールド研
2024年10月21日	22面	京都新聞	森の生物住む世界探検 北区・京大試験地自然観察会 子どもたち動植物見つけ学ぶ	上賀茂試験地
2024年12月1日	9面	紀伊民報	オリジナルグッズ贈呈 熊楠記念館と京大水族館 両館に同日入館で	白浜水族館
2024年12月8日	6面	紀伊民報	知の扉 探求心を刺激する「知の館」への誘い 多様な生命の世界に 京大白浜水族館	白浜水族館
2024年12月29日	7面	紀伊民報	卓上カレンダー配布 31日~1月9日 京大白浜水族館	白浜水族館
2025年1月	No.227	広報白浜	白いウミヘビ(モヨウモンガラドオシ)	白浜水族館
2025年1月1日	p.10-11	山つくり 令和6年度/釧路・根室地域版	北海道研究林と森里海連環学の紹介	小林和也
2025年1月25日	p.6100	京大広報 778号	令和6年度総長杯ボウリング大会を開催	フィールド研
2025年1月28日	18面	京都新聞(丹波版)	美山の魅力継承へ 児童と住民考える 美山小「棚野の千両まつり」など	芦生研究林
2025年2月1日	p.12	わかやま探検ミュージアム 2・3月号	巳年の生き物、ウミヘビ科のモヨウモンガラドオシ	白浜水族館
2025年2月10日	p.17	文教ニュース 第2840号	京都大学 パナソニックHDとの研究交流会	フィールド研
2025年2月12日	p.11	文教速報 第9502号	パナソニックHD(株)と京大フィールド研が研究交流会	フィールド研
2025年2月22日	24面	読売新聞 朝刊	[京大附置研シンポ] (4)みんなで「山の健康診断」徳地直子さん	附置研シンポ
2025年2月24日	6面	毎日新聞 東京朝刊	けいざいフラッシュ: SATOYAMAフォーラム イオン環境財団	新しい里山里海
2025年3月	p.10	きょうと生物多様性センターニューズレター 2号	令和6年度 活動トピックス 継承 キミもおちばの探検隊	上賀茂試験地
2025年3月2日	31面	読売新聞 西部朝刊	最先端の研究 中高生触れる 京大附置研シンポ 鹿児島で初開催=鹿児島	附置研シンポ
2025年3月15日	p.4	和歌山県立自然博物館 自然博物館便り 43(1)	有田川町で発見された和歌山県初記録の変形菌3種について	和歌山研究林

2025年3月18日	17面	京都新聞	「ゼンテイカ」育て守るよ 京大芦生研究林の希少種 美山小で「域外保全」	芦生研究林
2025年3月25日	p.6113	京大広報 779号	フィールド科学教育研究センターとパナソニック ホールディングス株式会社が、研究交流会を開催	フィールド研

教職員に関する記事

年月日	掲載面	掲載紙	タイトル	教職員
2024年9月19日	1面	京都新聞	京都沖海水温 最高25.6度 8月生態系への影響懸念 養殖死滅被害も 対馬暖流の渦発生か	益田玲爾教授
2025年1月1日	104号	NII Today(国立情報学研究所 ニュース)	研究データ基盤活用の先駆を目指して	徳地直子教授
2025年3月30日	26、27面	読売新聞	京都大学附置研・センター第20回シンポ 京都からの挑戦—地球社会の調和ある共存に向けて 森林生態系の物質循環と私たちの暮らし 科学と市民 未来を「協創」	
2025年3月30日	20面	京都新聞(洛西版)	里山の生物多様性 質と量の劣化懸念 長岡京で講演会	
2025年3月1日	p.9	きょうと生物多様性センターニュースレター 2号	令和6年度 活動トピックス 利活用 森・里・街・川のつながりを結び、京都のみらいを紡ぐ 生物多様性に関する流域連携のキックオフ・フォーラム	館野隆之輔教授
2025年2月7日	p.122	Newton 2025.2月号	Nature View 野生動物の宝庫アマゾン 大河がはぐくむ熱帯多雨林の今	三田村啓理教授
2025年1月4日	1、7面	京都新聞	スズキ驚きの生態とは？特定の河川に対する固執行動や回帰確認、京大研究者ら超音波発信機付け由良川で調査	山下 洋特任教授 他
2024年9月	p.27	京都大学環境報告書2024	全学共通科目 少人数教育科目群ILASセミナー 森を育て活かす—林業体験をとおして考える	長谷川尚史准教授
2024年7月23日	p.28-36	『北桑時報』293号	芦生研究林長の美山日記2:変わりゆく大学の森の役割	石原正恵准教授
2024年5月27日	20面	京都新聞(丹波版)	口丹随想 豊かな森と人をつなぐ学び場	
2024年11月13日	24面	北海道新聞	希少鳥類 事故確率大幅増 道内31年間 交通量、個体増など 京大など解析	小林和也准教授
2024年11月13日	不明	陸奥新報	希少鳥類の交通事故 弘大研究グループ解析 道東で冬季に多発	
2025年1月9日	2025年2月号	子供の科学	海洋プラスチックが貝の防御行動を妨げる!?	中野智之准教授
2024年12月23日	1面	朝日新聞(夕刊)	羅臼沖の海 新種の宝庫 福島の水族館10年で15種発見	甲斐 嘉晃准教授
2024年6月6日	48号	京都府漁協だより	日本海のさかなの話～最新の魚類学研究から～「ウミタナゴのなかま」	
2024年7月31日	49号	京都府漁協だより	日本海のさかなの話～最新の魚類学研究から～「アユのなかま」	
2025年1月1日	50号	京都府漁協だより	日本海のさかなの話～最新の魚類学研究から～「マツダイのなかま」	
2025年3月21日	51号	京都府漁協だより	日本海のさかなの話～最新の魚類学研究から～「ホタルジャコのなかま」	
2024年5月8日	9面	紀伊民報	珍しいタコ見つけたよ 白浜で小学生「論文にまとめた」	中野智之准教授
2024年6月29日	9面	紀伊民報	会誌「南紀生物」発行 南紀生物同好会	後藤龍太郎助教、邊見由美助教
2024年12月31日	No.125	うみうし通信	有毒ウニに寄生・共生する生物たち	山守瑠奈助教
2024年9月24日	6面	京都新聞	魚類心理学者 高橋宏司さん 魚の心通じて探る人の心	高橋宏司元助教(現新潟大学准教授)

(8) テレビ・ラジオ等で放送された番組

年月日	放送局	番組名・内容等	キーワード・教職員等
2024年4月16日	FMビーチステーション	朝ナビ764・KINAN BOX スベスベマンジュウガニについて	白浜水族館・原田桂太
2024年4月19日	テレビ朝日放送	タモリステーション「日本の魚が変だ～いま、海に何が起きているのか～」	益田玲爾教授、白山義久名誉教授
2024年5月21日	FMビーチステーション	朝ナビ764・KINAN BOX サザエについて	白浜水族館・山内洋紀
2024年6月18日	FMビーチステーション	朝ナビ764・KINAN BOX オトヒメエビについて	白浜水族館・原田桂太
2024年6月26日	テレビ和歌山	6wakaイブニング「パンダ食べ残した竹 アオリイカ産卵床に 廃棄物を減らすとともに豊かな海を守る 和歌山県白浜町」	瀬戸臨海実験所、山守瑠奈助教
2024年7月9日	NHK総合テレビ・福島	ニュース ホシガレイと天敵カニなどに発信機をつけて放流 追跡調査へ	三田村啓理教授
2024年7月16日	FMビーチステーション	朝ナビ764・KINAN BOX アミメハギについて	白浜水族館・加藤哲哉
2024年7月26日	NHK総合テレビ・和歌山	ギュギュっと和歌山 (リュウゼツラン開花が紹介)	白浜水族館・加藤哲哉
2024年7月29日	テレビ和歌山	WTVニュース (アオリイカの卵展示が紹介)	山守瑠奈助教
2024年8月20日	FMビーチステーション	朝ナビ764・KINAN BOX キュウセンについて	白浜水族館・山内洋紀
2024年9月5日	南丹市ケーブルテレビ	とれたて新鮮！森の京都丹波っ！～ひと足伸ばせば京都丹波～シリーズ第1回	芦生研究林
2024年9月5日	WBS和歌山放送ラジオ田辺支局	やにこいラジオ昼いちばん！ 紀南リポート(水族館から生放送)	白浜水族館・加藤哲哉
2024年9月17日	FMビーチステーション	朝ナビ764・KINAN BOX オカヤドカリについて	白浜水族館・原田桂太
2024年10月9日	関西テレビ	世界の何だコレ!?ミステリー 視聴者撮影映像にコメント 今年5月！人気フッパが捉えた…ネス湖に潜む巨大生物ネッシー！	益田玲爾教授
2024年10月22日	FMビーチステーション	朝ナビ764・KINAN BOX マハゼについて	白浜水族館・山内洋紀
2024年10月23日	関西テレビ	世界の何だコレ!?ミステリー 視聴者撮影映像にコメント 海の上を動く黒い物体。港に浮かぶ謎の生物。海に突然飛び出て消える複数の黒い物体。	益田玲爾教授
2024年11月2日	NHK総合テレビ・関西	ほっと関西サタデー リベンジ！秋の白浜で思い出作り(白浜水族館が紹介)	白浜水族館・原田桂太
2024年11月19日	FMビーチステーション	朝ナビ764・KINAN BOX ハナウミシダについて	白浜水族館・加藤哲哉
2024年12月17日	FMビーチステーション	朝ナビ764・KINAN BOX イシガキフグについて	白浜水族館・原田桂太
2025年1月21日	FMビーチステーション	朝ナビ764・KINAN BOX コバンアジについて	白浜水族館・山内洋紀
2025年1月29日	関西テレビ	世界の何だコレ!?ミステリー 視聴者撮影映像にコメント 海水浴場にパニックになったマグロ。モデル歩きするタコ。	益田玲爾教授
2025年2月18日	FMビーチステーション	朝ナビ764・KINAN BOX オオカワリギンチャクについて	白浜水族館・加藤哲哉
2025年3月18日	FMビーチステーション	朝ナビ764・KINAN BOX シマアジについて	白浜水族館・加藤哲哉

(9)各施設利用者数

(2024年度)
(単位：人)

(所属) (目的)	京都大学					他大学				
	教育		研究		その他	教育		研究	その他	
	教職員等	学生	教職員等	学生		教職員等	学生			
芦生研究林	259	563	536	631	97	33	280	164	307	31
北海道研究林標茶区	211	512	1,314	95	23	42	247	32	17	1
北海道研究林白糠区	27	25	24	1	9	0	0	1	2	0
和歌山研究林	39	20	47	43	32	0	9	11	18	5
上賀茂試験地	330	361	260	143	60	53	448	122	96	0
徳山試験地	15	0	27	0	13	0	0	1	0	0
北白川試験地	53	517	692	1,169	43	3	41	31	55	8
紀伊大島実験所	6	9	44	10	28	3	9	6	26	0
舞鶴水産実験所	32	320	225	3,470	27	39	340	113	186	1
瀬戸臨海実験所	325	403	111	3,145	27	90	903	102	244	43
計	1,297	2,730	3,280	8,707	359	263	2,277	583	951	89

(所属) (目的)	研究教育機関等			一般			合計
	教育	研究	その他	教育	研究	その他	
芦生研究林	45	74	22	131	306	2,709	6,188
北海道研究林標茶区	2	11	14	15	46	42	2,624
北海道研究林白糠区	1	0	0	13	13	30	146
和歌山研究林	47	4	0	9	12	55	351
上賀茂試験地	23	56	107	494	161	238	2,952
徳山試験地	25	0	0	50	0	57	188
北白川試験地	42	28	3	20	162	50	2,917
紀伊大島実験所	47	0	0	0	4	1	193
舞鶴水産実験所	80	178	35	0	0	49	5,095
瀬戸臨海実験所	332	58	3	47	71	112,431	118,335
計	644	409	184	779	775	115,662	138,989

(10)瀬戸臨海実験所附属水族館 月別入館者数

(2024年度)
(単位：人)

月	有料入館者数							有料入館者 徴収金額計 (円)	無料 入館者 数	入館者 数 計	(参考) 前年度有料 入館者数計
	個人		団体		障害者		計				
	大人	小人	大人	小人	大人	小人					
4月	5,303	1,003	163	16	122	30	6,637	3,546,050	1,232	7,869	6,007
5月	6,483	932	286	23	138	34	7,896	4,317,950	1,699	9,595	7,248
6月	5,226	666	260	2	104	26	6,284	3,473,200	1,412	7,696	4,958
7月	7,706	1,792	275	105	148	55	10,081	5,238,650	2,304	12,385	9,247
8月	10,027	2,859	219	79	149	87	13,420	6,815,300	2,163	15,583	13,612
9月	6,681	788	248	3	150	28	7,898	4,389,750	1,871	9,769	7,179
10月	5,128	544	276	6	140	38	6,132	3,421,000	1,760	7,892	6,317
11月	5,592	546	411	14	180	41	6,784	3,797,700	1,668	8,452	5,818
12月	5,195	878	204	4	111	19	6,411	3,469,300	1,109	7,520	5,713
1月	5,390	833	88	10	123	39	6,483	3,524,000	1,089	7,572	6,346
2月	4,884	555	201	1	139	29	5,809	3,232,900	1,451	7,260	6,054
3月	7,331	1,210	327	26	165	70	9,129	4,925,600	1,690	10,819	9,109
計	74,946	12,606	2,958	289	1,669	496	92,964	50,151,400	19,448	112,412	87,608

(臨海実習等で実験所を利用した学生や教員、ならびに外来研究者等の来訪者は含まない。)

(11) 人事異動 (2024年度)

氏名	新職名	旧職名	異動年月日
舘野 隆之輔	センター長・北白川試験地長	副センター長	2024. 4. 1
益田 玲爾	副センター長		〃
下村 通誉	瀬戸臨海実験所長・教授	准教授	〃
伊勢 武史	紀伊大島実験所長・准教授	准教授	〃
坂野上 なお	上賀茂試験地長		〃
荒井 修亮	特任教授・名誉教授	名誉教授	〃
朝倉 彰	特任教授・名誉教授	センター長・瀬戸臨海実験所長・海洋生態系部門 基礎海洋生物学分野 教授	〃
田中 拓弥	特任講師・特定研究員 (新しい里山・里海 共創プロジェクト)	特定研究員 (新しい里山・里海 共創プロジェクト)	〃
八柳 哲	特任助教 (特定研究員) (新しい里山・里海 共創プロジェクト)	北海道大学	〃
高木 淳一	特任助教・教育協力教員 (プラットフォーム学卓越大学院 特定助教)		〃
Bao Sarina	連携研究員 (国立環境研究所 生物多様性領域 研究員)	海洋生態系部門 基礎海洋生物学分野 特任助教・特定研究員 (新しい里山・里海 共創プロジェクト)	〃
倭 千晶	連携研究員 (日本学術振興会 海外特別研究員: 海洋生物環境学分野)		〃
松原 努	事務室 課長補佐長	人事部職員育成課課長補佐 (大学コンソーシアム京都学生支援事業部次長)	〃
椿野 康弘	本部構内 (理系) 共通事務部企画戦略課 (総務調整掛) 再雇用職員	事務室長	〃
川俣 昭	事務室フィールド科学教育センター 経理総括掛長・芦生研究林事務掛長	総合博物館掛長 (事務掛)	〃
福島 慎吉	本部構内 (理系) 共通事務部経理課 (経理事務執行グループ) シニアスタッフ	事務室フィールド科学教育センター 経理総括掛長・芦生研究林事務掛長	〃
横山 隆一	瀬戸臨海実験所 事務主任	舞鶴水産実験所 事務職員	〃
林 優作	北部構内事務部 経理課 フィールド科学教育センター 経理総括掛舞鶴水産実験所 専門職員 (経理総括掛舞鶴水産実験所)	医学部附属病院 経理・調達課主任 (物流管理掛)	〃
安井 正	北海道研究林事務掛 シニアスタッフ	瀬戸臨海実験所事務掛 専門員	〃
濱口 奈央	瀬戸臨海実験所事務掛 支援職員	(採用)	〃
朝倉 彰	海洋生態系部門 海洋生物環境学分野 研究員		2024. 5. 1
牧野 奏佳香	森林生態系部門 森林育成学分野 研究員		〃
石丸 香苗	連携研究員	(福井県立大学 学術教養センター 教授)	2024. 6. 1
酒井 佳美	連携研究員	(森林研究整備機構 総合研究所 九州支所 地域研究監)	〃
山下 直子	連携研究員	(森林研究整備機構 総合研究所 関西支所 グループ長)	〃
法理 樹里	連携研究員	(農林水産省農林水産政策研究所 農業・農村領域 主任研究官)	〃
牧野 奏佳香	退職 (福井県立大学 助教へ異動)	森林生態系部門 森林育成学分野 研究員	2024. 6. 30

柴田 泰征	北白川試験地 技術班長 (技術専門員)	芦生研究林 技術班長 (技術専門員)	2024. 7. 1
岸本 泰典	上賀茂試験地 技術主任 (技術専門職員)	芦生研究林 技術主任 (技術専門職員)	2024. 7. 1
西岡 裕平	芦生研究林 技術職員	上賀茂試験地 技術職員	2024. 7. 1
山中 公	芦生研究林 技術職員	北白川試験地 技術職員	2024. 8. 1
永井 貴大	北海道研究林 技術職員	芦生研究林 技術職員	〃
柳本 順	退職	北海道研究林 技術主任	2024. 9. 30
鈴木 華実	森林生態系部門 森林育成学分野 助教		2024. 10. 1
境 慎二郎	技術室長	統括技術長・森林フィールド管理部門 技術長・徳山試験地技術班長 (技術専門員)	〃
藤井 弘明	技術室長補佐	里域フィールド管理部門 技術長・北白川試験地技術班長 (技術専門員)	〃
加藤 哲哉	技術室長補佐	水域フィールド管理部門 技術長・瀬戸臨海実験所 技術班長 (技術専門員)	〃
槇田 盤	企画情報室 技術係長	企画情報室 技術班長 (技術専門職員)	〃
岡部 芳彦	北海道研究林 技術係長	北海道研究林 技術班長 (技術専門職員)	〃
上西 久哉	和歌山研究林 技術係長	和歌山研究林 技術班長 (技術専門職員)	〃
紺野 絡	上賀茂試験地 技術係長	上賀茂試験地 技術班長 (技術専門職員)	〃
大橋 健太	上賀茂試験地 技術係長	上賀茂試験地 技術班長 (技術専門職員)	〃
奥田 賢	北海道研究林 技術係長	北海道研究林 技術班長 (技術専門職員)	〃
勝山 智憲	芦生研究林 技術係長	芦生研究林 技術班長 (技術専門職員)	〃
中川 智之	和歌山研究林 技術係長	和歌山研究林 技術班長 (技術専門員)	〃
柴田 泰征	北白川試験地 技術係長	北白川試験地 技術班長 (技術専門員)	〃
向 昌宏	舞鶴水産実験所 技術係長	舞鶴水産実験所 技術班長 (技術専門職員)	〃
荒井 亮	上賀茂試験地 技術主任	上賀茂試験地 技術主任 (技術専門職員)	〃
浅野 善和	和歌山研究林 技術主任	和歌山研究林 技術主任 (技術専門職員)	〃
岸本 泰典	上賀茂試験地 技術主任	上賀茂試験地 技術主任 (技術専門職員)	〃
山本 恒紀	瀬戸臨海実験所 技術主任	瀬戸臨海実験所 技術主任 (技術専門職員)	〃
中村 はる奈	企画情報室 技術主任	企画情報室 技術主任 (技術専門職員)	〃
太田 健一	芦生研究林 技術主任	芦生研究林 技術主任 (技術専門職員)	〃
原田 桂太	瀬戸臨海実験所 技術主任	瀬戸臨海実験所 技術主任 (技術専門職員)	〃
細見 純嗣	芦生研究林 技術主任	芦生研究林 技術主任 (技術専門職員)	〃
北川 陽一郎	芦生研究林 技術主任	芦生研究林 技術主任 (技術専門職員)	〃
小倉 良仁	舞鶴水産実験所 技術主任	舞鶴水産実験所 技術主任 (技術専門職員)	〃
山内 洋紀	瀬戸臨海実験所 技術主任	瀬戸臨海実験所 技術主任 (技術専門職員)	〃
吉岡 歩	北白川試験地 専門職 (技術)	北白川試験地 技術職員	〃
木本 恵周	北海道研究林 専門職 (技術)	北海道研究林 技術職員	〃
長谷川 敦史	上賀茂試験地 専門職 (技術)	上賀茂試験地 技術職員	〃
古田 卓	北海道研究林 専門職 (技術)	北海道研究林 技術職員	〃
武藤 岳人	瀬戸臨海実験所 専門職 (技術)	瀬戸臨海実験所 技術職員	〃
永井 貴大	北海道研究林 専門職 (技術)	北海道研究林 技術職員	〃

橋本 晋太	北海道研究林 専門職 (技術)	北海道研究林 技術職員	〃
林 大輔	北海道研究林 専門職 (技術)	北海道研究林 技術職員	〃
宮城 祐太	芦生研究林 専門職 (技術)	芦生研究林 技術職員	〃
西岡 裕平	芦生研究林 専門職 (技術)	芦生研究林 技術職員	〃
山中 公	芦生研究林 専門職 (技術)	芦生研究林 技術職員	〃
浅野 善和	退職	和歌山研究林 技術主任	2024. 12. 31
境 慎二郎	定年退職	技術室長	2025. 3. 31
上西 久哉	退職	和歌山研究林 技術係長	〃
山内 隆之	任期満了退職	上賀茂試験地 再雇用職員	〃

(13) 規程の改正等

フィールド科学教育研究センター海洋ステーション 瀬戸臨海実験所利用要項の改定 (2024年6月12日教授会で承認・2024年5月15日更新)

京都大学フィールド科学教育研究センター規程の改定 (研究科等の教育への協力を地球環境学堂を追加、京都大学事務組織規程の改正に伴い技術室を設置・2024年11月13日教授会で承認・2024年10月1日適用)

フィールド科学教育研究センター内部組織に関する内規の改定 (管理技術部を技術室に変更、教育研究支援管理部門の設置、管理部門長の設置、教育研究ステーションの設置、企画情報室と森里海連環学プロジェクト支援室の廃止・2025年3月12日教授会で承認・2025年4月1日適用)

京都大学フィールド科学教育研究センター 年報 第22号
2026年 1月30日発行

発行 京都大学フィールド科学教育研究センター
〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

印刷 株式会社北斗プリント社
〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町38-2

